

学部・研究科等の現況調査表

研 究

平成28年6月

東京芸術大学

目 次

1. 美術学部・美術研究科	1-1
2. 音楽学部・音楽研究科	2-1
3. 映像研究科	3-1

1. 美術学部・美術研究科

- I 美術学部・美術研究科の研究目的と特徴・1－2
- II 「研究の水準」の分析・判定　・・・・・・・・・1－4
 - 分析項目 I 研究活動の状況　・・・・・・・・・1－4
 - 分析項目 II 研究成果の状況　・・・・・・・・・1－23
- III 「質の向上度」の分析　・・・・・・・・・・1－27

I 美術学部・美術研究科の研究目的と特徴

東京芸術大学美術学部・美術研究科は、前身である東京美術学校の創設以来125年を超える歴史を持ち、我が国唯一の国立芸術大学として、美術分野における優れた作家・研究者の養成と美術作品の創作研究活動を使命とし、これまで世界的なレベルの作家・研究者を輩出し、数多の美術展や研究誌において作品や研究成果を発表し続け、我国の美術界における指導的役割を果たしてきた。

いうまでもなく、美術領域の研究機関において最も重要なのは、その本質として個人の指向性と意志に基づく自由な創作研究活動である。本学部・研究科の教員の創作・研究活動は、その多様性と深さにおいて、我が国の美術分野の基盤を形成してきた。

本学部・研究科は、こうした教員個人としての多様な創作研究活動を尊重するとともに、芸術活動による地域社会への貢献などを基軸とした組織的な創作研究活動を展開することにより、我が国の美術分野の発展と芸術文化の振興に資することを研究目的としている。

また、本学部・研究科は、これまでに培われてきた日本美術の伝統を継承していくとともに、新しい芸術の先導役となること、芸術による地域振興や感性を生かしたものづくりへの積極的貢献など、多様な期待を多方面(美術愛好者など美術に関心を寄せる人々だけでなく、自治体や企業等)から受けている。

本学部・研究科は、絵画(日本画・油画)・彫刻・工芸・デザイン・建築・先端芸術表現・芸術学・文化財保存学(本専攻は大学院独立専攻)の研究領域で編成されており、上述した研究目的の具現化と多方面からの期待に応えるため、以下に記す4つの柱を中心に、時代とともに多様化している近年の芸術表現全般を視野において、創作研究活動を展開している。

1 未来への創作・研究活動の新たな展開

美術領域の研究機関において最も重要なのは、個人の指向性と意志に基づく自由な創作研究活動である。これは、これまで蓄積してきた伝統や遺産を継承しつつも、未来を指向する新たな表現方法を確認し、新たな理論を生み出そうとする試みであり、美術の本質的な特徴でもある。こうした創作研究活動のうち、美術作品の創作に関する本学部・研究科における活動は、その多様性と深さにおいて、国内外の様々な機関から高い評価を得ているものと自認している。また、研究分野においても、美術領域という特性から、創作や保存に資するような芸術理論・歴史研究あるいは技法に関する基礎的研究を重視している。

2 芸術活動による地域社会への積極的貢献

現代の美術においては、創作物の社会への還元が強く求められている。また、前記した個人の創作活動においても、その根源において広く社会に開かれた視点が求められている。こうした認識の下、本学部・研究科では、地域社会への積極的貢献を行う創作研究活動を重要視している。これは、単に作品の公開展示による社会への貢献にとどまらず、地域の伝統産業との共同作業による創作活動、あるいは地域住民の直接参加によるワークショップの開催など多様な側面を持つものを積極的に開催し、新たな文化作り的一端に貢献する。

3 異分野との融合による新しい芸術手法への挑戦

美術の領域では、絵画・彫刻・工芸・デザイン・建築など、既に確立された分野が存在している。その分野内で蓄積されてきた技術や技法の継承も重要であるが、これに加えて分野の垣根を越えた横断的な取り組みも重要である。中でも、美術という領域以外の様々な異分野の知見、特に発展著しい科学技術・生産技術の成果を取り込んで新たな展開を志

向することは急務の課題であると考えている。そこで、異分野との融合による新しい芸術表現や研究手法の創出をめざして、工学や医学などの他分野との協働を積極的に行う。

4 先端技術を用いた新しい文化財保存・修復の実践

人類共通の財産である文化財の保存・修復は、新たな創作活動と並ぶ本研究科の重要な柱である。文化財の保存・修復においては、伝統的な技法を重視することが基本であるが、最新の科学技術を積極的に取り入れ、素材や物理的な形状を分析や解析を行ない、現代では失われ忘れ去られた技法の復原、劣化した部分の再現、新たな表現技法の模索、修復材料や修復技法の創生、文化財保存に有益な保存環境の提言など実践的な立場から研究を行う。

以上述べてきたように、芸術のなかの美術という括りであるが、その活動の領域は幅広く、多岐にわたっている。また、研究により得られた成果は学会、研究会はもとより各種外部機関で発表するなどして、その成果は社会へ広く還元されている。それと同時に、社会からのさまざまな評価を踏まえて新たな活動をおこなっている。なお、本学部・研究科の創作・研究活動は、アトリエ等での活動を共有することで、大学院生を中心とした学生への教育活動とリアルタイムで連動していることを強調しておきたい。

[想定する関係者とその期待]

上述したとおり、本学部・研究科の研究目的は、我が国の美術分野の発展と芸術文化の振興に資するための創作研究活動であり、想定される関係者は、美術愛好者から美術領域と関連する企業や公共機関、芸術文化による恩恵を受ける国民全体までと多岐にわたる。唯一の国立芸術大学として、また、歴史と伝統を持つ学部・研究科として、新しい芸術作品の創造発表、伝統文化の継承、ひいては芸術文化による我が国の振興が期待されている。

II 「研究の水準」の分析・判定

分析項目 I 研究活動の状況

観点 研究活動の状況

(観点に係る状況)

美術学部は、絵画(日本画・油画)・彫刻・工芸・デザイン・建築・芸術学・先端芸術表現の7科から構成され、学部附属教育研究施設として古美術研究施設及び写真センターを有している。また、美術研究科は独立専攻である文化財保存学専攻を加えた8専攻からなる(資料1-1参照)。本学部・研究科の研究組織は、美術の諸領域をカバーしていること、特に日本画や工芸といった主に日本の伝統的造形芸術に関する知識や技術を専門的に行う学科から、技術等の進歩によって新しく生まれた表現や「美術」の分野を超える領域横断的分野の先端芸術表現専攻、さらに、人類共通の貴重な財産である美術工芸品をはじめとする文化財の保存や修復に関する研究や伝統技法の研究などを総合的に行う文化財保存学を設けていることが特徴である(資料1-2参照)。この文化財保存学専攻において、文化財を後世へ伝えるために、保存修復技術の研究やその基礎となる保存科学とが有機的に結合し、美術の諸領域とも連携しながら研究を進めていることも本学部・研究科の特徴と言える。

資料1-1 学部と研究科の関係

美術学部	美術研究科	
	(修士課程)	(博士後期課程)
絵画科	絵画専攻	美術専攻
彫刻科	彫刻専攻	
工芸科	工芸専攻	
デザイン科	デザイン専攻	
建築科	建築専攻	
先端芸術表現科	先端芸術表現専攻	
芸術学科	芸術学専攻	
	文化財保存学専攻	文化財保存学専攻

資料1-2 専任教員の専門分野

学科・専攻等	専任教員の専門分野
絵画	日本画, 油画, 版画, 壁画, 油画技法材料
彫刻	石彫, 木彫, 金属, 彫塑
工芸	彫金, 鍍金, 鍛金, 漆芸, 陶芸, 染織, 木工芸, ガラス造形
デザイン	視覚・演出, 視覚・伝達, 視覚・構成, 空間・演出, 空間・設計, 機能・演出, 機能・設計, 映像・画像, 環境・設計, 描画・装飾造形
建築	建築設計, 構造計画, 環境設計, 建築理論
先端芸術表現	地域と芸術, 言語と身体, 科学技術と表現, 素材と創造性
芸術学	美学, 工芸史, 西洋美術史, 日本・東洋美術史, 美術教育, 美術解剖学
文化財保存学	保存修復, 保存科学, システム保存学
附属古美術研究施設	日本・東洋美術史
附属写真センター	写真

美術分野という特性上、本学部・研究科における創作研究活動の基盤は、個展や論文発表など旺盛な個人の創作研究活動にあり(下記,資料1-5,1-6及び研究業績説明書参照),その原資となる科研費や受託研究・受託事業等は近年増加の傾向にある(資料1-7～1-10(P.1-10～1-14)参照)。そうした創作研究活動は、各教員が運営する研究室の活動をベースに、必要に応じて研究室を超えて専攻内や専攻間で横断的に連携して研究を推進している。また、研究においては共有のアトリエや工房を使用する形態をとる場合もある。ここで各教員は自らの創作研究活動を行ないながら、そこに大学院生等も参加し、全体として学部・研究科としてのまとまった大きな創作研究活動となり、それとともに、創作研究活動の質をより高めつつ、同時に大きな教育的効果も期待できることになる。

特筆すべき研究例としては、実技的研究を通してデジタル技術と日本画等の伝統技法を融合した新技術を開発し、「質感を表現した素材の製造方法及び絵画の製作方法、質感を表現した素材及び絵画、建築用材料」の特許取得に至ったものが挙げられる(研究業績説明書業績番号13)。この技術の利用により、移動や公開することの難しい貴重な美術作品や失われてしまった文化財等を、和紙・板・絹等素材を選ばずに高精細で複製し、質感までも再現する「クローン文化財」として制作でき、多くの文化施設や展覧会において公開・展示することが可能となった。

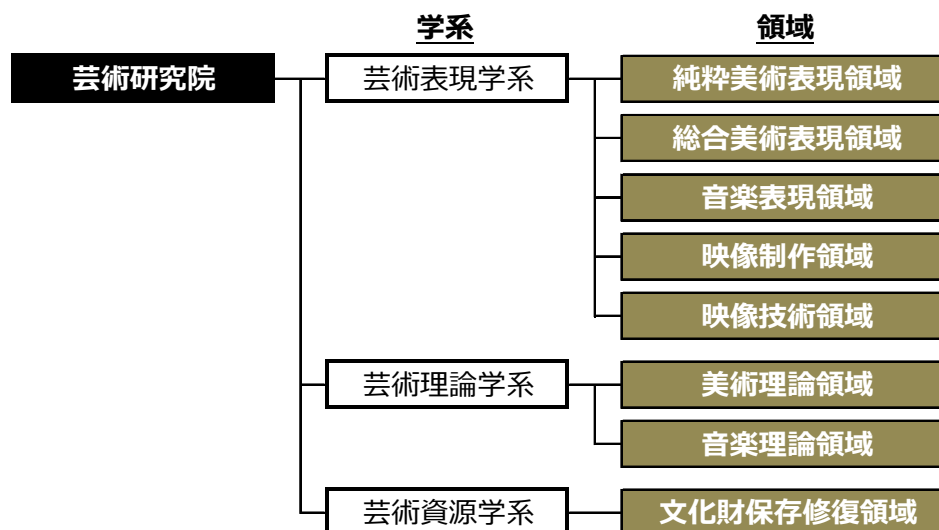
しかしながら、大学における研究活動はややもすると研究室単位の閉ざされた状況をまねかかねない。この課題を打破するために、本学部・研究科ではこれまでも分野・領域の枠を越えた試みを行ってきた(資料1-11(P.1-14～1-18)参照)。特に、平成22年度から平成24年度のまでの間に実施した「藝大(G)、台東(T)、墨田(S)観光アートプロジェクト」では、横断的かつ複合的な研究プロジェクト体制を構築、文部科学省から3年間の特別経費の助成を得て実施し、各教員の専門領域を持ち寄って分野や領域を越えた研究を推進することで活力を高めた。このプロジェクトは、大学院教育であると同時に、学内外の様々な分野の研究者や研究機関あるいは公共団体・市民と連携して、新たな視点からの創作研究を推進するもので、研究の質の更なる向上と視点の多角化をはかりつつ、地域貢献の観点からも大きな成果を得られたものと考えている(資料1-12(P.1-18～21)参照)。

さらに、平成27年4月、本学におけるガバナンス及びマネジメント改革として、教員人事を一元的、計画的かつ柔軟に行い、及び伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進するため、それぞれの専門性を超えた教育研究の活性化を図ることを目的とし、分野横断・融合型の教育研究を推進するための教員組織として「芸術研究院」を新設した(資料1-4)。これにより、本学部の教員は、資料1-3で示すとおり、「純粋美術表現領域 総合美術表現領域、美術理論領域、文化財保存修復領域」に所属し、芸術表現やアートプロジェクト等、他分野の教員と連携し、実施・推進出来る体制を構築した。

資料 1-3 美術学部・美術研究科の教育研究組織 平成 27 年 5 月 1 日現在

芸術研究院		教員配属学科		専任教員数					
学系	領域	学科・専攻・附属施設	性別	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
芸術表現学系	純粋美術表現領域	絵画	男	10	7	0	2	0	19
			女	0	1	0	0	0	1
		彫刻	男	3	3	0	1	0	7
			女	0	0	0	0	0	0
		先端芸術表現	男	5	4	0	1	0	10
			女	1	1	0	0	0	2
	写真センター	男	0	0	0	1	0	1	
		女	0	0	0	0	0	0	
	総合美術表現領域	工芸	男	9	4	1	1	0	15
			女	0	0	0	0	0	0
		デザイン	男	5	4	0	1	0	10
			女	0	0	0	0	0	0
建築		男	5	2	0	1	0	8	
		女	0	1	0	0	0	1	
芸術理論学系	美術理論領域	芸術学	男	7	3	0	2	0	12
			女	0	3	0	1	0	4
		古美術研究施設	男	0	0	0	0	0	0
			女	0	0	0	1	0	1
芸術資源学系	文化財保存修復領域	文化財保存学	男	9	3	0	1	0	13
			女	1	2	0	0	0	3
合計			男	44	27	1	10	0	82
			女	1	6	0	2	0	9

資料 1-4 芸術研究院の構成



資料 1-5 研究活動の実施状況(教員1人あたりの平均値)

調査対象期間: H22.4~H28.3

調査対象者: H27.5.1 在籍の専任教員

単位: 件

個展, グループ展等の開催	4.71
著書, 論文等の発表	2.39

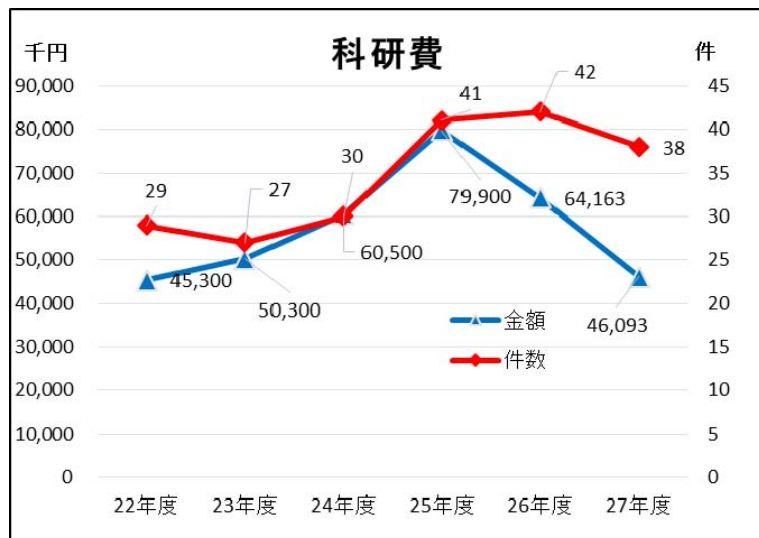
資料 1-6 主な個展, グループ展等

氏名	職位	展覧会等の名称 (発表場所又は設置場所名: 実施年)
齋藤典彦	教授	MA-Japanese painting (ディロンギャラリー/アメリカ: 2010年)
植田一穂	准教授	「いのちのかかやきー花鳥画の現在」展 (茨城県天心記念五浦美術館: 2010年) 個展 (ギャラリー広田美術: 2011年)
関出	教授	「Yunus Emre 芸術文化展」(Anadolu university/トルコ エスキシェヒル: 2011年) 「関出 退任記念展」(東京藝術大学大学美術館陳列館: 2015年)
梅原幸雄	教授	個展 梅原幸雄日本画展 (いよてつ高島屋: 2013年) mind of Manyo part2 すべて見せます万葉日本画〜人物〜 (奈良県立万葉文化館: 2016年)
手塚雄二	教授	個展「天の彩り」(紫鴻画廊/東京: 2010年) 「景色-手塚雄二展」(三越/日本橋、仙台、福岡: 2014~2015年)
吉村誠司	准教授	吉村誠司個展 (太陽画廊: 2013年) 日本画のチカラ展 (相模原市ギャラリー: 2014年)
喜多祥泰	助教	日韓中東洋画交流展「三國G」(東京日韓文化院、ソウル韓電アートセンター/東京、ソウル: 2010年) 個展「Rhythm of the forest-杜の律動」(日本各地: 2010年~2016年)
小林正人	准教授	「The Burden of Representation: Abstraction in Asia Today」Osage kwun tong/香港・上海: 2010年) 「Mediations Biennale」(ボズナン国立美術館、Zamek/ポーランド: 2010年)
坂田哲也	教授	北緯23° / 北緯35° —東京藝術大学美術学部と広州美術学院教員作品共同展—: 2015年 描かれた女たち展 (笠間日動美術館・長野県信濃美術館: 2015年)
OJUN	教授	個展「O JUN展」(ガレリア・フィナルテ/名古屋: 2011年) グループ展「見えない都市-地名の解剖学」(オペレーションテーブル/福岡 北九州市: 2011年)
保科豊巳	教授	個展 (K Gallery/韓国: 2011年) 個展「保科豊巳水墨作品展」(SHANBARA Gallery: 2015年)
杉戸洋	准教授	「杉戸洋 frame and refrain」展 (ベルナルル・ビュフェ美術館/静岡: 2015) 杉戸洋展「天上の地下 prime and foundation」(宮城県美術館: 2015年)
坂口寛敏	教授	はじまりは久米桂一郎から メディカルアート&イラストレーションの歴史と現在: 2015年 日本・台湾現代美術の現在と未来: 2014年
小山穂太郎	教授	小山穂太郎個展「ゆうれいほここにいる 1」「ゆうれいほここにいる 2」(秋山画廊/東京: 2012, 2013年) 地霊 呼び覚ませしもの-Genius Roci- (十和田市現代美術館: 2016年)
三井田盛一朗	准教授	町野三佐紀+三井田盛一朗「岸壁の父母 No.2『此の人の月日』」 ヒグレ17-15 キャス (コンテンポラリー・アート・スタジオ): 2015年 三井田盛一朗個展 (Art Space KIN GYO KOO KAN/台北: 2015年)
中村 政人	准教授	大館・北秋田芸術祭2014 個展「明るい絶望」アーツ千代田3331 メインギャラリー: 2015年
工藤晴也	教授	モザイクオブジェ・大理石モニュメント制作 (袋井市浅羽記念公園: 2011年) モザイクの真実 (科学研究成果発表、イタリア文化会館エキシビジョンホール: 2010年)
齋藤芽生	准教授	展示: オオハラ・コンテンポラリー/大原美術館: 2013年 「香星群アルデヒド」展 (Gallery ART UNLIMITED: 2014年)
秋本貴透	准教授	展示: 色からはじまること 秋本貴透×岡博美展/TAKASU HOUSE: 2014年 秋本貴透 Akimoto Takayuki 展 (アトリエスズキ/市川: 2013年)
寺内誠	助教	寺内誠展 (ギャラリー広田美術: 2010年) there. (Bambinart Gallery/東京: 2010年)
木戸修	教授	「彫刻家からの贈り物」展 (III) (Bunkamura ギャラリー: 2013年) 彫刻展「空」-AT SKY- (天王洲セントラルタワー・アートホール: 2015年)
林武史	教授	「STONE project」(Yorkshire Sculpture Park, Pier Center Orkney/イギリス: 2010年) 個展「15の蟬の声」(柳ヶ瀬画廊: 2015年)
大巻伸嗣	准教授	「大巻伸嗣: Liminal Air Space-Time」(栗林公園/香川: 2013年) 「Liminal Air Fluctuation -existence」(Hermes セーヴル店/パリ: 2015年)
深井隆	教授	個展 カスヤの森現代美術館: 2012年 焼け跡と絵筆-画家の見つめた戦中・戦後展 特別展 深井隆 (板橋区立美術館: 2014年)
原真一	准教授	個展「拾いもの」彫刻/新時代 vol.6 (日本橋高島屋美術館X: 2011年) 牡丹江国際石彫展 (中国: 2011年)
北郷悟	教授・理事	個展 水のまなざし (日本橋三越: 2013年) 個展 成層圏 (ギャラリーせいほう/東京: 2013年)
森淳一	准教授	個展「tetany」(ミヅマアートギャラリー/東京: 2015年) グループ展 「LOVE展 アートにみる愛のかたち-シャガールから初音ミク」(森美術館: 2013年)
山口 桂志郎	助教	個展 新宿高島屋美術館: 2016年 アートラインかしわ2014「共晶点〜柏ゆかりの新進作家〜»: 2014年
飯野一朗	教授	「軽井沢の風」展 (軽井沢ニューアートミュージアム: 2012年) UR「杜」のジュウリー展 (日本橋高島屋: 2010年)

前田宏智	准教授	第12回「人間国宝 奥山峰石と北区の工芸作家展」(北区飛鳥山博物館:2013年) 7つの工芸と、7人の教授たち (平成記念美術館:2016年)
篠原行雄	教授	東京アートフェア2014(東京国際フォーラム:2014年) 篠原行雄 鍛金展「光の雫」(B-Gallery/東京:2015年)
丸山智巳	准教授	国際金属工芸展(精華大学/北京:2011年) 金属造型の真髄-Essence of Metal Sculpture(高島屋/日本橋、新宿、大阪:2013年)
橋本明夫	教授	鍍金研究室小品展 かたちたち。(藝大アートプラザ:2013年)
赤沼潔	教授	個展「装飾の幻想」(アルスギャラリー/:2010年) 国際金属芸術展(中華世紀壇現代芸術センター/北京:2011、2013年)
三田村有純	教授	「大漆世界 2010 湖北国際漆藝三年展—WORLD OF LACQUER MATERIAL・PROCESS・SPIRIT」招待出品(湖北美術館/中国:2010年) 個展(静岡センチュリーホール 安心堂:2012年)
小椋範彦	准教授	第12回海峽兩岸経貿交易会(中国 福州:2010年) 個展「自然の望み 小椋範彦漆芸展」(日本橋三越本店 美術特選画廊:2012年)
島田文雄	教授	島田文雄展-うるわしき彩磁・青白磁-(佐野市立吉澤記念美術館:2010年) 島田文雄 退任記念展 (東京藝術大学大学美術館:2015年)
豊福誠	教授	豊福誠展 (京王百貨店新宿店 ギャラリー:2013年) 色絵磁器 豊福誠 作陶展 (工芸いま:2014年)
菅野健一	教授	個展 菅野健一展 テキスタイルアート (ギャラリー猫亀屋:2013年) 個展 菅野健一展 (ギャラリーモーツァルト/東京:2014年)
上原利丸	教授	「上原利丸・関井一夫展」(ギャラリー田中:2013年) 第53回日本現代工芸美術展 (東京都美術館:2014年)
菌部秀徳	講師	国際庭園博覧会招待展示(韓国 順天市):2013年 いろに想う 東京都美術館ギャラリーB:2014年
藤原信幸	教授	「韓国大学大邱大学国際交流作品展2012」(大邱大学美術館:2012年) 個展 「ガラス作品展」(銀座 ART THOUGHT:2013年)
三神慎一郎	助教	三神慎一郎展(富山大和/富山県富山市:2014年) 新技芸 国際青年芸術展(清華大学美術学院、上海工芸美術職業学院/中国北京、上海:2015年)
尾登誠一	教授	尾登誠一・箕浦昇一退任記念展 (東京藝術大学大学美術館:2016年)
箕浦昇一	教授	個展「宴展」(ART FOR THOUGHT/銀座:2015年) 尾登誠一・箕浦昇一退任記念展 (東京藝術大学大学美術館:2016年)
清水泰博	教授	「木のデザイン展」(軽井沢・脇田美術館:2010年) 札幌競馬場時計塔モニュメント「ファンファーレ」&「Take the Saddle」デザイン(札幌:2013年) 視・展「見ること」と「感じること」(アクシスビル シンポジア:2013年)
松下計	教授	「WA:現代日本のデザインと調和の精神」展 帰国展アートディレクション (武蔵野美術大学大学美術館:2011年)
藤崎圭一郎	准教授	マテリアライジング展II(東京藝術大学:2014年) 第4回東京アートミーティング「SENSE of Wonder—ありふれたマテリアルのもうひとつの様相」展 企画ディレクション
橋本和幸	准教授	「木のデザイン」招待作家展(脇田美術館:2010年) GTS 観光アートプロジェクト 2012/環境アートプロジェクト「は・は・は」恒久設置(業平公園:2012年)
押元一敏	准教授	ShinPA!!!!!!展(おぶせミュージアム・中島千波館、佐藤美術館:2010年~2016年) 個展(日本橋高島屋:2015年)
鈴木太朗	准教授	個展「鈴木太朗 Exhibition 音のなかへ」(銀座三越:2010年) 「Media Suitcase Exhibition-スーツケースの中之メディアアート展」(成田空港:2013年)
小野哲也	助教	小野哲也/伊藤航ふたり展「w.」(六本木ヒルズ A/D ギャラリー:2013年) 「f/f-f/r」展 (3331 Arts Chiyoda:2012年)
トム ヘネガン	教授	「東京2050//12の都市ヴィジョン展」(丸ビルホール:2011年)
乾久美子	准教授	小さな風景からの学び(TOTO ギャラリー・間:2014年) みずのき美術館設計(京都府亀岡市:2012年)
中山英之	准教授	「小さくて大きな家」展(アクシスギャラリー:2011年) 「My Thread-New Dutch Design on Films」会場構成(名村造船所跡地/COO クリエイティブセンター:2013年)
北川原温	教授	日本芸術院賞受賞作品展(日本芸術院:2010年) GA JAPAN 展2010(GAギャラリー:2010年)
ヨコミゾマコト	教授	「白い闇」オカムラスペースR 第11回企画展(東京:2013年) 代々木西原テラス集合住宅 建築(東京都渋谷区:2015年)
金田充弘	准教授	「小さな空間の作り方」(神戸芸術工科大学:2014年)
橋本圭央	助教	SD レビュー展2013 第32回 建築・環境・インテリアのドローイングと模型の入選展 (代官山ヒルサイドテラス・京都工芸繊維大学/東京・京都:2013年) 東京藝術大学助手有志展(東京藝術大学大学美術館:2012年)
たほりつこ	教授	「沈黙を聞く 広島からの日系アメリカ人」(旧日本銀行広島支店:2016年) isade2011 SUMMER 「八月の光」(万代中央埠頭/徳島:2011年)

伊藤俊治	教授	「青花流水」展（上海万博 日本館：2010年） 「Remembrance 3.11」（銀座 新宿ニコンサロン：2012年）
日比野克彦	教授	陶芸の魅力×アートのドキドキ展「海底には陶器が眠っている」（セラミックパーク MINO 作陶館/岐阜：2013年） 日比野克彦アートプロジェクト「魚座造船所」（大館・北秋田芸術祭 2014「里に犬、山に熊。」/秋田：2014年）
佐藤時啓	教授	「佐藤時啓 光-呼吸 そこにいる、そこにはいない」（東京都写真美術館：2015年） 佐藤時啓 —TSURUOKA, 2015—（鶴岡アートフォーラム：2015年）
古川聖	教授	“それはほとんど歌のよう……”，脳波楽器とクラリネットのために，国際会議“音楽と情動”（オーストラリア パース：2011年） it's almost a song... an audio-visual installation for using three EEG systems and Clarinet, Sound Insterations of Joint 40th International Computer Music Conference（ギリシャ アテネ：2014年）
鈴木理策	准教授	個展「Yuki - Sakura」（Christphe Guye Galerie/スイス チューリヒ：2011年） Printemps de Haute Correze（Meymac Art Center/フランス：2014年）
小谷元彦	准教授	「幽体の知覚」森美術館（翌年度全国巡回「幽体の知覚」静岡県立美術館 高松市美術館 熊本市現代美術館）：2010年 琳派400年記念事業 小谷元彦「Terminal Moment」（京都芸術センター：2014年）
八谷和彦	准教授	個展 「OpenSky 3.0」 3331（Arts Chiyoda：2013年） 個展 「八谷和彦《OpenSky》プロジェクト」（金沢 21世紀美術館/石川：2010年）
小沢剛	准教授	「小沢剛—ゾウ館長からの夏休みのしゅくだい」（市原湖畔美術館：2015年） 「World of Xijing」[西京人]（国立現代美術館/ソウル：2015年）
飯田志保子	准教授	「The Fragmented Body」（クイーンズランド州立美術館ホワイエキャビネット/オーストラリア ブリズベン：2010年） 「THE BEGINNINGS (or Open-Ended)」(Minatomachi POTLUCK BUILDING/名古屋：2015年)
田中一平	助教	「小諸×夏×展（ひら）く」2015 ～ハクリビヨリ#07～（長野県小諸氏：2015年） 個展 un-calculated（Salon de Vert/長野：2012年）
本郷寛	教授	6本の燭台フェンス制作及び前庭改修監修（聖イエス会嵯峨野協会/京都：2012年） 「つくったり考えたり—美術教育からのメッセージ」（東京藝術大学大学美術館：2014年）
木津文哉	教授	個展 浜松芸術音楽支援機構：2015年 写真の世界展（福岡日動画廊：2013年）
西山大基	助教	「西山大基彫刻展」（ギャラリーオカベ/東京：2013年） 「伝統・現代・発生 ドローイング展」（東京藝術大学美術館：2010年）
宮永美知代	助教	美術解剖学 一人のかたちの学び 展 企画（東京国立博物館：2012年）
永井文仁	助教	2012「PHOTOGRAPHY CENTER EXHIBITION」（東京藝術大学芸術情報センター：2012年）
宮廻正明	教授	個展 台湾アートフェア「アート台北」（台北：2011年） 個展（ピッティエー宮殿近代美術館/イタリア：2014年）
荒井経	准教授	荒井経+酒巻洋一「二人展」（SEN ART GALLERY：2014年） 「涼味」展（PARK HOTEL TOKYO 25F ATRIUM：2012年）
木島隆康	教授	「第2回 古典絵画技法研究会模写展」-初期フランドル絵画とテンペラ画-（表参道画廊：2013年） 修復 バーミヤンK窟の坐仏像など 2011年
藪内佐斗司	教授	「藪内佐斗司のうさぎたち」（藪内佐斗司美術館/石川：2011年） 藪内佐斗司展 やまとちから（そごう美術館/横浜：2014年）
辻賢三	教授	世尊院正覚寺 修法壇漆塗漆箔 復元及び修復：2011年 日光鉢石山観音寺 木造三十三観音修復：2012年

資料 1-7 科研費獲得額



資料 1-8 平成 22～27 年度科研費交付課題一覧

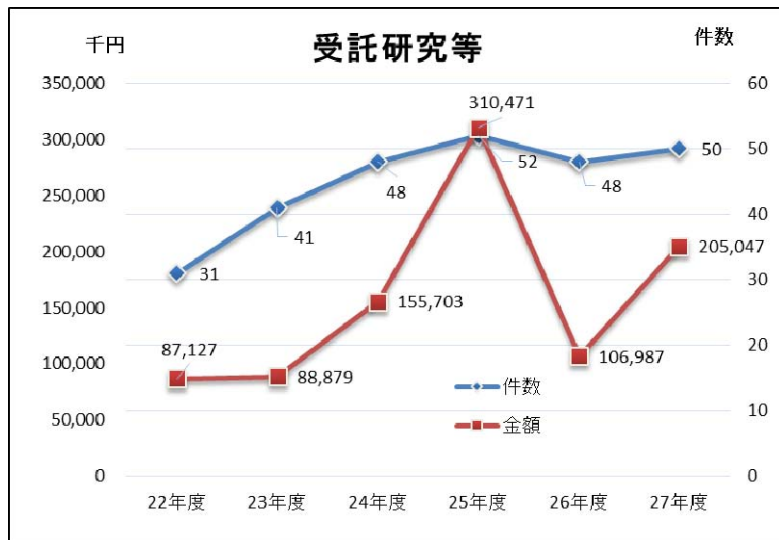
研究種目	研究代表者氏名	所属	役職	研究題目
基盤研究(B)(一般)	桐野文良	美術研究科	教授	金属文化財の腐食機構解析に基づく新防食法の開発
基盤研究(B)(一般)	佐藤一郎	美術学部	教授	東京美術学校西洋画科の絵画技法材料の解明－自画像群の自然科学的調査を通して－
基盤研究(B)(一般)	豊福誠	美術学部	教授	ラピス・ラズリ青色釉薬実現に向けての研究
基盤研究(B)(一般)	藪内直樹(佐斗司)	美術研究科	教授	3D デジタルデータをもとにした快慶の特徴基準の作成－快慶とその周辺への形状伝播－
基盤研究(B)(一般)	アンドラス・モルゴス	美術研究科	教授	Nanotechnology in the conservation
基盤研究(B)(一般)	佐藤直樹	美術学部	准教授	19世紀ローマにおける外国人芸術家の活動と交流に関する包括的研究
基盤研究(B)(海外)	工藤晴也	美術学部	准教授	世界遺産ガッラ・ブラチディア廟モザイク壁画の保存修復調査と修復技法の実証的研究
基盤研究(B)(海外)	佐藤一郎	美術学部	教授	シルクロード・キジル石窟壁画の材料・技法の研究
基盤研究(B)(海外)	関出	美術学部	教授	中国における「岩彩画」の登場と戦後日本画のメチエ
基盤研究(B)(海外)	島田文雄	美術学部	教授	陶磁描画だみ技法から考察した日本・中国－有田、景徳鎮、醴陵の陶磁技法と交流史研究
基盤研究(C)(一般)	宮廻正明	美術研究科	教授	文化財科学、美術史学、制作技法の情報統合による「薬師寺吉祥天井画像」の復元模写研究
基盤研究(C)(一般)	古川聖	美術学部	准教授	作曲(音楽デザイン)と視覚デザインの統合システムのための研究
基盤研究(C)(一般)	赤沼潔	美術学部	准教授	工芸の展開－美術鑄物と表面処理の関係－
基盤研究(C)(一般)	北郷悟	美術学部	教授	「彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用」
基盤研究(C)(一般)	上野勝久	美術研究科	教授	木造建造物の保存修復における伝統技法の種類と革新的技術の考案に関する研究
基盤研究(C)(一般)	片山まび	美術学部	准教授	17世紀・釜山窯の成立過程とその展開
基盤研究(C)(一般)	宮永美知代	美術学部	助教	美術解剖学の教育としての今日的意義－日本とドイツの比較・交流を通して－
基盤研究(C)(一般)	荒井経	美術学部	准教授	日本画と材料－近代に見出された岩絵具と和紙
基盤研究(C)(一般)	越川倫明	美術学部	教授	テントレット派素描のカatalog化: 英国外に所蔵される作品総
基盤研究(C)(一般)	野口昌夫	美術学部	教授	トスカーナの歴史的海洋小都市と後背地域の形成に関する研究
基盤研究(C)(一般)	光井渉	美術学部	准教授	方丈建築の空間構成に関する研究
萌芽研究	藪内直樹(佐斗司)	美術研究科	教授	教育現場における立体把握模倣による空間認識の研究～「まねる」は「学ぶ」～
萌芽研究	児美川佳代子(小松佳代子)	美術学部	准教授	美術とスポーツにおける身体観の相違についての理論的・実践的研究

東京藝術大学美術学部・美術研究科

萌芽研究	染谷香理	美術学部	講師	日本画の作法―「技法書」と「模本」から探る近代日本画の精神
基盤研究(A)(一般)	木島隆康	美術研究科	教授	迎賓館赤坂離宮天井絵画修復事業に関わる損傷と劣化原因の解明
基盤研究(B)(一般)	宮廻正明	美術研究科	教授	模倣と超越―美術における学習と創造―
基盤研究(B)(一般)	稲葉政満	美術研究科	教授	耐久性に優れた楮紙の製造方法の開発
基盤研究(C)(一般)	赤沼潔	美術学部	准教授	工芸の展開―美術鑄物の色沢と熱処理の関係
萌芽研究	桐野文良	美術研究科	教授	Fe系陶磁器釉薬の発色機構の解明
研究活動スタート支援	大原啓子(貴田啓子)	美術研究科	講師	紙質文化財における彩色材が和紙の劣化に及ぼす影響
基盤研究(C)(一般)	鈴鴨富士子	美術研究科	講師	絵画に発生する劣化生成物の研究―発生原因と修復処置について―
基盤研究(C)(一般)	鈴木賢子	美術学部	講師	W.G.ゼーバルト研究
基盤研究(C)(一般)	宮永美知代	美術学部	助教	日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開
基盤研究(C)(一般)	古川聖	美術学部	准教授	音楽情動生成のモデル化とそれに基づく作品制作の研究
挑戦的萌芽研究	荒井経	美術研究科	准教授	東アジアにおける国号絵画と模写―1945年以降の日本画、韓国画、中国画を対象に
挑戦的萌芽研究	羽藤広輔	美術学部	助教	書と建築―建築家白井晟一の事例を中心に―
挑戦的萌芽研究	中村るい	美術学部	講師	ギリシャ・クラシック期の身体表現の美術解剖学的考察
若手研究(B)	小林亜起子	美術学部	講師	プーシェによるポーヴェ製作所のタピスリー研究:下絵と関連素描のカタログ化の試み
基盤研究(B)(海外)	佐藤一郎	美術学部	教授	シルクロード・キジル石窟壁画の絵画材料・絵画技術の研究
基盤研究(B)(一般)	藪内直樹(佐斗司)	美術研究科	教授	3D デジタルデータの仮想立体画像を用いた木取り・木寄せ研究 平安時代初期～鎌倉期
研究成果公開促進費(学術図書)	廣岡(須賀)みほ	美術学部	准教授	花木の象-国宝都久夫須麻神社
基盤研究(C)(一般)	安藤美奈	美術学部	講師	国内文化施設における外国人を含む来館者指向マーケティングに関する考察
基盤研究(C)(一般)	児美川佳代子	美術学部	准教授	美術教育の哲学的基礎づけ
基盤研究(C)(一般)	片山まび	美術学部	准教授	近代御用窯における釜山窯の系譜
基盤研究(C)(一般)	佐間美智子	美術研究科	講師	天然有機赤色顔料の資料作成と体系化-古典に学んだ堅牢な絵具の実現を目指して-
挑戦的萌芽研究	並木秀俊	美術研究科	助教	ゴールドサンドウィッチガラスから見出す紀元前「截金」の起源と再生
挑戦的萌芽研究	仲裕次郎	美術研究科	講師	古典彫刻彩色の蘇生研究
挑戦的萌芽研究	坂口英伸	美術学部	講師	震災タイムカプセルの研究:その起源、制作過程および影響について
若手研究(B)	安田友重(村上友重)	美術学部	助教	新しいイメージ生成方法に向けて―デジタルネガとピエゾグラフィの研究と実践―
基盤研究(B)(一般)	佐藤時啓	美術学部	教授	『写真技術転換期における芸術表現』―超高解像度画像形成システムの開発と実践―
基盤研究(B)(海外)	島田文雄	美術学部	教授	薪窯の形成時間と陶磁器変化の焼成研究―中国・日本窯
研究成果公開促進費(学術図書)	越川倫明	美術学部	教授	ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第一巻
基盤研究(C)(一般)	染谷香理	美術研究科	講師	経験と感性の継承―技法書データベースの構築
基盤研究(C)(一般)	越川倫明	美術学部	教授	バーナード・ベレンソンと矢代幸雄の往復書簡に関する研究
基盤研究(C)(一般)	松野誠(長谷部浩)	美術学部	教授	森山威男のフリースタイル奏法のデジタルアーカイブ作成および対話を通じた分析と考察
基盤研究(C)(一般)	野口昌夫	美術学部	教授	トスカーナ・リグリーアの歴史的海洋小都市と後背地域・海域の形成に関する研究
基盤研究(C)(一般)	光井歩	美術学部	准教授	名勝庭園内に所在する歴史的建造物の保存活用に関する基礎的研究
挑戦的萌芽研究	桐野文良	美術学部	教授	Fe系釉薬の発色機構の電子的解明
若手研究(B)	青柳路子	美術学部	講師	「いのちの教育」における「身体」の位置づけ―歴史的展開からの再考―
研究成果公開促進費(学術図書)	越川倫明	美術学部	教授	ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第一巻
基盤研究(B)(一般)	佐藤直樹	美術学部	准教授	近代芸術におけるディレクタントの学際的研究

基盤研究(B)(一般)	藪内直樹 (藪内佐斗司)	美術研究科	教授	3D・X線・修復調査から見る古典木彫像の制作プロセス—平安～鎌倉期—
基盤研究(B)(一般)	赤沼潔	美術学部	教授	工芸の展開—金属工芸鑄金における真土型鑄造法の研究—
基盤研究(B)(一般)	古川聖	美術学部	教授	共鳴の輪の中で:音楽の場とその形成について
挑戦的萌芽研究	塚田全彦	美術研究科	准教授	金属薄膜センサーを用いた文化財展示保存容器製作材料の試験法の開発
挑戦的萌芽研究	宮永美知代	美術学部	助教	宇宙滞在における人体フォルムと動きの美についての美術解剖学的研究

資料 1-9 受託研究・共同研究・受託事業獲得額



資料 1-10 平成 22～27 年度受託研究・共同研究・受託事業 主な受入課題

種別	研究題目	委託者
受託研究	「人物彫刻の研究」	エコー会
受託研究	奈良県奈良市大慈仙町 木造薬師如来坐像修復研究	大慈仙町自治会
受託研究	台東区地場産業の芸術による活性化の研究	東京都台東区
受託研究	茨城県 東福寺 木造地藏菩薩半跏像修復研究	東福寺
受託研究	琉球王朝十八代尚育王御後絵 復元模写	首里城公園友の会
受託研究	鏝阿寺及び足利学校の建造物に関する調査研究	足利市
受託研究	萬年山 青松寺「木造観音菩薩立像」調査研究および修復研究	萬年山 青松寺
受託研究	青蓮寺「木造愛染明王坐像の台座・光背」調査研究および制作研究	真言宗 青蓮寺
受託研究	深大寺 木造宝冠阿弥陀如来坐像、木造毘沙門天立像 修復研究	浮岳山 深大寺
受託研究	図画工作・美術等の授業から展開する子供の作品展示に関する実践的研究	台東区
受託研究	お菓子(キットカット)外装を中心としたデザイン施策による社会的効果の研究	ネスレ日本株式会社
受託研究	那須神社本殿の総合調査研究	大田原市
受託研究	室生寺蔵 木造地藏菩薩立像附厨子および木造不動明王立像調査研究および修復研究	宗教法人 大本山 室生寺
受託研究	取手ストリートアーツステージ 0	取手市
受託研究	茨城県桜川市 木造虚空蔵菩薩坐像 修復研究	真壁町山口地区
受託研究	諏訪大社上社本宮の社殿群に関する調査研究	諏訪大社
受託研究	図画工作・美術等の授業から展開する子どもの作品展示に関する実践的研究	台東区
受託研究	倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区のデザインガイドに関する研究	倉吉市
受託研究	棚倉町の八槻都々古別神社・八槻家住宅の調査研究	棚倉町
受託研究	農産品(栗)外装を中心としたブランディング施策による社会的効果の研究	笠間市
受託研究	大熊氏廣作 吉田松陰(寅次郎)像の復元研究	松陰神社
受託研究	東大寺法華堂 執金剛神立像 3D 及び彩色復元における総合的研究	株式会社アイネックス
受託研究	台東区の産業を生かした地場製品の研究委託	台東区
受託研究	棚倉町の馬場都々古別神社社殿調査研究	棚倉町伝統文化活性化実行委員会
受託研究	深大寺蔵 深沙大王宮殿 修復研究	宗教法人深大寺

東京藝術大学美術学部・美術研究科

受託研究	小淵沢駅周辺地域活性化計画	北杜市
受託研究	性高院蔵 木造玄道上人坐像 修復研究	性高院
受託研究	平等院ミュージアム鳳翔館 復元国宝扉絵複製画 刷新	宗教法人平等院
受託研究	木造薬師如来座像台座制作および日光・月光菩薩立像制作	法相宗大本山薬師寺
受託研究	「GEIDAI DESIGN PROJECT 0」	花王株式会社
受託研究	千葉県那古寺蔵木造阿弥陀如来坐像修復研究	真言宗智山派 那古寺
受託研究	好文亭襖絵修繕研究	茨城県水戸土木事務所
受託研究	東京大学安田講堂の壁画修復研究	東京大学
受託研究	小淵沢駅周辺地域活性化計画策定業務	北杜市
受託研究	春日大社蔵 銅造 釣燈籠 修復研究	春日大社
受託研究	旧山崎家住宅の調査研究	掛川市教育委員会 教育長 棚倉町伝統文化活性化実行委員会
受託研究	棚倉町の社寺建造物の調査研究	棚倉町伝統文化活性化実行委員会
受託研究	お菓子(キットカット)外装を中心としたデザイン施策による社会的効果の研究③	ネスレ日本株式会社
受託研究	大西大開堂 天部立像修復研究	大西大開堂
受託研究	大子町における歴史的建造物の調査研究	大子町文化遺産活用実行委員会
受託研究	LINE×GEIDAI.media kneading/メディアを捏ねてまだ見ぬ地平へ。	LINE 株式会社
受託研究	革新的芸術文化都市の計画に関する研究	Melco Crown
受託研究	チョウザメ(浮袋)からのアイシングラス試作評価	独立行政法人科学技術振興機構
受託研究	GEIDAI DESIGN PROJECT 03	花王株式会社
受託研究	『課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業』(実社会対応プログラム)「民間所蔵文化財の資源化・流通による学術観光創生の実証的研究」	独立行政法人日本学術振興会
受託研究	荒川区西光寺木造阿弥陀如来立像および厨子修復研究	浄土宗真覚山菩提院 西光寺
受託研究	「GEIDAI DESIGN PROJECT04」	台東区
受託研究	水戸市神崎寺蔵木造不動明王立像修復研究	宗教法人神崎寺
受託研究	松戸神社神楽殿絵画修復研究	松戸神社神楽殿絵画修復実行委員会
受託研究	取手ストリートアートステージ04	取手市
受託研究	栃木県真岡市の大前神社の調査研究	大前神社
受託研究	長野県寛慶寺木造金剛力士像修復研究	宗教法人 寛慶寺
受託研究	小淵沢駅周辺地域活性化に係る調査研究	北杜市
受託研究	琉球王朝第十七代尚灝王御後絵 復元模写	一般財団法人 沖縄美ら島財団
受託研究	棚倉町の歴史的建造物の調査研究	棚倉町伝統文化活性化実行委員会
受託研究	お菓子(キットカット)外装を中心としたデザイン施策による社会的効果の研究④	ネスレ日本株式会社
受託研究	藤田嗣治《舞踏会の前》油彩画作品の調査と修復	公益財団法人大原美術館
受託研究	福島県飯館村山津見神社拝殿天井絵の復元に関する活動	国立大学法人 和歌山大学
受託研究	「みやこ町森林公園【丸山】石舞台」制作研究	みやこ町
受託研究	「小淵沢駅周辺地域活性化に係る調査研究」	北杜市
受託研究	兵庫県養父市下八木薬師堂 木造薬師如来坐像修復研究	下八木区
受託研究	アート・デザイン専門領域からの視点を活かした大分県・地域の文化追究	大分県
受託研究	喜多方市小田村の歴史的建造物・町並みの調査研究	喜多方市
受託研究	GEIDAI DESIGN PROJECT 05	台東区
受託研究	木造三宝荒神立像および木造三面大黒天立像(雛形)修復研究	宗教法人 善光寺
受託研究	春日部市立病院における新病院アートワーク	春日部市立病院
受託研究	史跡慧日寺跡金堂内 薬師如来坐像 台座復元研究	磐梯町
受託研究	神奈川県法蘭寺 阿弥陀如来立像及び厨子・菩薩倚像修復研究	宗教法人 法蘭寺
受託研究	すべての人が共通して使えるボディ・ケア商品セットの開発	花王株式会社
受託研究	八王子市長福寺木造千手観音菩薩坐像修復研究	宗教法人長福寺
共同研究	画家の感性に基づく理想的な膠の研究	東京日本画材料研究会
共同研究	情動情報符号化方法の開発	独立行政法人科学技術振興機構
共同研究	都市型住宅の新しいカタチの考察 ～重層長屋の可能性を探る～	株式会社コスモスイニシア
共同研究	谷中寺町・暮らしの町 歴史的建造物の総合評価及び実態調査	NPO 法人たいとう歴史都市研究会
共同研究	エコリビングプロジェクト-省エネ・環境住宅研究計画	YKK ファスニングプロダクツ販売(株)
受託事業	00「TOKYO GOLD WEEK」における金のオブジェ制作	田中貴金属工業(株)
受託事業	持続可能な環境芸術の創出と彩生事業	文化庁
受託事業	『仏頭画』観智院所蔵の復元模写および補彩	観智院
受託事業	「GEIDAI DESIGN PROJECT 00」の設営運営委託	財団法人東京都交通局協力会
受託事業	GTS(藝大・台東・墨田)観光アートプロジェクト実施委託	台東区
受託事業	「さくらパンダ GEIDAI プロジェクト 0」の運営委託	株式会社 大丸松坂屋百貨

		店
受託事業	「GEIDAI DESIGN PROJECT 0」の設営運営委託	財団法人東京都交通局協力会
受託事業	平成3年度環境アート作品の設計及び制作委託(GTS)	墨田区長
受託事業	第9回日本再光万燈会会場演出	宗教法人 奈良薬師寺東関東別院水雲山潮音寺
受託事業	第9回全国都市緑化フェアTOKYO 上野恩賜公園会場シンボルモニュメント制作・展示	第29回全国都市緑化フェアTOKYO実行委員会
受託事業	GTS(藝大・台東・墨田)観光アートプロジェクト実施委託③	台東区
受託事業	平成4年度環境アート作品の制作委託	墨田区
受託事業	東京藝術大学 特別公開講座「ちびっこ藝大でアートにチャレンジ!秋」	株式会社 大丸松坂屋百貨店
受託事業	新海覚雄の油彩画3作品の修復と調査	東京都現代美術館
受託事業	東京都美術館・東京芸術大学アートコミュニティ形成事業	公益財団法人東京都歴史文化財団
受託事業	TOKYOガンダムプロジェクトのPR用モニュメントガンダム大理石像の制作	TOKYOガンダムプロジェクト実行委員会
受託事業	上野地区文化教育施設連携事業「ミュージアム・スタートあいうえの」	公益財団法人東京都歴史文化財団
受託事業	「さくらパンダ GEIDAI プロジェクト 03」の運営委託	大丸松坂屋百貨店
受託事業	篠原勇司男作品7点、尾藤豊作3点の修復事業	東京都現代美術館
受託事業	教住寺 地藏菩薩立像制作事業	教住寺
受託事業	平成5年度国際研究集会「第8回金属の歴史国際会議」	(独)日本学術振興会理事長
受託事業	新しい市場性を持った紙の開発、ブランディング	北越紀州製紙株式会社
受託事業	長禅寺 木造十一面観音菩薩立像制作事業	大鹿山長禅寺
受託事業	北秋田市地域における地域資源の効果的プレゼンテーションならびに地域活性化に関する事業	北秋田市
受託事業	「さくらパンダ GEIDAI プロジェクト 04」の運営委託	株式会社大丸松坂屋百貨店
受託事業	茨城県立取手第二高校改築校舎壁面レリーフ制作	山本・松丸 特定建設工事共同企業体 株式会社 山本工務店
受託事業	東京藝術大学連携事業の実施に係る業務	香川県
受託事業	キッザニア東京協賛に関する業務委託	YKK株式会社
受託事業	「さくらパンダ GEIDAI プロジェクト 05」の運営委託	株式会社 大丸松坂屋百貨店
受託事業	東京藝術大学特別公開講座「絹に描く 大人の藝大ワークショップ」	公益財団法人 台東区芸術文化財団
受託事業	磐梯山慧日寺資料館「とくいつ芸術祭」支援事業	磐梯町
受託事業	「074、夢の世界」アワード(仮題)	コルベール委員会
受託事業	「富士ヶ丘小学校プロジェクト 05」の運営委託	北茨城市
受託事業	DRAW	株式会社博報堂

資料 1-11 大学美術館等での展覧会一覧

NO	会場	展覧会名	会期			合計入場者	一日平均入場者
1	本	コレクション展 Part 1.朝倉文夫—朝倉彫塑館所蔵— Part 2.芸大コレクション—動物を中心に—	平成22年4月6日	～	平成22年6月6日 (55日間)	15,253	277
2	本	ボンビドー・センター所蔵作品展 シャガール ロシア・アヴァンギャルドとの出会い 交錯する夢と前衛	平成22年7月3日	～	平成22年10月11日 (88日間)	207,179	2,354
3	本	明治の彫塑 ラグーザと荻原礫山 第一部: ラグーザとその弟子たち 第二部: 没後100年 荻原礫山	平成22年10月23日	～	平成22年12月5日 (38日間)	13,323	351
4	本	黙示録—デューラー—ノルドン	平成22年10月23日	～	平成22年12月5日 (38日間)	13,612	358
5	本	東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展	平成22年12月12日	～	平成22年12月24日 (11日間)	5,306	482
6	本	第59回 東京藝術大学卒業・修了作品展	平成22年1月29日	～	平成22年2月3日 (6日間)	17,692	2,949
7	本	ぼくの色、わたしの形 第63回台東区小・中学校連合作品展	平成23年2月6日	～	平成23年2月9日 (4日間)	6,295	1,574
8	陳	「天野太郎の建築展 あるべきようは」	平成22年5月11日	～	平成22年5月23日 (12日間)	2,205	184
9	陳	東京スカイツリー®を描く絵画展	平成22年10月6日	～	平成22年10月11日 (6日間)	2,757	460
10	陳	TEXTILE CONNECTION-WOVEN テキスタイル コネクション-宇宙を織りなす-	平成22年10月19日	～	平成22年11月7日 (19日間)	3,005	158
11	陳	彫刻展示室(田中記念室)開室	平成22年10月26日	～	平成22年11月7日 (11日間)	1,713	156

東京藝術大学美術学部・美術研究科

12	陳	素描展-東京藝術大学日本画第二研究室	平成 22 年 11 月 14 日	～	平成 22 年 11 月 30 日	(15 日間)	1,904	127
13	陳	佇む木々-田中一幸展	平成 23 年 12 月 9 日	～	平成 23 年 12 月 23 日	(13 日間)	1,790	138
14	陳	スケルトンミニ[プロタイプ]展	平成 22 年 1 月 9 日	～	平成 22 年 1 月 22 日	(13 日間)	1,467	113
15	陳	[木のデザイン]落葉松からのメッセージ展	平成 22 年 1 月 9 日	～	平成 22 年 1 月 22 日	(13 日間)	1,420	109
16	本	芸大コレクション展 ー春の名品選ー (会期:前期 4/7~5/29 後期 6/7~6/19)	平成 23 年 4 月 7 日	～	平成 23 年 6 月 19 日	(59 日間)	3,689	63
17	本	香り かぐわしき名宝	平成 23 年 4 月 7 日	～	平成 23 年 5 月 29 日	(47 日間)	47,446	1,009
18	本	特集陳列 海外の日本美術品の修復 在外日本古美術品保存修復協力事業	平成 23 年 6 月 7 日	～	平成 23 年 6 月 19 日	(12 日間)	2,838	237
19	本	今、美術の力でー被災地美術館所蔵作品からー	平成 23 年 8 月 2 日	～	平成 23 年 8 月 21 日	(18 日間)	7,034	391
20	本	区長賞創設30周年記念 台東区コレクション展 (会期:前期 8/2~8/21 後期:9/9~9/25)	平成 23 年 8 月 2 日	～	平成 23 年 8 月 21 日	(33 日間)	16,372	496
21	本	国宝 源氏物語絵巻に挑むー東京藝術大学 現状模写ー	平成 23 年 9 月 9 日	～	平成 23 年 9 月 25 日	(15 日間)	13,156	877
22	本	彫刻の時間ー継承と展開	平成 23 年 10 月 7 日	～	平成 23 年 11 月 6 日	(28 日間)	7,834	280
23	本	高山登退任記念展「枕木ー白い闇×黒い闇」	平成 23 年 11 月 17 日	～	平成 23 年 12 月 4 日	(16 日間)	3,107	194
24	本	東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展	平成 23 年 12 月 11 日	～	平成 23 年 12 月 21 日	(9 日間)	4,638	515
25	本	ぼくの色、わたしの形ー第 64 回台東区小・中学校連合作品展	平成 23 年 1 月 14 日	～	平成 23 年 1 月 18 日	(5 日間)	6,849	1,370
26	本	第 60 回 東京藝術大学卒業・修了作品展	平成 23 年 1 月 29 日	～	平成 23 年 2 月 3 日	(6 日間)	16,688	2,781
27	陳	東京藝術大学アジア総合芸術センター美術学部交流事業 伝統と現代 (会期:前期 5/12~5/29 後期 6/7~6/19)	平成 23 年 5 月 12 日	～	平成 23 年 6 月 19 日	(28 日間)	3,459	124
28	陳	アフガニスタン 流出仏教壁画片の修復展	平成 23 年 6 月 25 日	～	平成 23 年 7 月 10 日	(14 日間)	1,382	99
29	陳	素描展 東京藝術大学日本画第二研究室	平成 23 年 7 月 17 日	～	平成 23 年 7 月 29 日	(13 日間)	1,552	119
30	陳	ICHIKENTEN 2011	平成 23 年 8 月 30 日	～	平成 23 年 9 月 11 日	(13 日間)	2,321	179
31	陳	国際陶芸教育交流展	平成 23 年 9 月 19 日	～	平成 23 年 9 月 25 日	(7 日間)	1,537	220
32	陳	モチハコブカタチーカバンのトップメーカー、エースのデザイン展	平成 23 年 10 月 4 日	～	平成 23 年 10 月 23 日	(20 日間)	4,448	222
33	陳	東京スカイツリーを描く絵画展	平成 23 年 10 月 27 日	～	平成 23 年 10 月 30 日	(4 日間)	1,040	260
34	陳	日本画第二研究室「絹に描く」	平成 23 年 11 月 8 日	～	平成 23 年 11 月 14 日	(7 日間)	1,048	150
35	陳	大西博遺作展 限りなく透明に近い青を求めて(仮称)	平成 24 年 3 月 20 日	～	平成 24 年 4 月 8 日	(20 日間)	3,318	0
36	陳	平櫛田中コレクション 2011 彫刻展示室(田中記念室)開室	平成 23 年 4 月 29 日	～	平成 23 年 5 月 12 日	(13 日間)	2,584	199
37	本	「芸大コレクション展ー春の名品選ー」	平成 24 年 4 月 5 日	～	平成 24 年 6 月 24 日	(70 日間)	6,127	88
38	本	「近代洋画の開拓者 高橋由一」	平成 24 年 4 月 28 日	～	平成 24 年 6 月 24 日	(51 日間)	80,233	1,573
39	本	「日中国交正常化 40 周年記念 特別展 草原の王朝 契丹ー美しき 3 人のプリンセスー」	平成 24 年 7 月 12 日	～	平成 24 年 9 月 17 日	(58 日間)	35,344	609
40	本	東京藝術大学創立 125 周年記念事業 漆芸 軌跡と未来	平成 24 年 10 月 5 日	～	平成 24 年 10 月 21 日	(15 日間)	6,265	418
41	本	尊嚴の芸術展 -The Art of Gaman-	平成 24 年 11 月 3 日	～	平成 24 年 12 月 9 日	(32 日間)	55,601	1,738
42	本	退任記念展 中島千波 人物図鑑	平成 24 年 11 月 15 日	～	平成 24 年 12 月 2 日	(16 日間)	15,247	953
43	本	東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展	平成 24 年 12 月 16 日	～	平成 24 年 12 月 25 日	(10 日間)	4,955	496
44	本	Tokyo Sonic Art Weeks アートと音楽「共感覚実験劇場」	平成 24 年 1 月 7 日	～	平成 24 年 1 月 17 日	(11 日間)	2,251	205
45	本	第 61 回 東京藝術大学卒業・修了作品展	平成 24 年 1 月 26 日	～	平成 24 年 1 月 31 日	(6 日間)	16,092	2,682
46	陳	「研究報告発表展 ー東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻 保存修復彫刻研究室ー」	平成 24 年 4 月 26 日	～	平成 24 年 4 月 30 日	(5 日間)	1,195	239
47	陳	「東京藝術大学助手有志展」	平成 24 年 6 月 8 日	～	平成 24 年 6 月 17 日	(10 日間)	2,976	298
48	陳	「素描展 視点と観点」※関連企画:新旧の視点	平成 24 年 7 月 13 日	～	平成 24 年 7 月 25 日	(13 日間)	1,792	138
49	陳	「谷川岳高山植物図鑑原画展」	平成 24 年 9 月	～	平成 24 年 9 月	(14 日間)	6,492	464

東京藝術大学美術学部・美術研究科

			4日		月17日			
50	陳	「ICHIKENTEN 2012」	平成24年9月20日	～	平成24年9月26日	(7日間)	715	102
51	陳	イモノの景色 東京・金沢・高岡・秋田 鍍金展	平成24年9月30日	～	平成24年10月6日	(6日間)	841	140
52	陳	東京スカイツリー®を描く絵画展	平成24年10月30日	～	平成24年11月4日	(6日間)	1,053	176
53	陳	公益財団法人芳泉文化財団 第一回文化財保存学日本研究発表展 美しさの新機軸 -日本画 過去から未来へ-	平成24年11月1日	～	平成24年11月11日	(11日間)	1,757	160
54	陳	退任記念 山下了是 染色作品展 赧-TANN	平成24年11月20日	～	平成24年12月2日	(12日間)	3,567	297
55	陳	渡辺好明遺作展 -光ではかられた時	平成24年12月7日	～	平成24年12月24日	(16日間)	3,645	228
56	陳	池田政治 退任記念展「Out of Sight」(アウト・オブ・サイト)	平成24年1月4日	～	平成24年1月22日	(16日間)	2,831	177
57	陳	平櫛田中コレクション 2012 彫刻展示室(田中記念室) 開室	平成24年11月15日	～	平成24年12月12日	(24日間)	10,234	426
58	本	FENDI - UN ART AUTRE Another Kind of Art, Creation and Innovation in Craftsmanship ～フェンディ もうひとつのアート、クリエイションとイノベーションの軌跡～	平成25年4月3日	～	平成25年4月29日	(24日間)	15,315	638
59	本	「藝大コレクション展—春の名品選—」	平成25年4月5日	～	平成25年5月6日	(29日間)	21,206	731
60	本	「夏目漱石の美術世界展」	平成25年5月14日	～	平成25年7月7日	(48日間)	74,518	1,552
61	本	興福寺創建1300年記念 国宝 興福寺仏頭展	平成25年9月3日	～	平成25年11月24日	(72日間)	175,457	2,437
62	本	東京藝術大学大学院美術研究科博士審査	平成25年12月15日	～	平成25年12月24日	(10日間)	4,047	405
63	本	佐藤一郎 退任記念展	平成25年1月6日	～	平成25年1月19日	(14日間)	5,369	384
64	本	「見ること・描くこと」—油画技法材料研究室とその周縁の作家たち	平成25年1月6日	～	平成25年1月19日	(14日間)	5,529	395
65	本	第62回 東京藝術大学卒業・修了作品展	平成25年1月26日	～	平成25年1月31日	(6日間)	15,870	2,645
66	陳	「物質と彫刻—近代のアポリアと形見なるもの」	平成25年4月2日	～	平成25年4月21日	(17日間)	3,698	218
67	陳	「平櫛田中コレクション 2013 平櫛田中記念室 開室」	平成25年4月2日	～	平成25年4月21日	(18日間)	3,328	185
68	陳	「研究報告発表展 -東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻 保存修復彫刻研究室-」	平成25年4月25日	～	平成25年4月29日	(5日間)	2,060	412
69	陳	平成24年度 受託研究「絵画用紙の諸相とその発揮について」成果発表 紙本の絵画展	平成25年5月9日	～	平成25年5月18日	(10日間)	1,165	117
70	陳	「マテリアライジング展-情報と物質とそのあいだ/23名の建築家・アーティストによる思索-」	平成25年6月8日	～	平成25年6月23日	(14日間)	4,497	321
71	陳	「素描展 それぞれの眼差し」	平成25年6月28日	～	平成25年7月10日	(13日間)	2,604	200
72	陳	「Delta」	平成25年7月16日	～	平成25年7月23日	(8日間)	761	95
73	陳	「Ichiken ten 2013 -東京藝術大学 日本画第一研究室発表展-」	平成25年9月2日	～	平成25年9月12日	(11日間)	2,858	260
74	陳	「日本・中国「東洋茶文化交流」展覧会」	平成25年9月25日	～	平成25年10月6日	(11日間)	1,746	159
75	陳	東京美術学校の漆芸が海を渡り、そして今 台湾・日本芸術文化交流事業 台湾・日本漆芸交流展—過去、現在そして未来—	平成25年10月23日	～	平成25年10月30日	(7日間)	1,528	218
76	陳	公共建築から考えるアーバンデザインの実際「大宮東口プロジェクト展 2013」	平成25年11月2日	～	平成25年11月10日	(7日間)	747	107
77	陳	平櫛田中コレクション 2013 彫刻展示室(田中記念室) 開室	平成25年11月12日	～	平成25年11月24日	(12日間)	7,457	621
78	陳	元倉眞琴教授退任記念「都市への愛・キャンパスへの愛」展	平成25年11月14日	～	平成25年11月24日	(13日間)	3,832	295
79	陳	「第4回東京アートミーティング SEVEN of Wonder -ありふれたマテリアルのもうひとつの様相-」	平成25年12月6日	～	平成25年12月18日	(13日間)	2,092	161
80	陳	文化財保存学教育成果発表作品展 山川異或風月同天(仮)	平成25年2月2日	～	平成25年2月13日	(12日間)	673	56
81	陳	永田和宏教授退任展「和鉄 たたらと鍛冶」	平成25年3月15日	～	平成25年3月21日	(6日間)	1,136	189
82	本	※観音の里の祈りとくらし展—びわ湖・長浜のホトケたち—	平成26年3月21日	～	平成26年4月13日	(21日間)	19,213	915
83	本	※藝大コレクション展 —春の名品選—	平成26年3月21日	～	平成26年4月13日	(21日間)	19,043	907
84	本	法隆寺—祈りとかたち	平成26年4月26日	～	平成26年6月22日	(51日間)	96,063	1,884

東京藝術大学美術学部・美術研究科

85	本	第2回国際木版画会議特別企画展「木版ぞめきー日本 でなにが起こったかー」	平成26年8月 30日	～	平成26年9 月14日	(15日間)	6,038	403
86	本	台湾の近代美術ー留学生たちの青春群像(1895-1945)	平成26年9月 12日	～	平成26年10 月26日	(39日間)	10,493	269
87	本	平櫛田中コレクションーつくる・みる・あつめるー	平成26年9月 23日	～	平成26年10 月19日	(24日間)	6,944	289
88	本	美術教育研究会第20回大会企画展「つくったり 考えたり ー美術教育からのメッセージー」	平成26年10月 31日	～	平成26年11 月3日	(4日間)	1,975	494
89	本	河北秀也 東京藝術大学退任記念 地下鉄10年を走りぬけて iichiko デザイン 30年展	平成26年11月 13日	～	平成26年11 月26日	(14日間)	9,462	676
90	本	博士審査展	平成26年12月 18日	～	平成26年12 月25日	(8日間)	4,616	577
91	本	卒業・修了作品展	平成27年1月 26日	～	平成26年1 月31日	(6日間)	13,246	2,208
92	陳	保存修復彫刻研究室研究報告発表展	平成26年4月 16日	～	平成26年4 月20日	(5日間)	1,231	246
93	陳	別品の祈りー法隆寺金堂壁画ー	平成26年4月 26日	～	平成26年6 月22日	(51日間)	40,268	790
94	陳	日本画第二研究室 素描展	平成26年6月 27日	～	平成26年7 月10日	(14日間)	1,637	117
95	陳	マテリアライジング展Ⅱ	平成26年7月 19日	～	平成26年8 月8日	(18日間)	5,195	289
96	陳	Ichiken ten2014ー東京藝術大学日本画第一研究室発表 展ー	平成26年8月 18日	～	平成26年8 月26日	(8日間)	1,706	213
97	陳	第2回 国際木版画会議 国際公募展「国際木版画展 2014」	平成26年8月 30日	～	平成26年9 月30日	(13日間)	1,984	153
98	陳	ー台湾絵画の巨匠ー 陳澄波 油彩画作品修復展	平成26年9月 12日	～	平成26年10 月2日	(17日間)	2,933	173
99	陳	第5回企業のデザイン展 花王株式会社「にほんのき れいのあたりまえ」	平成26年10月 4日	～	平成26年10 月26日	(23日間)	7,632	332
100	陳	日本・台湾現代美術の現在と未来 ーローカルティとグローバルの振幅ー	平成26年11月 4日	～	平成26年11 月16日	(13日間)	1,175	90
101	陳	邦楽器が受け継ぐ技・形・音:こめられた丹精	平成26年11月 20日	～	平成26年11 月30日	(11日間)	1,852	168
102	陳	美しさの新機軸ー日本画 過去から未来へー	平成26年11月 23日	～	平成26年12 月3日	(11日間)	2,331	212
103	陳	大宮東口プロジェクト2014公共建築から考えるアーバ ンデザインの実験	平成26年12月 9日	～	平成26年12 月14日	(6日間)	164	27
104	陳	東谷武美退任展 日蝕・水の肖像	平成27年1月 5日	～	平成27年1 月15日	(11日間)	1,773	161
105	本	「ポストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト 明治ニッポンの美」	平成27年4月 4日	～	平成27年5 月17日	(40日間)	41,056	1,026
106	本	「ヘレン・シャルフベックー魂のまなざしー」	平成27年6月 2日	～	平成27年7 月26日	(48日間)	48,098	1,002
107	本	「うらめしや〜、冥途のみやげ 展 ー全生庵・三遊亭圓 朝 幽霊画コレクションを中心にー」	平成27年7月 22日	～	平成26年9 月13日	(47日間)	68,139	1,450
108	本	武器をアートにーモザンビークにおける平和構築	平成27年10月 17日	～	平成27年11 月23日	(33日間)	9,615	291
109	本	藝大コレクション展 美の収穫祭 特集展示 平櫛田中ゆかりの作品を中心に	平成27年11月 10日	～	平成27年11 月29日	(18日間)	4,582	255
110	本	「藤田嗣治資料、公開展示」	平成27年12月 1日	～	平成27年12 月6日	(6日間)	5,532	922
111	本	藤田嗣治の絵画技法に迫る大原美術館「舞踏会の前」 修復完成披露	平成27年12月 1日	～	平成27年12 月6日	(6日間)		
112	本	博士審査展	平成27年12月 15日	～	平成27年12 月24日	(10日間)	5,722	572
113	本	卒業・修了作品展	平成27年1月 26日	～	平成26年1 月31日	(6日間)	17,437	2,906
114	陳	保存修復彫刻研究室研究報告発表展	平成27年4月 15日	～	平成27年4 月19日	(5日間)	1,603	321
115	陳	ハイカラー覚醒するジャポニズムー「ポストン美術館ス ポルディング・コレクション」	平成27年4月 25日	～	平成27年5 月13日	(17日間)	7,697	453
116	陳	蓮見智幸回顧展『宇宙色(そらいろ)のかたち』	平成27年5月 20日	～	平成27年6 月7日	(17日間)	2,749	162
117	陳	Digital Humanize(デジタル・ヒューマナイズ)	平成27年6月 14日	～	平成27年6 月22日	(9日間)	1,200	133
118	陳	日本画第二研究室 素描展	平成27年6月 26日	～	平成27年7 月9日	(14日間)	2,962	212
119	陳	《写真》見えるもの／見えないもの #02	平成27年7月 13日	～	平成27年8 月1日	(20日間)	4,151	208
120	陳	うるしのかたち展	平成27年8月 7日	～	平成27年8 月16日	(9日間)	1,662	185
121	陳	イチケンテン 2015 ー東京藝術大学 日本画第一研究室 発表展ー	平成27年8月 30日	～	平成27年9 月13日	(15日間)	3,338	223
122	陳	チューリッヒ芸術大学+東京藝術大学 国際交流展	平成27年10月	～	平成27年10月	(15日間)	822	55

		「半解をただよう、半壊をあるく、半開のあいだ」	月 6 日	~	月 20 日			
123	陳	北緯23° / 北緯35° - 東京藝術大学美術学部と広州美術学院教員作品共同展一	平成 27 年 10 月 29 日	~	平成 27 年 11 月 15 日	(18 日間)	2,047	114
124	陳	第10回アトリエの末裔あるいは未来展	平成 27 年 11 月 20 日	~	平成 27 年 11 月 29 日	(9 日間)	2,115	235
125	陳	島田文雄退任記念展	平成 27 年 12 月 15 日	~	平成 27 年 12 月 24 日	(10 日間)	2,509	251
126	陳	関 出退任記念展	平成 27 年 12 月 15 日	~	平成 27 年 12 月 24 日	(10 日間)	2,378	238
127	陳	尾登誠一退任記念展	平成 28 年 1 月 6 日	~	平成 28 年 1 月 17 日	(12 日間)	2,181	182
128	陳	箕浦昇一退任記念展	平成 28 年 1 月 6 日	~	平成 28 年 1 月 17 日	(12 日間)		
129	陳	東京藝術大学藝祭100年の歴史展	平成 28 年 3 月 23 日	~	平成 28 年 3 月 30 日	(7 日間)	2,683	383

資料 1-12 GTSアートプロジェクト実施例

No.	事業名	期間	場所	内容
平成 22 年度				
1	隅田川新名所物語 2010	H22. 10. 20~ 11. 6	東本願寺慈光殿 2 階	隅田川を挟んだ台東区、墨田区は歴史の逸話に溢れ、様々な絵画や文学の舞台にもなった地域である。このプロジェクトは、藝大学生が両区を歩いて徹底調査し、観光地として既に著名なこの地域の隠された魅力と事実を発見、作品を通して同地域の観光活性化の一翼を担おうとする試みである。学生にとっては、普段の個人制作にとどまらぬ共同研究の成果、専門性を越えた共同作業体験、歴史認識の深化などが期待され、同時に、展覧会を通して、この地域の魅力を伝える新たな観光活性化をめざす。
2	ササクサス	H22. 10. 23~ 11. 14	雷門 1 丁目、2 丁目地区各所 店先、路上、公園、学校	『ササクサス』とは東京藝術大学先端芸術表現専攻日比野克彦研究室が中心となって企画、運営を行う 3 年間の長期継続的活動である。この名は 1960 年代に NY を中心に起こった反芸術運動「フルクサス」に起因し、「ASAKUSA」の地名を「S」ではさんで『SASAKUSAS』と名付けられた。「S」の形には浅草を回遊する、巡る、というイメージが込められている。雷門 1 丁目、2 丁目地区を舞台に、地元住民との交流、雷門地区の地域性をベースとした様々な活動をおこなう。その活動は「モノ」づくりとしての作品というより、「コト」づくりとして、街の中に新たなコミュニケーションの場をつくるための試みである。
3	GTS × TWS 連携企画 Tokyo void	H22. 11. 2~ 11. 14	隅田公園リバーサイドギャラリー	本企画は、GTS（藝大・台東・墨田）観光アートプロジェクト、トーキョーワンダーサイト、ロンドン芸術大学が連携し、ジャンルや国籍の異なるクリエイターと協働して課題に取り組み、新しい創造の地平を開くことを目的としている。今、文化、経済、環境などあらゆる分野で総合的、長期的な視野のもと新しい価値を見出すことが急務となっている。江戸時代の中心地であり、2012 年の東京スカイツリー完成に向けて熱い注目を集めている隅田川両岸地域の台東区、墨田区のリサーチを通して、地球と人にとっての豊かさを考える。Part 1（2010 年 8 月 4 日~26 日）で、ワークショップとしてレクチャーやグループワークを行い、Part 2 は「隅田川 Art Bridge 2010」展において制作発表（「Tokyo void」展）、そしてトーキョーワンダーサイト本郷におけるドキュメント展を行う。
4	川辺の虹色から光へ	H22. 10. 20~ 11. 14	言問橋 - 吾妻橋の川岸	近世まで隅田川を渡る風は交易を可能とするエネルギーの源となり、四季の色を映す衣食住の生活文化を育み、時には大火をもたらす、まさに江戸の川辺には「風の景」があった。竹の先の吹き流しは、立ち並ぶ仮設の見せ物小屋、水茶屋、屋台へと人々を誘う。風の記憶は郷愁を越え、今も街に活力をもたらすだろう。隅田川の川面を行き交う風を布面が受け止め、時には激しく、時には優しく乱舞する。人々はその空気の涼感を求め引き寄せられる。ひかりきらめく川面に呼応して、布面は虹色にかがやく。隅田川の風からインスピレーションされた光のイルミネーションが夜の川面を彩る。

5	Memorial Rebirth -Sumida river-	H22.11.6	墨田区役所 うえるおい広場	壮大な数のシャボン玉により風景を一変させるアートパフォーマンス。見慣れた日常風景を幻想的な空間へと生まれ変わらせることで、その瞬間、その場所に関する記憶を刻み込み、そこに集う人々、パフォーマンスが展開されてきた各地の人々の思いをつなぎ再生させてゆく作品。
6	アジアの影・陰・ネガ -伝統と現代-	H22.10.20~30	すみだリバーサイドギャラリー	アジアの伝統的な切り絵の技法などを中心として、陰と陽、表と裏、外と内などの関係性の中で表現されその境界にまつわる物語をテーマとした現代美術の作品展を開催。
7	マイタワークラブ	H22.9.下旬~10.19	東武鉄道高架下倉庫	北十間川に沿って位置する鉄道の高架下は、台東区、墨田区に繋がる重要なルートに面している。そこで地域の人たちと改めて「まち」を考へるために、ワークインプログレスとしてのクラブ（工房・活動拠点・地域との交流の場の創造）を行いながら「マイタワー」をつくる。場所の制作過程それ自体が情報発信であり、パフォーマンス・作品である。ワークインプログレスとしてクラブ（工房）を東武鉄道高架下のスペースにつくる。
8	こよみのよぶね	H22.10.20~11.14	東武鉄道高架下倉庫	岐阜市の長良川で2006年から行われている「こよみのよぶね」は日比野克彦が企画・監修し市民とともに制作してきている。川を通じて遠く地域と繋がることにより、川のある地域の交流の可能性を追求する。また地域の人と学生が制作することにより今後の活動の人間関係を形成させていく。巨大数字行燈は竹を骨組みにし、和紙を表面に貼り、中に電球を入れる。それを船に取り付け、川面にあかりが映り込むように停泊させる。
9	「記憶の森」夜の上映会	H22.10.23 ほか	大横川親水公園 など	日本を代表するアニメーション作家による作品から、若手作家の現代映像表現、墨田区で撮影された8ミリフィルムなど、海外からの作品も交えた映像展。会場となる牛嶋神社では、墨田区内で撮影された8ミリフィルムの上映や新進気鋭の作家による映像インスタレーションを行います。世界の先端を行くアニメーション作家による作品は大横川親水公園で屋外上映。すみだリバーサイドミニシアターでは海外の作家によるアニメーション作品などを上映。
10	東京スカイツリー®を描く 絵画展	H22.10.6~10.11	東京藝術大学 陳列館	GTS 市民参加ワークショップを広く市民に公募。小中学生にはワークショップによって東京スカイツリー®建設の歴史的環境に立ち会い、景観スポットを探しながら東京スカイツリー®を描く事で、この風景を人々の記憶に深く留めようというコンセプトである。東京スカイツリー®を背景にした風景を描いた絵画を展示し、観客に様々なスポットからの絵画を楽しんで頂く。
11	GTS 国際音楽コンサート	H22.10.19 ほか	東本願寺、墨田区役所1階アトリウム	東京藝術大学音楽学部教員、在学学生、留学生による国際的な音楽コンサート。区民の皆さんに広く東京藝術大学の演奏を楽しんで頂く。台東区東本願寺における2回の演奏会、墨田区役所1階アトリウムにおける2回の演奏会を開催する。
平成 23 年度				
12	隅田川新名所物語 2011	H23.11.7~11.13	隅田公園リバーサイドギャラリー	隅田川を挟んだ台東区・墨田区は歴史の逸話に溢れ、様々な絵画や文学の舞台にもなった地域である。時代を超え、現代に生きる芸大生が隅田川界隈の歴史を調べ、自分の足で歩いて、新たなこの地域の「名所」を見つける。東京スカイツリー®や浅草地区など既に観光名所として有名なこの地域の隠された魅力を発見しながら作品を創り、作品に触れた人々がまた新たな視点を持って町歩きを楽しめることを目指す。40名超の芸大生が絵画、立体、インスタレーション、映像など多様なメディアによる作品で展覧会を作り、また、展覧会で配布する小型のカタログは観光のガイドブックとしても持ち歩けるような工夫が凝らされている。
13	MIST	H23.10.10~10.23	墨田区役所前 うえるおい広場、墨田区 枕橋・源森橋 ほか	MISTとは霧、非日常の風景を立ち上げ、晴れの日を予兆する自然のマジカルな力である。見えない水蒸気が小さな水滴となって集まり風景が浮かびあがるように、墨田区の子供達や住民の方々と作品づくりをすすめる。空、風、土、光に着目する作品群は、東京スカイツリー®のお隣元に設置され、自然の動きと対話する明るい風景をつくりだす。会期末には、MIST フェスティバルと前日祭を開催、にぎやかに展開される。

14	記憶の森 映像展	H23. 11. 3 ほか	墨田区 牛嶋神社, 隅田公園	『記憶』をテーマに、東京スカイツリー®をのぞむ牛嶋神社と隅田公園一帯を舞台として映像インスタレーション、アニメーションや8ミリフィルムの上映会、ワークショップなどを行う野外映像展。映像の力によって、人々の間に過去の記憶から未来を考えるコミュニケーションを誘発し、地域におけるあらたな人と人のつながりを創り出すことを目指す。
15	下町で発生した見世物、エスプリ展	H23. 10. 23~ 10. 29	すみだリバーサイドホールギャラリー, 会議室	美術の発生においては様々なプロセスがある。かつて幕末から明治にかけての浅草下町界隈では「見世物」といった今でいうところの大道芸や芸能、芝居、奇術、美術館、動物園、おばけ屋敷などの要素を含んだ庶民の好奇心を刺激するものを生み出している、きっと「街」そのものが想像、創造のつぼであったと思われる。それら大衆娯楽の流行した様子は浮世絵や絵画にも題材となつて多く描かれていた。このような下町で生まれた文化の背景や地域性、風土、気質などは、今現在の美術の状況にもつよく刺激を与えると考える。この企画展では、日常生活や下町の一つの場所や出来事に触れ、その中に内包されるユーモアや、意外な視点の迷宮、手作り、遊び、対話、エスプリなどから派生した作品を一同に介し、一つの「見世物」としてエンターテインメント性を帯びた創造のプロセスをみせる展示を試みる。
16	イノベーションプロジェクト	H23. 10. 13~ 10. 18	東京藝術大学 大学会館 2F 展示スペース	台東区、墨田区のいわゆる伝統和菓子は、幾何学的な美しさを持つものが多い。江戸の「粋の美学」に支えられたカタチは、見方を変えれば決して古くなく、シンプルで愛らしくむしる現代的である。伝統という枠からそれらの和菓子を一度解放し、洋菓子さながらの自由な小舞台(器、台、皿)を与えることがこのプロジェクトのコンセプトである。今回は白磁とガラスというモノクロームの素材と伝統和菓子のコラボレーション作品、20~30点を展示、新たな和菓子のしつらえを提案する。
17	油絵茶屋再現 : アートサイトクルージング	H23. 10. 15~ 11. 15	浅草寺境内	日本で初めて行われた油絵の展覧会会場は、浅草寺の境内に現れた見世物小屋だったことはあまり知られていない。その当時の浅草は、日本で最も活気に満ちた新しい文化を発祥する活気ある場であったという。残念ながら当時の絵は残ってはいないが、わずかに残る資料をもとに徹底検証し、小屋もろとも再現した。
18	GTS 国際音楽コンサート	H23. 10. 10 ほか	墨田区 すみだリバーサイドホール アトリウムほか	東京藝術大学音楽学部教員、在学生、留学生による国際的な音楽コンサート。区民の皆さんに広く東京藝術大学の演奏を楽しんで頂く。計6回開催。
平成 24 年度				
19	隅田川新名所物語 2012	H24. 10. 27~ 11. 7	隅田公園リバーサイドギャラリー	藝大の学生、卒業生、留学生、教員、助手たちが、科や専門性を越えひとつの「名所図」展を作り上げる。隅田川をはさんだ台東区、墨田区は、歴史の逸話にあふれる街。様々な絵画や文学の舞台にもなった。このプロジェクトでは、そんな隅田川界隈を学生や作家が歩き、埋もれた歴史を掘り起こし、新たな視点で隠された「名所」を見出し、そのリサーチをもとに作品を制作する。最終的には、『新名所物語展』(場所: 隅田公園リバーサイドギャラリー)での展示を開催。同時に、同展のカタログと観光ガイドマップの役割を兼ねた『名所図絵本』を作成する。2012年の「隅田川新名所物語」は、新たに「場の物語」「人の物語」「時の物語」の3テーマによって作品を展開する。
20	GTS AWARD	H24. 10. 11~ 11. 11	シタマチ Base ほか	台東区、墨田区の隅田川両岸エリアに設定された各会場に、東京藝術大学学生、教員、ゲスト・アーティストなど総勢約40名の作品展示、パフォーマンスなどを展開。プロジェクトの拠点となる「シタマチ Base (東武線高架下倉庫)」では、旧高架下倉庫を建築科の学生が中心となつて一部改装し、展示やワークショップの会場として、まちに開いていくことを目指す。また台東区 浅草神社、ササクスエリア(雷門一丁目・二丁目界隈)では、五十嵐靖晃による「そらあみ」や、一昨年度より実施されている「ササクス」における、日常の視点を少し変えてみせる試みなど、ま

				ちのなかで様々な活動を行う。 AWARD の名とおり、展示・発表された全ての作品のなかから優秀な作品を選考し、各賞が贈られる。
21	「東京スカイツリー®を描く」ワークショップ／絵画展	H24. 10. 30～ 11. 4	東京藝術大学 大学美術館陳列館 2階	「東京スカイツリーを描く絵画展」は、台東区と墨田区の在住・在勤・在学の方々を対象とした区民参加型プロジェクト。7月22日（日）に実施するワークショップでは、両区から約80名の小・中学生が参加し「東京スカイツリーを描く、東京スカイツリースポットを探せ!」をテーマに、隅田公園で写生大会を行う。また、8月には子供からお年寄りまで参加できる一般作品公募を実施し、両区民の幅広い年齢層の方々から作品応募を募る。本展では、これらの東京スカイツリーのある風景作品123点と、2010年度、2011年度の受賞作品をあわせて、東京藝術大学大学美術館陳列館に展示する。
22	イノベーションプロジェクト	H24. 10. 30～ 11. 4	浅草文化観光センター7F	ぼち袋に駄賃を渡す時期や相手によって料金をあしらうような、墨田区、台東区に今なお息づく粋な江戸東京の四季の楽しみや遊びごとを東京藝術大学美術学部の若きクリエイターが現代のエッセンスを養分に再編・再構築にチャレンジする。
23	記憶の森 映像祭	H24. 10. 17～ 10. 21	牛嶋神社ほか	4会場を中心とした隅田川周辺の地域一帯を壮大な”記憶の森”と見立て、様々な作品の展示やパフォーマンスを展開。地域における記憶の掘り起こしと共有、人々の出会いの場の創出を目指す。
24	GTS 音楽コンサート	H24. 10. 21 ほか	東本願寺本堂ほか	東京藝術大学音楽学部教員、在学生による音楽コンサート。区民の皆さんに東京藝術大学の演奏を楽しんで頂く音楽会。平成23年度は、中央音楽院との音楽交流会や、親子で楽しめるファミリーコンサートを企画するなど、より広い層の皆さんが楽しめるように多彩で充実したプログラムを企画する。
25	GTS Art Talk Café	H24. 9. 14 ほか	東京藝術大学 ほか	GTS Art Talk Café は、主に在学中の大学院生、学部生に向けてプロジェクトの周知を計るとともに、ゲストの方々を交え、芸術や大学と社会との接点について、様々な視点からの意見交換を行う全3回（予定）の講演会企画である。
26	GTS シンポジウム 2012	H24. 10. 31	東京藝術大学	近年、アートによって地域の活性化に貢献することを目的とした様々なプロジェクトが開催されている。こうした企画のなかには、風土や習俗を含めた固有の地域文化と関わり合いながら、地域とアートを融合し、そこから生まれる文化的環境の可能性を模索したり、地域の観光と結びつけている例も見られる。 本企画は、平成24年度が最終年度となる GTS 観光アートプロジェクトにおいて、2010年から2012年度の3年間におこなった実施内容を振り返り、その成果や問題点などを踏まえてアートと社会の関係性による観光という視点から、隅田川両岸地域におけるアートプロジェクトの可能性を探るシンポジウムである。



(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

資料 1-5(P. 1-6)に示した通り、本中期目標期間における個展等の開催は教員 1 人あたり 4 件、著書・論文も 1 人あたり 2 本を越え、各教員の創作・研究活動は極めて活発である。また、資料 1-7(P. 1-10)に示した通り、科研費も、平成 22 年度から 27 年度の間金額で 1.8%、件数で 31%以上の伸びとなっている。また、資料 1-9(P. 1-12)、資料 1-10(P. 1-12～1-14)で示したように、受託研究等についても、平成 22～27 年度で受託研究 172 件、共同研究 12 件、受託事業 86 件に及び、本学部・研究科の特性が広く認知されている証左となっている。またこれまでの取り組みを基盤とした「G T S 観光アートプロジェクト」(資料 1-12(P. 1-18～21)参照)が特別経費の助成対象となった事実は、本学部・研究科の研究活動の状況が広く評価された結果であると考えている。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

観点 研究成果の状況(大学共同利用機関、大学の共同利用・共同研究拠点に認定された附置研究所及び研究施設においては、共同利用・共同研究の成果の状況を含めること。)

(観点に係る状況)

前記したように、美術分野という特性から、本学部・研究科の研究成果のうち、個人の創作作品については、個展等で発表される機会が大部分であり、その総数は膨大である(資料 1-5(P.1-6)、資料 1-6(P.1-7~1-9)参照)。こうした個展等には極めて優れた内容のものが多く、萌芽的な試みもここで数多く試行されており、本学部・研究科にとって最も重要な研究成果を社会へ発表する場である。また、この様な研究成果は、新聞等(別添資料 1-①)など常に社会から評価を得ている。

別紙「研究業績説明書」に掲載した研究成果は、社会、経済、文化への貢献が卓越あるいは優秀である 16 点の成果をあげており、美術学部・美術研究科の研究理念である「1 未来への創作・研究活動の新たな展開」にかなう成果である。また、別添資料 1-①(P.1-28~1-33)で示した本学部・研究科の研究成果と併せ、美術の専門家集団からの評価はもとより、一般市民の関心と呼ぶことも多く、十分な創作研究の成果をあげつつ、広く市民へも美術を普及させていると判断できる。これは、美術学部・美術研究科の研究理念である「2 芸術活動による地域社会への積極的貢献」にかなう成果であり、社会・地域貢献において重要な役割を果たしてきている。

このような本学部・研究科の研究目的を満たす、(1)伝統的な技術を活かしつつ新たな表現方法を用いた創作、(2)文化財保存や美術史において発展をもたらす美術理論の確立、(3)芸術の知見を生かした社会貢献活動、(4)芸術に革新性をもたらす特許技術の取得等の成果、以上の 4 点について、第三者評価による評価結果や客観的指標を重視しつつ、選定を行っている。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

本学部・研究科は、唯一の総合芸術系大学として古い歴史と伝統を持ち、これまで日本の美術界をリードしてきたため、社会から期待される水準は極めて高い。こうした状況の中、下記「資料 1-13 受賞例」で示した通り、本中期計画期間に限っても、美術各領域の主だった賞を、本学部・研究科の教員が受賞していることから、美術各領域における専門家からの評価は、期待される水準にあると客観的にいえよう。また別添資料 1-①の「主な新聞記事」(P.1-28~1-33)で示した通り、本学部・研究科の創作研究活動に対しては、社会からの関心も極めて高く、この面でも期待される水準にあるとみなせる。

資料 1-13 受賞例一覧(平成 22~27 年度)

所属	職名	氏名	受賞名	国内外の別		受賞年
				国内	国外	
日本画	准教授	植田一穂	MOA 美術館賞	○		2010
日本画	准教授	吉村誠司	日本美術院/内閣総理大臣賞	○		2010
日本画	助教	村岡貴美男	日本美術院賞/大観賞	○		2010
油画	准教授	齋藤芽生	VOCA2010 上野の森美術館 佳作賞、大原美術館賞	○		2010
油画	准教授	中村政人	芸術選奨文部科学大臣新人賞	○		2010
工芸	准教授	前田宏智	第 39 回伝統工芸日本金工展 朝日新聞社賞	○		2010
工芸	准教授	小椋範彦	第 12 回海峽兩岸経貿交易会 (中国福州) 銀賞・銅賞		○	2010

工芸	講師	藤原信幸	国際ガラス展・金沢 2010 奨励賞	○		2010
デザイン	准教授	橋本和幸他	ディスプレイデザイン賞 2010 ショーウィンドウ部門 入選	○		2010
デザイン	准教授	松下計 八木澤	ディスプレイデザイン賞 2010 優秀賞	○		2010
デザイン	准教授	松下計 八木澤	グッドデザイン賞	○		2010
デザイン	准教授	松下計	CS デザイン賞	○		2010
写真センター	助教	村上友重	The Art of Photography Show 2010, 1st Place Award		○	2010
日本画	准教授	吉村誠司	足立美術館賞	○		2011
彫刻	准教授	林武史	円空賞	○		2011
工芸	准教授	丸山智巳	2011 年国際金属芸術展 (北京) 最優秀工芸賞		○	2011
工芸	教授	三田村有純	2011 中国版權創意・国際漆芸招待展 IN 福州、優秀 賞		○	2011
工芸	准教授	小椋範彦	紫綬褒章	○		2011
工芸	講師	菌部秀徳	神戸ビエンナーレグリーンアートコンペティション 神戸ビエンナーレ大賞	○		2011
デザイン	准教授	松下計	グッドデザイン賞	○		2011
建築	教授	北川原温	第 52 回 BCS 賞	○		2011
建築	教授	北川原温	日本建築学会作品選奨	○		2011
建築	教授	北川原温	BCS (日本建築業連合会) 賞	○		2011
建築	准教授	乾久美子	JIA 新人賞	○		2011
建築	准教授	乾久美子	延岡駅周辺整備デザイン監修者プロポーザル最優秀 賞	○		2011
先端芸術表現	教授	高山登	円空賞	○		2011
先端芸術表現	准教授	小谷元彦	平櫛田中賞	○		2011
文化財保存	教授	宮廻正明	第 17 回情報文化学会賞 芸術大賞	○		2011
文化財保存	助教	並木秀俊	第 66 回春の院展 奨励賞	○		2011
文化財保存	助教	並木秀俊	第 66 回春の院展 外務大臣賞	○		2011
文化財保存	教授	桐野文良	公益社団法人日本技術士会 会長表彰	○		2011
工芸	准教授	小椋範彦	第 18 回 MOA 岡田茂吉賞展 工芸部門 MOA 美術 館賞	○		2012
工芸	准教授	小椋範彦	第 18 回 MOA 岡田茂吉賞展 工芸部門 MOA 美術 館賞	○		2012
工芸	准教授	藤原信幸	第 5 回 KOGANEZAKI・器のかたち・現代ガラス展 入選	○		2012
工芸	准教授	藤原信幸	第 12 回 '12 日本のガラス展 藤田喬平賞	○		2012
工芸	講師	海藤博	2012 テーブルウェアフェスティバル 佳作	○		2012
工芸	講師	海藤博	第 52 回日本クラフト展 奨励賞	○		2012
建築	准教授	乾久美子	第 13 回ベネチアビエンナーレ国際建築展金獅子賞		○	2012
建築	准教授	乾久美子	BCS (日本建築業連合会) 賞	○		2012
建築	准教授	乾久美子	七ヶ浜中学校建設基本・実施設計業務委託プロポーザ ル最優秀賞	○		2012
先端芸術表現	准教授	小谷元彦	2011 年度芸術選奨 文部科学大臣新人賞 (美術部門)	○		2012

東京藝術大学美術学部・美術研究科

現						
文化財保存	助教	並木秀俊	第 67 回春の院展 奨励賞	○		2012
文化財保存	助教	並木秀俊	再興第 97 回院展 奨励賞	○		2012
文化財保存	助教	並木秀俊	第 27 回有芽の会 法務大臣賞	○		2012
文化財保存	助教	並木秀俊	公益財団法人 芳泉文化財団 平成 21 年度文化財保存学 (日本画) 助成 最優秀研究	○		2012
文化財保存	講師	染谷香理	第 68 回春の院展 奨励賞	○		2012
写真センター	助教	村上友重	Foam アムステルダム写真美術館主催 Foam Talent 受賞		○	2012
彫刻	教授	深井隆	紫綬褒章	○		2013
工芸	教授	篠原行雄	第二回そば猪口アート公募展 準大賞	○		2013
工芸	教授	篠原行雄	当代国際金属芸術展 銅賞		○	2013
工芸	教授	三田村有純	第 52 回現代工芸美術展 内閣総理大臣賞	○		2013
工芸	准教授	小椋範彦	第 4 回創造する伝統賞	○		2013
工芸	准教授	上原利丸	第 4 5 回日展第 4 科工芸特選	○		2013
工芸	准教授	藤原信幸	国際ガラス展・金沢 2013 入選	○		2013
工芸	准教授	前田宏智	第 42 回 伝統工芸日本金工展 石洞美術館賞	○		2013
デザイン	准教授	長濱雅彦	2013 グッドデザイン賞受賞 (個人用品、育児・介護用品部門)	○		2013
工芸	教授	三田村有純	第 53 現代工芸展 入選	○		2014
工芸	准教授	小椋範彦	第 61 回日本伝統工芸展 入選	○		2014
工芸	准教授	小椋範彦	第 27 回日本伝統漆芸展 入選	○		2014
建築	准教授	中山英之	D&AD Award (イギリス) 「in book」		○	2014
建築	准教授	中山英之	Red Dot Design Award (ドイツ) 「best of best」		○	2014
建築	准教授	中山英之	Printing Studio / Frans Masereel Centrum 設計競技 (ベルギー) 「1 等」		○	2014
建築	准教授	ヨコミゾマコト	釜石市民ホール (仮称) 及び釜石情報交流センター (仮称) 建設工事設計業務委託プロポーザル 最優秀賞受賞	○		2014
先端芸術表現	教授	佐藤時啓	2015 年芸術選奨文部科学大臣賞美術部門	○		2014
先端芸術表現	准教授	小沢剛	第 2 5 回タカシマヤ美術賞	○		2014
文化財保存	教授	稲葉政満	文化財保存修復学会 学会賞	○		2014
文化財保存	教授	桐野文良	公益社団法人日本金属学会学術貢献賞	○		2014
文化財保存	助教	並木秀俊	第 69 回春の院展 奨励賞	○		2014
文化財保存	助教	並木秀俊	公益財団法人花王芸術科学助成財団 第 8 回美術に関する研究奨励賞	○		2014
日本画	助教	喜多祥泰	第 42 回創画展入選	○		2015
日本画	助教	喜多祥泰	第 41 回春季創画展入選	○		2015
彫刻	准教授	大巻伸嗣	円空賞	○		2015
工芸	准教授	前田宏智	第 4 4 回伝統工芸日本金工展 文部科学大臣賞	○		2015
工芸	准教授	小椋範彦	第 5 5 回東日本伝統工芸展 川徳賞	○		2015
工芸	助教	三神慎一郎	日本現代工芸美術展 現代工芸新人賞	○		2015
建築	准教授	乾久美子	「日本建築学会作品選奨」受賞	○		2015
デザイン	教授	清水泰博	渋谷区桜ヶ丘地区コンペ 佳作	○		2015
デザイン	教授	長濱雅彦	D&AD Awards (イギリス) 「Wood Pencil」		○	2015

東京藝術大学美術学部・美術研究科

デザイン	准教授	押元一敏	郷さくら美術館桜花賞 大賞	○		2015
デザイン	准教授	押元一敏	アーティストグループ・風 入選	○		2015
先端芸術表現	教授	佐藤時啓	第31回東川国際写真賞 国内作家賞	○		2015
先端芸術表現	准教授	鈴木理策	写真展「意識の流れ」 さがみはら写真賞	○		2015
芸術学	准教授	片山まび	第36回小山富士夫記念賞奨励賞	○		2015
文化財保存	教授	木島隆康	第9回 文化財保存修復学会学会賞	○		2015

Ⅲ 「質の向上度」の分析

特許技術活用による研究成果（分析項目Ⅱ 研究成果の状況）

「分析項目Ⅰ 研究活動の状況（P.1-5）」に記載したとおり、実技的研究を通してデジタル技術と日本画等の伝統技法を融合した新技術を開発、特許出願を行い、「質感を表現した素材の製造方法及び絵画の製作方法、質感を表現した素材及び絵画、建築用材料（特許第4559524号）」「素材の製造方法及び絵画の製作方法、素材及び絵画（特許第4755722号）」「素材の製造方法及び絵画の製作方法、素材及び絵画、建築用材料（特許第5158891号）」の特許取得に至った（研究業績説明書業績番号13）。

この技術の利用により、移動や公開することの難しい貴重な美術作品や失われてしまった文化財等を、和紙・板・絹等素材を選ばずに高精細で複製し、質感（手触り）までも再現、オリジナルに限りなく近い作品を制作することが可能となった。

これら一連の作品は、「触れる文化財」「クローン文化財」と呼ばれ、この技術を活用した研究成果を、多くの文化施設や展覧会において発表した。

例えば、世界遺産にも登録されている高句麗古墳群の中から、江西大墓（6C～7C）の巨大な壁画に描かれた「四神図」の複製に取組み、高度なデジタル画像処理技術の併用により30年前のフィルムから原寸大の鮮明な壁画画像を蘇らせ、石室全体の復元を世界で初めて成功。縦約3m×横約3.2m×高さ約2.3mの巨大な石室にある花崗岩の質感をともなった壁画の複製を短い制作期間で可能とする画期的なものであり、新聞等多くのメディアで取り上げられた（平成23年度）。

また、本技術を活用した研究を発展させることにより、文部科学省特別経費プロジェクト「アートのイノベーションセンター」（平成25年度）、科学技術振興機構「革新的イノベーション創出プログラム（COI-T）」（平成26年度）、文部科学省COI拠点事業「感動」を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション」（平成27年度）といった補助金等の採択へと至った。

平成26年度開催の「別品の祈り—法隆寺金堂壁画—」展（H26.4.26-6.22・東京藝術大学陳列館）では、昭和24年に甚だしく焼損した法隆寺金堂壁画を焼損前の姿に復元するとともに、最先端技術のスーパーハイビジョン（8K）プロジェクターを用いて、法隆寺金堂をテーマとした超高精細映像表現作品を展示し、飛鳥時代の造営当初の姿をイメージさせる芸術性豊かなコンテンツを開発した（51日間、入場者数40,268人、1日平均790人）。

平成27年度には、「ハイカラー覚醒するジャポニズム—ボストン美術館スポルディング・コレクション」（会期H27.4.25-5.13・Arts&ScienceLAB・来場者7,697名）を開催。高精細複製による浮世絵の制作や、細部の様子や質感が鑑賞可能な500%に拡大された浮世絵複製作品を制作・発表するとともに、同研究成果を、1日20万人以上が利用する東京メトロ銀座駅に新たに設置されたギャラリー「Glass Box Metro Ginza」にて、「ハイカラ2—覚醒するジャポニズム—ボストン美術館スポルディング・コレクションとゴッホ」展として広く一般に公開した。

さらに、イスラム原理主義勢力タリバンにより破壊されたバーミヤン東大仏の生涯を飾っていた壁画「太陽神と飛天」（奥行き7m、幅6m、高さ3.2m）の3D原寸大復元制作を実施、その成果は平成28年度公開が予定されている。

このように、美術分野における、これまでにない全く新しい研究領域が開発され、研究の質が大いに向上したといえる。



2. 音楽学部・音楽研究科

I	音楽学部・音楽研究科の研究目的と特徴	2-2
II	分析項目ごとの水準の判断	2-4
	分析項目 I 研究活動の状況	2-4
	分析項目 II 研究成果の状況	2-21
III	質の向上度の判断	2-22

I 音楽学部・音楽研究科の研究目的と特徴

東京芸術大学音楽学部・音楽研究科は、前身である文部省音楽取調掛・東京音楽学校の創設から120年を越える歴史を有し、その間、すぐれた音楽家・研究者を輩出しつづけ、我が国の音楽文化の発展に主導的な役割をはたしてきた。この間、先進性と独自性をそなえた創作・演奏・研究活動の伝統を次世代に継承するとともに、各時代の音楽文化に要請された課題につねに先駆的に取り組んできた実績も、国内外の高い評価をうけてきた。

現在の本学部・研究科は、作曲・声楽・器楽・指揮・邦楽・楽理・音楽環境創造・音楽文化の専門領域からなっている(資料2-1(P.2-4)、資料2-2(P.2-4~2-6))。これらの各専門領域の特色を生かし、複数領域のさまざまな協働を模索しながら、現代社会において芸術文化関係者および一般の音楽愛好者から本学部・研究科に期待されている伝統の継承と新たな音楽文化の創造をめざして、以下の5つの研究領域に重点をおき、研究を進めている。

1 国際的音楽文化研究の拠点形成

特にアジアにおける音楽文化研究に集中した前期の活動を発展させ、音楽を通じた国際的な教育・研究上の連携の中心となり得る総合的な拠点形成を目指す。アジア・アメリカ・ヨーロッパ諸国との人的交流、音楽文化の実態調査、交流演奏会や国際会議の企画・実施、研究者の受入・派遣等をはじめとした音楽文化研究の拠点となるべく、継続的・発展的な取り組みを行っている。

2 奏楽堂プロジェクト

奏楽堂を主要な舞台とし、音楽芸術の新たな創造・発信をめざして、音楽に対する現代的な要請にこたえる企画性の高い演奏会をジャンル・領域横断的なプロジェクトとして実施し、本学部・研究科にとって最も基本的な研究成果である音楽演奏を、多様な形式で発信しようとする試みである。創作・演奏・研究・運営といった音楽の各専門領域が揃った本学ならではの活動であり、音楽文化の創造・発信に貢献している。

3 音楽伝統の継承と再生

我が国初の音楽専門の教育研究機関として、日本のみならず東アジアの近代音楽の創出に大きな役割をはたしてきた本学部・研究科には、他に例をみない貴重な音楽資料とともに、西洋音楽・邦楽を問わず、各時代を特徴づける音楽作品の演奏・上演の実績が蓄積されている。それらの蓄積をさらに拡充し有効活用するべく、過去の記録のデジタルアーカイブ化を進めるとともに、主要演奏会についても収録をして、学外への公開を積極的に行っている。

4 音楽文化による地域貢献

現代社会においては、音楽をふくむ芸術と日常生活との接点となる地域社会との関係が重視されるとともに、地域振興において芸術文化のはたす役割も注目されている。本学部・研究科では、地元である台東区・足立区や東京都からの受託事業をはじめ、本学とさまざまな関係を結んでいる国内各地域において、地域の文化芸術活動のレベル向上や機会拡大、文化芸術環境の充実を目的に、我が国最高水準の芸術家養成を通じた地域文化活動への貢献及び蓄積された知的財産を活用した先端的な地域振興の在り方を追究している。

5 音楽・音響にかかわる新たな手法の開発・研究

メディア表現及び環境創造としての音・音響の可能性に、本学のもつ最先端の施設とノウハウを活用することによってアプローチし、社会における音・音響の新たな手法の開発・創造・発信を目指すものである。音響環境の構築や比較音響心理分析のほか、音楽・楽器・

音響機器に関する実践研究などが行われ、音響心理学的な実験と音楽制作の往復運動によって大きな成果を生み出している。

1 以上のように、本学部・研究科では、音楽という芸術領域において個人的にも組織的にもきわめて多様な活動を展開し、その成果は演奏会や学会のみならず学内外での活発な実践等を通じて広く社会に発信され、現代日本の音楽文化の発展に資するものとなっている。

II 「研究の水準」の分析・判定

分析項目 I 研究活動の状況

観点 研究活動の状況

(観点に係る状況)

本学部・研究科における創作・演奏・研究活動は、各教員が学内外で個々人の創意にもとづく個性的な活動を精力的に展開しており、本学奏楽堂での教員出演による公演は年間を通じて数多く行われ、その研究成果の発表を公開している。(資料 2-3(P. 2-6～P. 2-9)参照)。

これに加えて、学内においても大学院の研究室を単位としながらも、活動内容に応じて複数の学科や演奏芸術センター・音楽研究センターと協働し、時に学外の機関や研究者とも連携しつつ、多種多様な組織的活動がきわめて活発に行われている。

特に、奏楽堂プロジェクトにおいては(資料 2-4(P. 2-9)参照)、通常の研究室単位の活動を越えて、企画から実施段階まで複数の学科や専門領域による文字通り総力をあげた活動が展開されており、こうした経験が日常的な研究活動にもたらす波及効果は大きい。これらの活動をアーカイブ化してインターネット配信できるような体制も構築し、コンサートを単に記録するだけでなく、将来にわたって利用できるようにした。(資料 2-5(P. 2-10)参照)

また、国際的な音楽文化研究の拠点形成、音楽文化による地域貢献、音楽・音響にかかわる新たな手法の開発・研究において顕著な学外の機関・研究者との連携も、これまで以上に本学部・研究科の研究発信能力を高める効果を生んでおり、こうした協働への学生の直接的・間接的な参画は、教育面にもプラスに作用していると考えられる。

社会連携、産学連携事業も活発に展開され、地元の台東区、足立区、取手市との連携、協定に基づき、台東区では第九演奏会、木曜コンサート、市民音楽会といった演奏活動を行い、足立区では受託研究(音楽教育支援活動、福祉と子育て支援事業、芸術によるまちづくり事業)の他、足立区、東京都等との共催事業として「アートアクセス音まち千住の縁」といった音による地域プロジェクトを展開、さらに取手市では「取手アートプロジェクト」に参加をするなど、緊密な連携を保っている。(資料 2-8, 2-9(P. 2-14～P. 2. 20)参照)

産学連携では三菱地所とのプロジェクト「アーツイン丸の内」にて各科(声楽、オペラ、ピアノ、弦楽、管打楽、邦楽)による演奏会のほか、優秀な学生に三菱地所賞を授与し、記念リサイタルを行っている。また他の一例としてベーゼンドルファー東京サロンではピアノ科2年生全員による1年間かけてのコンサートを開催するなど、本学での教育・研究の成果を広く社会に還元し、地域社会への文化貢献に寄与することに力を注いでいる。

資料 2-1 学部と研究科の関係

音楽学部	音楽研究科	
	(修士課程)	(博士後期課程)
作曲科	作曲専攻	音楽専攻
声楽科	声楽専攻	
器楽科	器楽専攻	
指揮科	指揮専攻	
邦楽科	邦楽専攻	
楽理科	音楽文化学専攻	
音楽環境創造科		

資料 2-2: 音楽学部・大学院音楽研究科教員一覧
(平成 28 年 1 月現在)

■作曲	野平 一郎	教授	■器楽	サクソフォン	MALTA	客員教授	
	小鍛冶 邦隆	教授		ファゴット	岡崎 耕治	客員教授	
	安良岡 章夫	教授		トランペット	栃本 浩規	准教授	
	林 達也	准教授		トロンボーン	古賀 慎治	准教授	
	鈴木 純明	准教授		打楽器	藤本 隆文	准教授	
■声楽	寺谷 千枝子	教授	室内楽	松原 勝也	教授		
	永井 和子	教授		市坪 俊彦	准教授		
	川上 茂	教授		日高 剛	准教授		
	佐々木 典子	教授	古楽	野々下 由香里	教授		
	福島 明也	教授		大塚 直哉	准教授		
	吉田 浩之	教授	■指揮	高関 健	教授		
	勝部 太	教授		尾高 忠明	特別教授		
	平松 英子	教授		山下 一史	招聘教授		
	菅 英三子	教授		酒井 敦	助教		
	櫻田 亮	准教授	■邦楽	三味線	小島 直文	准教授	
	甲斐 栄次郎	准教授		長唄	味見 純	准教授	
	直井 研二	助教		箏曲 (山田流)	萩岡 松韻	教授	
	スティーブソン・ローチ	招聘教授		箏曲 (生田流)	吉川 さとみ	准教授	
		能楽 (観世流)		関根 知孝	教授		
■器楽	ピアノ	植田 克己	教授	能楽 (宝生流)	武田 孝史	教授	
		渡邊 健二	教授	邦楽囃子	盧 慶順	准教授	
		角野 裕	教授	日本舞踊	露木 雅弥	准教授	
		迫 昭嘉	教授	■音楽文化学	音楽学	土田 英三郎	教授
		伊藤 恵	教授			片山 千佳子	教授
		東 誠三	准教授			大角 欣矢	教授
		有森 博	准教授			塚原 康子	教授
		青柳 晋	准教授			植村 幸生	教授
		江口 玲	准教授		福中 冬子	准教授	
		坂井 千春	准教授	音楽教育	佐野 靖	教授	
		オルガン	廣江 理枝	准教授		山下 薫子	教授
		ヴァイオリン	清水 高師	教授	ソルフェージュ	照屋 正樹	教授
			澤 和樹	教授		テシュネ ローラン	准教授
		漆原 朝子	准教授	応用音楽学	枝川 明敬	教授	
		玉井 菜採	准教授		畑 瞬一郎	教授	
		堀 正文	客員教授	音楽文芸	檜山 哲彦	教授	
		ヘルヴィック・ツァック	招聘教授		杉本 和寛	教授	
ヴィオラ	川崎 和憲	教授		大森 晋輔	准教授		
チェロ	河野 文昭	教授		侘美 真理	准教授		
コントラバス	中木 健二	准教授	■音楽環境創造	西岡 龍彦	教授		
	池松 宏	准教授		熊倉 純子	教授		
クラリネット	吉田 秀	准教授		亀川 徹	教授		
	山本 正治	教授					
フルート	伊藤 圭	特任准教授					
	高木 綾子	准教授					
オーボエ	小畑 善昭	教授					
サクソフォン	須川 展也	招聘教授					

■音楽環境創造	市村 作知雄	准教授	■演奏芸術センター	佐藤 美晴	特任准教授
	毛利 嘉孝	准教授		岩崎 真	助教
	丸井 淳史	准教授		千住 明	客員教授
■言語・音声トレーニングセンター	磯部 美和	講師	■早期教育フロンティアセンター	西川 信廣	客員教授
	シュタイン, ミハエル	外国人教師		林 英哲	客員教授
	コリンズ, キム, ソコ	助教		安田 茂美	客員教授
	ヴァリエル, エリック	助教		米山 峰夫	客員教授
	ジェレビッチ, アレクサンドロ	助教		宮本 文秀	特任准教授
	クリンスキ, ルーベン	助教		小山 文加	特任助教
■演奏芸術センター	平田 アンナ	特任講師	■音楽創造・研究センター	佐藤 文香	特任助教
	松下 功	教授		高橋 智子	特任助教
	湯浅 卓雄	教授		中田 朱美	特任助教
	大石 泰	准教授		山岸 佳愛	特任助教
	野口 千代光	准教授			

資料 2-3 本学教員における主なリサイタル、演奏会等（平成 27 年度）

教員名	専攻	役職	演奏会名
高関 健	指揮	教授	藝大フィルハーモニア定期 新卒業生紹介演奏会（奏楽堂4月17日）
野平一郎	作曲(ピアノ)	教授	藝大21 創造の杜（奏楽堂4月24日）
山下一史	指揮	招聘教授	藝大21 創造の杜（奏楽堂4月24日）
高関健	指揮	教授	モーニング・コンサート1（奏楽堂4月30日）
平松英子	声楽	教授	藝大プロジェクト2015 ゲーテ～人とその時代 I（奏楽堂5月9日）
高関 健	指揮	教授	モーニング・コンサート2（奏楽堂5月14日）
高関 健	指揮	教授	モーニング・コンサート3（奏楽堂5月21日）
オラフ・オット	器楽・トロンボーン	卓越教授	管打楽器シリーズ「ベルリン・フィル首席オラフ・オットを迎えて」(奏楽堂5月22日)
古賀慎治	器楽・トロンボーン	准教授	管打楽器シリーズ「ベルリン・フィル首席オラフ・オットを迎えて」(奏楽堂5月22日)
廣江理枝	オルガン	准教授	管打楽器シリーズ「ベルリン・フィル首席オラフ・オットを迎えて」(奏楽堂5月22日)
山本正治	器楽・クラリネット	教授	管打楽器シリーズ「ベルリン・フィル首席オラフ・オットを迎えて」(奏楽堂5月22日)
漆原朝子	器楽・ヴァイオリン	准教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」ブラームス室内楽のよこび第1回(奏楽堂5月24日)
玉井菜摘	器楽・ヴァイオリン	准教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」ブラームス室内楽のよこび第1回(奏楽堂5月24日)
山下一史	指揮	招聘教授	モーニング・コンサート4(奏楽堂5月28日)
高関 健	指揮	教授	第369回藝大定期学生オーケストラ代52回定期演奏会(奏楽堂5月28日)
青柳晋	器楽・ピアノ	准教授	第369回藝大定期学生オーケストラ代52回定期演奏会(奏楽堂5月28日)
松原勝也	器楽・ヴァイオリン	教授	室内楽講堂コンサート2015(奏楽堂5月30日)
市坪俊彦	器楽・ヴァイオリン	准教授	室内楽講堂コンサート2015(奏楽堂5月30日)
日高剛	器楽・ホルン	准教授	室内楽講堂コンサート2015(奏楽堂5月30日)
山本正治	器楽・クラリネット	教授	室内楽講堂コンサート2015(奏楽堂5月30日)
小畑善昭	器楽・オボエ	教授	室内楽講堂コンサート2015(奏楽堂5月30日)
吉田秀	器楽・コントラバス	准教授	室内楽講堂コンサート2015(奏楽堂5月30日)
檜山哲彦	音楽文芸	教授	藝大プロジェクト2015 ゲーテ～人とその時代IIゲーテと音楽仲間(奏楽堂6月6日)
野口千代光	器楽・ヴァイオリン	准教授	藝大プロジェクト2015 ゲーテ～人とその時代IIゲーテと音楽仲間(奏楽堂6月6日)
清水高師	器楽・ヴァイオリン	教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 ブラームス室内楽のよこび第2回(奏楽堂6月7日)
松原勝也	器楽・ヴァイオリン	教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 ブラームス室内楽のよこび第2回(奏楽堂6月7日)
市坪俊彦	器楽・ヴァイオリン	准教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 ブラームス室内楽のよこび第2回(奏楽堂6月7日)
中木健二	器楽・チェロ	准教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 ブラームス室内楽のよこび第2回(奏楽堂6月7日)
青柳晋	器楽・ピアノ	准教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 ブラームス室内楽のよこび第2回(奏楽堂6月7日)
江口玲	器楽・ピアノ	准教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 ブラームス室内楽のよこび第2回(奏楽堂6月7日)
迫昭嘉	器楽・ピアノ	教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 ブラームス室内楽のよこび第2回(奏楽堂6月7日)

東京芸術大学音楽学部・音楽研究科

澤和樹	指揮	教授	モーニング・コンサート5 (奏樂堂6月18日)
大塚直哉	指揮	准教授	東京藝大チェンバーオーケストラ代25回定期演奏会 (奏樂堂6月20日)
高関健	指揮	教授	モーニング・コンサート6 (奏樂堂6月25日)
山下一史	指揮	招聘教授	奏樂堂トーク&コンサート「学長と語ろうXVII」(奏樂堂6月27日)
湯浅卓雄	指揮	教授	モーニング・コンサート7 (奏樂堂7月2日)
山本正治	指揮	教授	東京藝大ウインドオーケストラ学内演奏会 (7月2日)
邦楽教員	邦楽	—	藝大21 藝大とあそぼう 邦楽のお作法 (奏樂堂7月4日)
味見純	長唄	准教授	「民族楽器」との邂逅小泉丈夫のメッセージ (奏樂堂7月5日)
山下一史	指揮	招聘教授	藝大学生オーケストラ プロムナード・コンサート9 (奏樂堂7月7日)
澤和樹	器楽・ヴァイオリン	教授	シモン・ゴールドドブレドミルク メモリアル・コンサート (奏樂堂7月7日)
高関健	指揮	教授	モーニング・コンサート8 (奏樂堂7月9日)
ヴェンツェル・フックス	器楽・ヴァイオリン	卓越教授	ヴェンツェル・フックスを迎えて (奏樂堂7月9日)
山本正治	器楽・ヴァイオリン	教授	ヴェンツェル・フックスを迎えて (奏樂堂7月9日)
福島明也	声楽	教授	青山恵子 日本の詩コンサート (奏樂堂7月19日)
甲斐栄次郎	声楽	准教授	NPO 法人日本声楽家協会特別演奏会 (奏樂堂7月20日)
湯浅卓雄	指揮	教授	モーニング・コンサート9 (奏樂堂7月23日)
山下一史	指揮	招聘教授	モーニング・コンサート10 (奏樂堂9月9日)
萩原松韻	山田流箏曲	教授	藝大21 和楽の美「ヒミコ日輪の女王」(奏樂堂9月11日)
小島直文	長唄三味線	准教授	藝大21 和楽の美「ヒミコ日輪の女王」(奏樂堂9月11日)
味見純	長唄	准教授	藝大21 和楽の美「ヒミコ日輪の女王」(奏樂堂9月11日)
吉川さとみ	生田流箏曲	准教授	藝大21 和楽の美「ヒミコ日輪の女王」(奏樂堂9月11日)
関根孝	観世流	教授	藝大21 和楽の美「ヒミコ日輪の女王」(奏樂堂9月11日)
武田孝史	宝生流	教授	藝大21 和楽の美「ヒミコ日輪の女王」(奏樂堂9月11日)
盧慶順	邦楽雑子	准教授	藝大21 和楽の美「ヒミコ日輪の女王」(奏樂堂9月11日)
露木雅也	日本舞踊	准教授	藝大21 和楽の美「ヒミコ日輪の女王」(奏樂堂9月11日)
スファテノ・マシラジエロ	指揮	特別招聘教授	藝大オペラ定期第61回 第1日 (奏樂堂10月3日)
スファテノ・マシラジエロ	指揮	特別招聘教授	藝大オペラ定期第61回 第2日 (奏樂堂10月4日)
ディートハム・オース	器楽・オボエ	特別招聘教授	管打楽器シリーズ 名手で聴くバロック音楽 オール協奏曲プログラム (奏樂堂10月17日)
小畑善昭	器楽・オボエ	教授	管打楽器シリーズ 名手で聴くバロック音楽 オール協奏曲プログラム (奏樂堂10月17日)
セゾコ・アツタリニ	器楽・ヴァイオリン	特別招聘教授	管打楽器シリーズ 名手で聴くバロック音楽 オール協奏曲プログラム (奏樂堂10月17日)
ドミク・ウーラー	指揮	特別招聘教授	東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校大27回定期演奏会 (奏樂堂10月24日)
高関健	指揮	教授	藝大フィルハーモニア定期 (第371回藝大定期) (奏樂堂10月30日)
ロンドガレレ	器楽・ヴァイオリン	卓越教授	弦楽シリーズ フランスの名手たち「フォーレとドビュッシー」(奏樂堂10月31日)
ブルノ・パスエ	器楽・ヴァイオリン	卓越教授	弦楽シリーズ フランスの名手たち「フォーレとドビュッシー」(奏樂堂10月31日)
カサヤ・ウツクサ	器楽・ピアノ	卓越教授	弦楽シリーズ フランスの名手たち「フォーレとドビュッシー」(奏樂堂10月31日)
高木綾子	器楽・フルート	准教授	弦楽シリーズ フランスの名手たち「フォーレとドビュッシー」(奏樂堂10月31日)
中木健二	器楽・チェロ	准教授	弦楽シリーズ フランスの名手たち「フォーレとドビュッシー」(奏樂堂10月31日)
植田克己	器楽・ピアノ	教授	弦楽シリーズ フランスの名手たち「フォーレとドビュッシー」(奏樂堂10月31日)
佐々木典子	声楽	教授	うたシリーズ山田耕筰没後50年 (奏樂堂11月7日)
菅英三子	声楽	教授	うたシリーズ山田耕筰没後50年 (奏樂堂11月7日)
平松英子	声楽	教授	うたシリーズ山田耕筰没後50年 (奏樂堂11月7日)
寺谷千枝子	声楽	教授	うたシリーズ山田耕筰没後50年 (奏樂堂11月7日)
永井和子	声楽	教授	うたシリーズ山田耕筰没後50年 (奏樂堂11月7日)
吉田浩之	声楽	教授	うたシリーズ山田耕筰没後50年 (奏樂堂11月7日)
櫻田亮	声楽	准教授	うたシリーズ山田耕筰没後50年 (奏樂堂11月7日)
勝部太	声楽	教授	うたシリーズ山田耕筰没後50年 (奏樂堂11月7日)
福島明也	声楽	教授	うたシリーズ山田耕筰没後50年 (奏樂堂11月7日)
甲斐栄次郎	声楽	准教授	うたシリーズ山田耕筰没後50年 (奏樂堂11月7日)

植田克己	器楽・ピアノ	教授	うたシリーズ山田耕筰没後50年 (奏楽堂11月7日)
高木綾子	器楽・フルト	准教授	うたシリーズ山田耕筰没後50年 (奏楽堂11月7日)
澤和樹	器楽・ヴァイオリン	教授	うたシリーズ山田耕筰没後50年 (奏楽堂11月7日)
山本正治	器楽・クラリネット	教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび第3回 (奏楽堂11月8日)
澤和樹	器楽・ヴァイオリン	教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび第3回 (奏楽堂11月8日)
ブルーノ・バスチ	器楽・ヴァイオリン	卓越教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび第3回 (奏楽堂11月8日)
中木健二	器楽・チェロ	准教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび第3回 (奏楽堂11月8日)
東誠三	器楽・ピアノ	准教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび第3回 (奏楽堂11月8日)
伊藤恵	器楽・ピアノ	准教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび第3回 (奏楽堂11月8日)
植田克己	器楽・ピアノ	教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび第3回 (奏楽堂11月8日)
迫昭嘉	器楽・ピアノ	教授	モーニング・コンサート11 (奏楽堂11月12日)
迫昭嘉	器楽・ピアノ	教授	韓国延世大学校音楽学部交流演奏会2 (第6ホール11月18日)
玉井菜摘	器楽・ヴァイオリン	准教授	韓国延世大学校音楽学部交流演奏会2 (第6ホール11月18日)
パスカ・モダス	器楽・クラリネット	招聘教授	パスカ・モダスを迎えて「モーツァルトは好き？」(奏楽堂11月22日)
山本正治	器楽・クラリネット	教授	パスカ・モダスを迎えて「モーツァルトは好き？」(奏楽堂11月22日)
小畑諒昭	器楽・オボエ	教授	パスカ・モダスを迎えて「モーツァルトは好き？」(奏楽堂11月22日)
山本正治	器楽・クラリネット	教授	東京藝大ウインドオーケストラ 第81回定期演奏会 (奏楽堂11月23日)
山下一史	指揮	招聘教授	モーニング・コンサート12 (奏楽堂11月26日)
迫昭嘉	器楽・ピアノ	教授	遠藤会「海道東征」(奏楽堂11月28日)
松原勝也	器楽・ヴァイオリン	教授	遠藤会「海道東征」(奏楽堂11月28日)
河野文昭	器楽・チェロ	教授	遠藤会「海道東征」(奏楽堂11月28日)
菅英三子	声楽	教授	遠藤会「海道東征」(奏楽堂11月28日)
平松英子	声楽	教授	遠藤会「海道東征」(奏楽堂11月28日)
永井和子	声楽	教授	遠藤会「海道東征」(奏楽堂11月28日)
寺谷千枝子	声楽	教授	遠藤会「海道東征」(奏楽堂11月28日)
福島明也	声楽	教授	遠藤会「海道東征」(奏楽堂11月28日)
甲斐栄次郎	声楽	准教授	遠藤会「海道東征」(奏楽堂11月28日)
湯浅卓雄	指揮	教授	遠藤会「海道東征」(奏楽堂11月28日)
野口千代光	器楽・ヴァイオリン	准教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび 第4回 (奏楽堂11月29日)
玉井菜摘	器楽・ヴァイオリン	准教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび 第4回 (奏楽堂11月29日)
市村俊彦	器楽・ヴァイオリン	准教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび 第4回 (奏楽堂11月29日)
河野文昭	器楽・チェロ	教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび 第4回 (奏楽堂11月29日)
東誠三	器楽・ピアノ	准教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび 第4回 (奏楽堂11月29日)
伊藤恵	器楽・ピアノ	教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび 第4回 (奏楽堂11月29日)
ジャック・ワレ	器楽・ピアノ	卓越教授	ピアノシリーズ「音楽の至宝」Vol.3 プラームス室内楽のよろこび 第4回 (奏楽堂11月29日)
小島直文	長唄三味線	准教授	邦楽定期演奏会 第82回 (奏楽堂12月2日)
味見純	長唄	准教授	邦楽定期演奏会 第82回 (奏楽堂12月2日)
萩岡松韻	山田流箏曲	教授	邦楽定期演奏会 第82回 (奏楽堂12月2日)
吉川さとみ	生田流箏曲	准教授	邦楽定期演奏会 第82回 (奏楽堂12月2日)
関根孝	観世流	教授	邦楽定期演奏会 第82回 (奏楽堂12月2日)
武田孝史	宝生流	教授	邦楽定期演奏会 第82回 (奏楽堂12月2日)
盧慶順	邦楽雑子	准教授	邦楽定期演奏会 第82回 (奏楽堂12月2日)
露木雅也	日本舞踊	准教授	邦楽定期演奏会 第82回 (奏楽堂12月2日)
青柳晋	器楽・ピアノ	准教授	障がいとアート 第2日 (第6ホール・奏楽堂12月6日)
迫昭嘉	器楽・ピアノ	教授	第35回「台東第九公演」下町で第九 (奏楽堂12月20日)
山下一史	指揮	招聘教授	第65回チャリティー・コンサートメサイア公演 (東京文化会館大ホール12月24日)
フリップ・ミュール	器楽・チェロ	卓越教授	フリップ・ミュールを迎えて (奏楽堂1月22日)

東誠三	器楽・ピアノ	准教授	フリップ・ミュールを迎えて (奏楽堂1月22日)
河野文昭	器楽・チェロ	教授	フリップ・ミュールを迎えて (奏楽堂1月22日)
中木健二	器楽・チェロ	准教授	フリップ・ミュールを迎えて (奏楽堂1月22日)
高木綾子	器楽・フルート	准教授	東京藝大チェンバーオーケストラ 第26回定期演奏会 (奏楽堂2月11日)
廣工理江	カガシ	准教授	上野の森オルガンシリーズ マックス・レーガー没後100年を記念して (奏楽堂2月21日)
寺谷千枝子	声楽	教授	寺谷千枝子退任記念演奏会 (奏楽堂3月19日)
野平一郎	器楽・ピアノ	教授	寺谷千枝子退任記念演奏会 (奏楽堂3月19日)

資料 2-4 演奏芸術センター企画演奏会 (平成 27 年度)

※奏楽堂プロジェクトとして、以下の3点に企画内容を分けて、本学の特色を活かした他の演奏団体ではできない各種の企画を展開している。

- ①藝大プロジェクト：音楽学部各講座の枠を越えたインタラクティブな試み、
- ②奏楽堂シリーズ：音楽学部各講座の専門性、独自性を活かしたコンサートシリーズ
- ③藝大 21：広いパースペクティブで「今」という時代を見つめる企画)

※①～③に該当しない通常の定期演奏会は掲載していない。

※会場は本学奏楽堂。

No	種類	演奏会名	年月日		入場者数	備考
1	①	藝大プロジェクト 2015 「ゲーテ ～人とその時代」 第1回 『ファウスト』ことはじめ	H27. 5. 9	土	441	
2	①	藝大プロジェクト 2015 「ゲーテ ～人とその時代」 第2回 ゲーテと音楽仲間	H27. 6. 6	土	398	
3	①	藝大プロジェクト 2015 「ゲーテ ～人とその時代」 第3回 恋愛遍歴と創作	H27. 10. 25	日	418	
4	②	ピアノ・シリーズ 2015 「音楽の至宝」 Vol. 3 ブラームス 室内楽のよろこび 第1回	H27. 5. 24	日	533	
5	②	ピアノ・シリーズ 2015 「音楽の至宝」 Vol. 3 ブラームス 室内楽のよろこび 第2回	H27. 6. 7	日	580	
6	②	ピアノ・シリーズ 2015 「音楽の至宝」 Vol. 3 ブラームス 室内楽のよろこび 第3回	H27. 11. 8	日	559	
7	②	ピアノ・シリーズ 2015 「音楽の至宝」 Vol. 4 ブラームス 室内楽のよろこび 第4回	H27. 11. 29	日	718	
8	②	管打楽器シリーズ 2015 「ベルリン・フィル首席トロンボーン奏者 オラフ・オットを迎えて」	H27. 5. 22	金	719	
9	②	管打楽器シリーズ 2015 名手で聴くバロック音楽「オール協奏曲プログラム」	H27. 10. 17	土	545	
10	②	弦楽シリーズ 2015 フランスの名手たち「フォーレとドビュッシー」	H27. 10. 31	土	731	
11	②	うたシリーズ 2015 山田耕筰没後 50 年	H27. 11. 7	土	836	
12	③	藝大 21 創造の杜 2015 「藝大現代音楽の夕べ」	H27. 4. 24	金	408	
13	③	藝大 21 藝大とあそぼう 2015 「邦楽のお作法～邦楽と友達になろう！」	H27. 7. 4	土	431	
14	③	藝大 21 時の響き ジャズ in 藝大 2015 ～ジャズとロックとフュージョンと	H27. 7. 25	土	846	
15	③	藝大 21 和楽の美 邦楽絵巻「ヒミコ」	H27. 9. 11	金	505	

資料 2-5 学外公開しているアーカイブデータ（演奏会）数一覧

本プロジェクトの研究目的であるアーカイブしたデータを活用する方法の一つとして、公演収録映像・音源のウェブ配信を行った。2011年度より学内視聴をはじめ様々な検証を行い、2014年度より権利処理できた楽曲の学外公開を開始した。保存された全てのデータを学外公開することは、権利関係の諸問題がありできていない。

①1955～1963年度の著作隣接権が満了した定期演奏会など

②2008年以降の博士学位審査会

③2011～2015年度の定期演奏会など

年度	アーカイブした公演数	映像もしくは音源の学外公開	公演文字情報	備考
1955	1	0	1	
1956	0	0	0	
1957	0	0	0	
1958	3	0	2	
1959	9	0	4	
1960	9	0	5	
1961	7	0	1	
1962	10	0	2	
1963	10	0	0	
小計①	49	0	15	
2003	8	0	0	
2004	22	0	0	
2005	22	0	0	
2006	20	0	0	
2007	19	0	0	
2008	29	0	0	
2009	32	0	0	
2010	27	0	0	
小計②	179	0	0	
2011	65	0	71	著作隣接権の承諾書(学内利用)を全公演にて収集開始
2012	65	0	65	著作隣接権の取扱要項の制定(学内利用)
2013	62	0	60	
2014	78	27	72	著作隣接権の取扱要項改定(学外利用)
2015	65	15	67	
小計③	335	42	335	
合計	563	42	350	

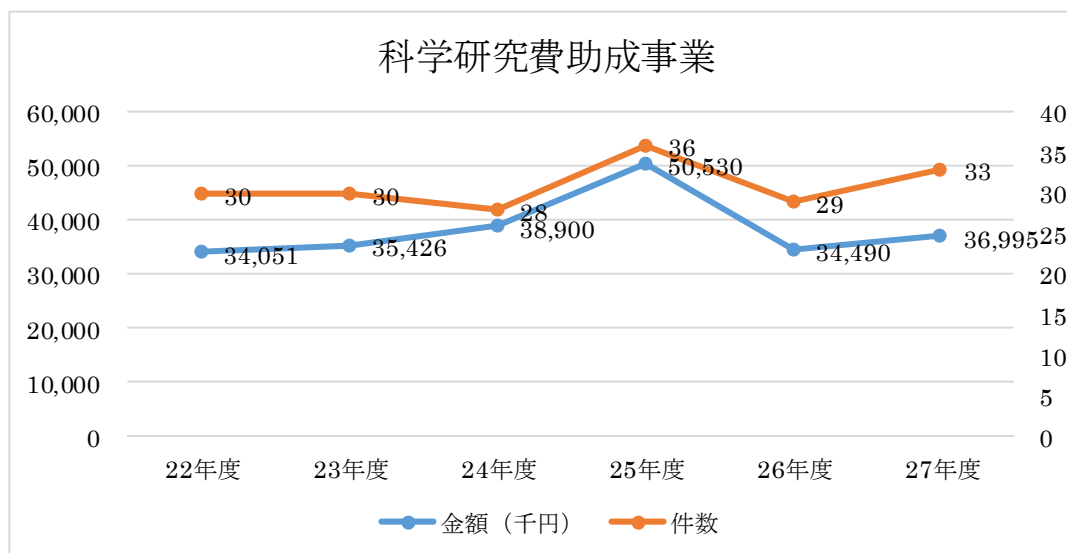
(水準) 期待される水準を上回る
(判断理由)

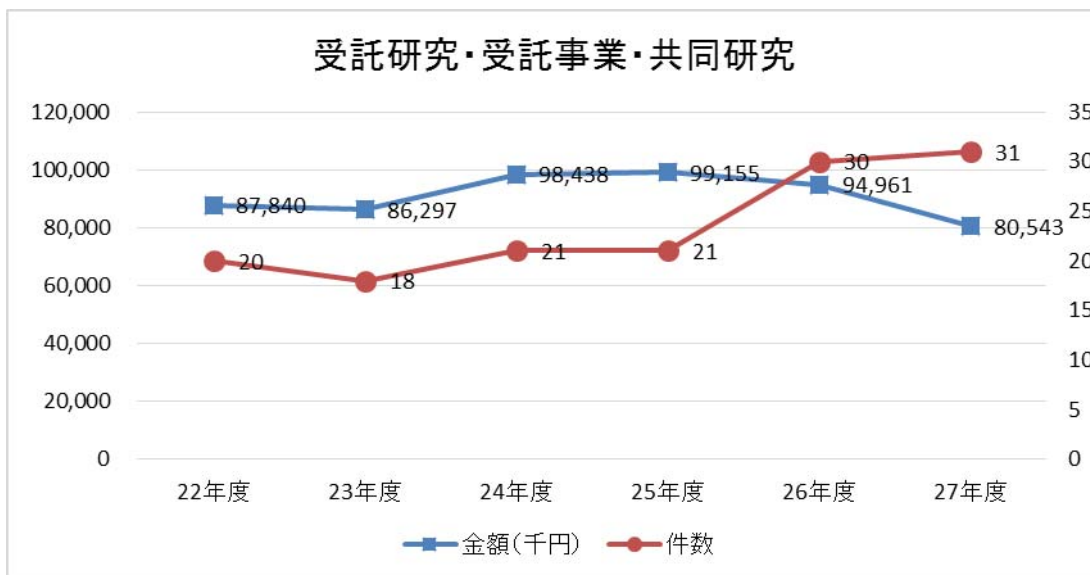
資料 2-3(P. 2-6～P. 2-9)に示したように、教員の公開演奏による研究成果発表の開催数は非常に高い水準にある。科学研究費助成事業の採択数も、この間、着実に伸びを示しており、平成 20 年度に、分科「芸術学」中に初めて細目「芸術学・芸術史・芸術一般」が設定されるまで、音楽や音楽学を含む関連細目が存在しなかったことを考慮すれば、規模に対して高い水準を保ってきたと言える。また、新たな細目が加わったことで演奏中心に活動してきた教員の間でも研究費獲得に対する意欲が高まり、実技系の教員の申請数も伸びている。

受託研究や受託事業、共同研究についても、少しずつではあるが件数、金額とも伸びている。(資料 2-6, 2-7, 2-8 参照)

また新国立劇場との連携事業として平成20年度から行っている、「新国立劇場オペラパレス舞台上でのオペラ授業」は、学生が本格的なオペラ劇場での空間と音響を肌で感じることができる有意義な経験となっている。これは平成25年度～27年度の文化庁支援事業「大学を活用した文化芸術推進事業～オペラにおけるアートマネジメント人材育成事業～」としての支援に繋がり、より発展的に東京芸術大学オペラ定期公演や新国立劇場での制作現場への参加を通じたオペラ制作マネジメントの人材育成事業として継続していった。この中で研修者は劇場・音楽堂職員、音楽事業経営者、公共機関等の文化担当者、音楽大学の演奏企画担当者等を全国から募集し、その研修プログラムは、東京芸術大学の教員や学外の専門家によるレクチャーやワークショップ、練習見学や本番鑑賞など、オペラ公演を支える理論や実践を通じてオペラ制作全体を包括的に学ぶように構成され、大きな成果をあげた。

資料 2-6 外部資金の推移





資料 2-7 平成 22～27 年度科学研究費補助金交付課題一覧 ※職名は新規採択時

平成22年度				
1	基盤研究 B(一般)	講師	橋本 久美子	東京音楽学校・東京美術学校の受託作に見る近代日本の芸術教育
2	基盤研究 C(一般)	講師	尾高 暁子	中華民国期後半の上海におけるアマチュア遊芸活動
3	基盤研究 C(一般)	教授	守山 光三	作曲時の楽器の再現によるオーケストラレパートリーの探求
4	若手研究 B	講師	森田 都紀	能の音楽の歴史的研究 - 森田流能管の音楽伝承の形成過程 -
5	若手研究 B	講師	濱崎 友絵	イスタンブール音楽院の設立にみるトルコの音楽変容
6	研究活動スタート支援	助手	藤嶋 ちはる	アイスラーとデッサウー亡命期の祖国を主題とした大規模作品をめぐって
7	研究活動スタート支援	助手	葛西 周	日本の植民地政策における音楽の機能の研究:1930～40年代の台湾・朝鮮を中心に
8	研究活動スタート支援	助手	丸山 洋司	近代における北インド古典音楽理論の構築ーラーガ分類法の確立をめぐる問題点
平成23年度				
1	基盤研究 B(一般)	准教授	毛利 嘉孝	多文化社会におけるメディアの公共性と文化的市民権
2	基盤研究 C(一般)	講師	松村 智郁子	明治期における蝸管蓄音機を受容と普及の研究ー音楽、声の記録と社会的背景を中心にー
3	基盤研究 C(一般)	教授	佐野 靖	音楽アウトリーチ活動の評価に関する研究
4	基盤研究 C(一般)	教授	塚原 康子	海軍軍楽長・吉本光蔵日記の研究ー20世紀初頭の日欧間における音楽情報交流
5	基盤研究 C(一般)	准教授	福中 冬子	「文化的自由の為の会議」から検証する、現代音楽における「政治性」
6	基盤研究 C(一般)	講師	野川 美穂子	地歌と地歌以外の三味線音楽との楽曲交流に関する研究
7	若手研究 B	助教	磯部 美和	統語理論を基盤とした日本語獲得過程の解明
8	研究活動スタート支援	助手	成田 麗奈	1920年代フランスにおける「前衛音楽」の表象
平成24年度				
1	基盤研究 B(一般)	准教授	植村 幸生	大学と地域の連携による江戸伝統音楽・芸能の継承支援:新たなインリーチを求めて
2	基盤研究 C(一般)	講師	長谷川 慎	野川流の地歌三味線についての研究
3	基盤研究 C(一般)	教授	萩岡 松韻	山田流箏曲の古曲についての研究

東京芸術大学音楽学部・音楽研究科

4	基盤研究 C(一般)	教授	枝川 明敬	地域固有の精神文化に基づく文化活動が地域活性化に及ぼす効果とその方策に関する研究
5	若手研究B	助手	葛西 周	近代日本の植民地映画における音楽の象徴性の比較的研究
6	若手研究B	准教授	大森 晋輔	ビエール・クロソウスキーの作品における言語論の研究
7	若手研究B	助手	大沼 覚子	戦後日本の幼稚園における音楽活動の展開に関する総合的研究
8	研究活動スタート支援	助手	前島 美保	江戸期上方歌舞伎の音楽演出に関する基礎的研究
9	研究活動スタート支援	助手	大矢 素子	文化史としての楽器開発ー20世紀前半フランスの電子楽器を事例として
平成25年度				
1	基盤研究 B(一般)	教授	大角 欣矢	信時潔に関する基礎的研究ー作品・資料目録データベースの作成と主要作品の研究
2	基盤研究 C(一般)	准教授	大塚 直哉	17世紀の鍵盤音楽における分割鍵盤使用の可能性～中全音律による演奏法の研究～
3	挑戦的萌芽研究	助教	中村 美亜	東日本大震災後の追悼や復興と音楽の関わりに関する学際的研究
4	挑戦的萌芽研究	教授	山下 薫子	わが国における数字譜の史的展開ーその音楽知覚・認知的特性を視点とした再評価ー
5	挑戦的萌芽研究	助教	関根 和江	シモン・ゴールドベルク文庫構築と公開に向けての研究
6	若手研究 B	講師	丸山 洋司	インドとミャンマーにおける西洋楽器の受容に関する民族音楽学的研究
7	若手研究 B	助手	成田 麗奈	1870-1945年間のフランスで刊行された音楽史書における「現代音楽」記述
8	若手研究 B	助手	横山 淳子	ドイツ歌曲の発展におけるゲーテの役割ー民謡の受容と展開
9	研究活動スタート支援	助手	安納 真理子	現代における能楽の伝承形態と実践ー外国人能指導プログラムを事例としてー
10	研究活動スタート支援	助手	長津 結一郎	社会的排除と表現の現在の諸相:「良心的支持者」の立場に着目して
11	研究成果公開促進費(学術図書)	講師	土田 牧子	黒御簾音楽にみる歌舞伎の近代ー囃子付帳を読み解くー
平成26年度				
1	基盤研究 C(一般)	准教授	福中 冬子	戦後フランスの現代音楽創作・受容から検証する、音楽における冷戦の射程
2	若手研究 A	研究員	毛 Y	中国古箏の楽器改良における日本伝統技術の活用に関する実践的研究
3	若手研究 B	研究員	鳥谷部 輝彦	日本伝七絃琴の研究ー日本・中国の琴譜の比較と古譜の演奏解釈を通してー
4	若手研究 B	講師	土田 牧子	「小芝居」における音楽演出の研究ー近代歌舞伎の多様性をめぐってー
5	若手研究 B	研究員	三枝 まり	近衛秀麿研究ー作品・資料目録データベース作成と資料の分析を通して
6	若手研究 B	研究員	柴田 真希	黒川能の音楽技法に見られる五流との影響関係に関する研究
7	研究成果公開促進費(学術図書)	准教授	大森 晋輔	ビエール・クロソウスキー
平成27年度				
1	基盤研究 C(一般)	助手	宮内 基弥	近世邦楽と民謡の音楽構造の比較研究ー音階および音組織の観点からー
2	基盤研究 C(一般)	講師	城島(増野) 亜子	宗教的マイノリティの文化表象ーインドネシア、バリ島ムスリムの芸能民族誌

3	基盤研究 C(一般)	教授	枝川 明敬	地域活性化再構築につながる地域固有の文化活動の効果とその具体的展開に関する研究
4	基盤研究 C(一般)	准教授	廣江 理枝	日本のオルガン演奏黎明期の楽器研究
5	基盤研究 C(一般)	講師	松村 智郁子	蝋管蓄音機の歴史的背景に関する総合的研究—明治期の新聞メディアを通じて—
6	基盤研究 C(一般)	教授	萩岡 松韻	文化財としてみた地歌箏曲の研究—伝承の危機にある楽曲のアーカイブ化を目的として
7	基盤研究 C(一般)	講師	磯部 美和	動詞複合の獲得—実証研究と理論研究の接点
8	若手研究 B	講師	葛西 周	戦前・戦中期東アジアにおける音楽ジャンル観の変遷
9	若手研究 B	研究員	西岡 瞳	梵鐘の音響解析に基づく日本独自の音響創造に関する研究

資料 2-8 平成22～27年度受託研究・受託事業・共同研究の受入課題

平成 2 2 年度				
種別	受入部局	研究代表者	研究題目	相手先
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第 2 期 1 年次〕(音楽教育支援活動)	足立区教育委員会
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第 2 期 1 年次〕(福祉と子育て支援事業)	足立区教育委員会
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第 2 期 1 年次〕(芸術によるまちづくり事業)	足立区教育委員会
受託研究	音楽学部	亀川徹	ラウドネスを考慮したテレビ音声レベルの最適化に関する研究	社団法人日本民間放送連盟
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第 2 期 1 年次〕(冬季における地域シンボル形成イベント)	足立区教育委員会
受託研究	音楽学部	西岡龍彦	美術展「陶酔のパリ・モンマルトル 1880-1910」の音楽制作	株式会社アートインプレクション
受託事業	音楽学部	植田克己	2010年日本国際賞授賞式式典及び祝宴における演奏	(財)国際科学技術財団
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	平成 22 年春の叙勲勲章伝達式における演奏、平成 22 年春の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課
受託事業	演奏芸術センター	杉木峯夫	霞ヶ関から文化プロジェクト参加企画霞ヶ関コモンゲートコンサート	霞ヶ関コモンゲート管理組合管理者(株)新日鉄都市開発
受託事業	音楽学部	山本正治	小山実稚恵&東京芸術大学学生オーケストラの協演	財団法人 岡谷市振興公社
受託事業	音楽学部	植田克己	文京シビック合唱団第8回定期演奏会	文京シビック合唱団
受託事業	音楽学部	植田克己	第60回チャリティーコンサート「メサイア」	社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	平成22年度文化功労者顕彰式における演奏 平成22年秋の叙勲勲章伝達式における演奏 平成22年秋の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課

東京芸術大学音楽学部・音楽研究科

受託事業	演奏芸術センター	杉木峯夫	北とびあ国際音楽祭 2010『藝大とあそぼうin北とびあ』	北区文化振興財団
受託事業	音楽学部	植田克己	LEXUS Concert in 東京藝大2010	東京トヨペット(株)
受託事業	音楽学部	亀川 徹	足立区立中学校校歌の音源制作	足立区教育委員会
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	平成 22 年文部科学大臣優秀教員表彰式における演奏	文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
受託事業	音楽学部	守山光三	「四世花柳寿輔傘寿の会」における演奏	四世花柳寿輔傘寿の会」実行委員会
共同研究	音楽学部	亀川 徹	再生音場空間における奥行き感評価手法の検討	パナソニック株式会社 AVCネットワークス社
平成 2 3 年度				
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化的芸術環境の創造に関する調査研究〔第 2 期 2 年次〕(音楽教育支援活動)	足立区
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化的芸術環境の創造に関する調査研究〔第 2 期 2 年次〕(福祉と子育て支援事業)	足立区
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化的芸術環境の創造に関する調査研究〔第 2 期 2 年次〕(芸術によるまちづくり事業)	足立区
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化的芸術環境の創造に関する調査研究〔第 2 期 2 年次〕(千手の絆プロジェクト)	足立区
受託研究	音楽学部	西岡龍彦	クラシック音楽を原曲とするアレンジの可能性	株式会社ランプリング・レコーズ
受託事業	演奏芸術センター	杉木峯夫	霞ヶ関から文化プロジェクト参加企画霞ヶ関コンモングートコンサート	霞ヶ関コンモングート管理組合管理者(株)新日鉄都市開発
受託事業	演奏芸術センター	杉木峯夫	霞ヶ関から文化プロジェクト参加企画霞ヶ関ビルディング コンサート	三井不動産株式会社 上記代理人 三井不動産ビルマネジメント株式会社
受託事業	音楽学部	植田克己	文京シビック合唱団第9回定期演奏会	文京シビック合唱団
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	平成 23 年春の叙勲 勲章伝達式における演奏 平成 23 年春の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長
受託事業	演奏芸術センター	杉木峯夫	北とびあ国際音楽祭2011『藝大とあそぼうin北とびあ』における演奏	財団法人北区文化振興財団
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	平成 23 年度文化功労者顕彰式における演奏 平成 23 年秋の叙勲 勲章伝達式における演奏 平成 23 年秋の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長
受託事業	音楽学部	松下 功	LEXUS Concert in 東京藝大2011— A Night at the Opera —	東京トヨペット株式会社
受託事業	音楽学部	植田克己	第61回チャリティーコンサート「メサイア」	社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団
受託事業	音楽学部	西岡 龍彦	足立区立本木小学校校歌の音源制作	足立区教育委員会

東京芸術大学音楽学部・音楽研究科

受託事業	演奏芸術センター	松下 功	平成23年度文部科学大臣優秀教員表彰式における演奏	文部科学省初等中等局
平成24年度				
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化的芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期3年次〕(音楽教育支援活動)	足立区
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化的芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期3年次〕(福祉と子育て支援事業)	足立区
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化的芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期3年次〕(芸術によるまちづくり事業)	足立区
受託研究	音楽学部	畑瞬一郎	長野市の文化的芸術環境に関する調査研究 新市民会館運営を中心とした文化行政への提言	長野市
受託事業	演奏芸術センター	多田羅迪夫	霞ヶ関から文化プロジェクト参加企画霞ヶ関コモンゲートコンサート	霞ヶ関コモンゲート管理組合管理者(株)新日鉄都市開発
受託事業	演奏芸術センター	多田羅迪夫	霞ヶ関から文化力プロジェクト参加企画霞ヶ関ビルディング コンサート	三井不動産株式会社 上記代理人 三井不動産ビルマネジメント株式会社
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	平成24年春の叙勲 勲章伝達式における演奏 平成24年春の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長
受託事業	音楽学部	西岡 龍彦	世代を超えて、未来へ向けて～あだち8ミリフィルムアーカイブ～	足立区
受託事業	音楽学部	植田 克己	2012年日本国際賞授賞式式典及び祝宴における演奏	公益財団法人国際科学技術財団
受託事業	演奏芸術センター	多田羅迪夫	北とびあ国際音楽祭2012『芸大とあそぼうin北とびあ』における演奏	北区文化振興財団
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	第29回全国都市緑化フェア TOKYO のPRイベント、開会式、閉会式における演奏	株式会社電通
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	IMF世界銀行総会にあわせて開催されるレセプションでの演奏	株式会社電通
受託事業	音楽学部	松原勝也	高等専門学校制度創設50周年記念式典及び記念祝賀会における演奏	独立行政法人国立高等専門学校機構
受託事業	音楽学部	松下功	LEXUS Concert in 東京藝大2012	東京トヨペット株式会社
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	平成24年度文化功労者顕彰式における演奏 平成24年秋の叙勲 勲章伝達式における演奏 平成24年秋の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長
受託事業	音楽学部	植田克己	第62回チャリティーコンサート「メサイア」	朝日新聞厚生文化事業団
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	文部科学大臣賞優秀教員表彰式における演奏	文部科学省初等中等教育局
共同事業	美術学部 音楽学部		Tokyo Sonic Art Weeks	東京都現代美術館

東京芸術大学音楽学部・音楽研究科

共同研究	音楽学部	亀川徹	音楽練習室の音響特性と練習のしやすさについて	株式会社 ソ ナ
共同研究	音楽学部	亀川徹	再生音場空間における奥行き感評価手法の検討	パナソニック株式会社 AVCネットワークス社
共同研究	音楽学部	亀川徹	奥ゆき感における立体映像とサラウンドの相互作用について	パナソニック株式会社 AVCネットワークス社
平成25年度				
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期3年次〕(音楽教育支援活動)	足立区
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期3年次〕(福祉と子育て支援事業)	足立区
受託研究	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期3年次〕(芸術によるまちづくり事業)	足立区
受託研究	音楽学部	畑瞬一郎	長野市の文化芸術環境に関する調査研究(2年次) 新市民会館運営を中心とした文化行政への提言	長野市
受託研究	音楽学部	熊倉純子	アートプロジェクトにおける「音」の記録研究	公益財団法人東京都 歴史文化財団
受託研究	音楽学部	亀川 徹	ヘッドホン聴取とスピーカー聴取の比較に関する研究	一般社団法人日本オーディオ協会
受託研究	音楽学部	畑瞬一郎	「子どもの心を育む音楽活動」の実施検証及び指導指針の策定	足立区教育委員会こども家庭部長
受託事業	音楽学部	植田 克己	2013年日本国際賞授賞式式典及び祝宴における演奏	公益財団法人国際科学技術財団
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	平成25年春の叙勲 勲章伝達式における演奏 平成25年春の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長
受託事業	音楽学部	松原 勝也	文京シビック合唱団第11回定期演奏会	文京シビック合唱団
受託事業	演奏芸術センター	大石 泰	北とびあ国際音楽祭2013 芸大とあそぼう in 北とびあにおける演奏	北区文化振興財団
受託事業	音楽学部	松下 功	LEXUS Concert in 東京藝大2013	東京トヨペット株式会社
受託事業	音楽学部	植田 克己	第63回チャリティーコンサート「メサイア」	社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団
受託事業	音楽学部	寺谷 千枝子	NHK 交響楽団 第1774回定期演奏会	公益財団法人 NHK 交響楽団
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	平成25年度文部科学大臣優秀教職員表彰式における演奏	文部科学省初等中等教育局
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	(1)平成25年度文化功労者顕彰式における演奏 (2)平成25年秋の叙勲 勲章伝達式における演奏 (3)平成25年秋の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長
共同研究	音楽学部	亀川徹	PCM, DSD のハイレゾリューション録音の音質比較及び試聴評価手法の検討	ティアック株式会社
共同研究	音楽学部	亀川徹	音楽練習室の音響特性と練習のしやすさについて	株式会社 ソ ナ

東京芸術大学音楽学部・音楽研究科

共同研究	音楽学部	亀川徹	小空間音場における空間性評価指標の検討について	パナソニック株式会社 AVC ネットワークス社
共同研究	音楽学部	亀川徹	渋滞後尾・規制内進入車両防止装置に関する研究	中日本高速道路株式会社
平成26年度				
受託研究	音楽学部	澤和樹	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究	足立区
受託研究	音楽学部	畑瞬一郎	「子どもの心を育む音楽活動に向けたスキルアッププロジェクト」のための調査研究	足立区教育委員会
受託研究	音楽学部	熊倉純子	アートプロジェクトにおける「音」の記録研究	東京都歴史文化財団
受託研究	音楽学部	畑瞬一郎	長野市の文化芸術環境に関する調査研究	長野市
受託研究	音楽学部	西岡龍彦	美術展「エリック・サティとその時代」の音楽制作～新市民会館設立を契機とした文化行政への提言	株式会社 アート インプレッション
受託事業	音楽学部	山本正治	北本市芸術文化活動事業	北本市
受託事業	音楽学部	松原 勝也 高田 利英	文京シビック合唱団第12回定期演奏会	文京シビック合唱団
受託事業	演奏芸術センター	山本 正治 松下 功	霞が関から文化力プロジェクト参加企画 霞が関ビルディングコンサート	三井不動産株式会社 代理人 三井不動産ビルマネジメント株式会社
受託事業	演奏芸術センター	山本 正治 松下 功	霞が関から文化プロジェクト参加企画 霞が関コモンゲート コンサート	新日鉄興和不動産株式会社
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	(1)平成26年春の叙勲 勲章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	(2)平成26年春の褒章 褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長
受託事業	音楽学部	澤 和樹	2014年日本国際賞授賞式式典及び祝宴における演奏	公益財団法人国際科学技術財団
受託事業	音楽学部	植村幸生	平成26年度研究成果の社会還元・普及事業	日本学術振興会
受託事業	演奏芸術センター	山本 正治	日本更生保護協会設立100周年記念式典・祝賀会における演奏	更生保護法人日本更生保護協会
受託事業	音楽学部	山本正治	北杜市制施行10周年記念 芸術文化事業	北杜市
受託事業	演奏芸術センター	山本正治	北とびあ国際音楽祭2014 芸大とあそぼうin 北とびあにおける演奏	公益財団法人 北区文化振興財団事業係
受託事業	音楽学部	澤 和樹	東京藝術大学コンサート	坂東市文化振興事業団
受託事業	音楽学部	澤 和樹	メロコンサート in 渋谷	公益財団法人メロ文化財団
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	(1)平成26年度文化功労者顕彰式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	(2)平成26年秋の叙勲 勲章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	(3)平成26年秋の褒章 褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長

東京芸術大学音楽学部・音楽研究科

受託事業	音楽学部	澤 和樹	第64回チャリティーコンサート「メサイア」	社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団
受託事業	音楽学部	澤 和樹	LEXUS Concert in 東京藝大 2014	東京トヨペット株式会社
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	平成 26 年度文部科学大臣優秀教職員表彰式における演奏	文部科学省初等中等教育局
共同研究	音楽学部	亀川徹	トランスオーラル再生のためのバイノーラル収録方法に関する研究	株式会社エー・アール・アイ
共同研究	音楽学部	亀川徹	高速道路走行車両への音声信号による注意喚起に関する研究	中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社
平成 27 年度				
受託研究	音楽学部	亀川徹	放送音源のための適正な録音に関する研究	株式会社クリエイティブ Be
受託研究	音楽学部	澤和樹	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究委託(音楽教育支援活動)	足立区
受託研究	音楽学部	澤和樹	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究委託(福祉子育て支援活動)	足立区
受託研究	音楽学部	澤和樹	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究委託(芸術によるまちづくり事業)	足立区
受託研究	音楽学部	熊倉 純子	日本型アートプロジェクトの歴史と現在についての情報発信研究	公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンスル東京
受託研究	音楽学部	畑瞬一郎	長野市の市民参画型子ども向け文化イベントの創出に向けた参画型研究委託	長野市
受託事業	音楽学部	澤和樹	2015 年日本国際賞授賞式式典及び祝宴における演奏	公益財団法人国際科学技術財団
受託事業	演奏芸術センター	山本正治	霞が関から文化力プロジェクト参加企画 霞が関 コモンゲート・コンサート	新日鉄興和不動産株式会社(霞が関コモンゲート管理組合管理者)
受託事業	演奏芸術センター	山本正治	霞が関から文化力プロジェクト参加企画 霞が関ビルディング コンサート	東京都千代田区霞が関 3-2-5 三井不動産株式会社 上記代理人 三井不動産ビルマネジメント株式会社
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	(1)平成 27 年春の叙勲 勲章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	(2)平成 27 年春の褒章 褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
受託事業	音楽学部	澤和樹	東京藝大プロデュース LEXUS ミニコンサート	東京トヨペット株式会社
受託事業	演奏芸術センター	山本正治	北とびあ国際音楽祭 2015 芸大と遊ぼ in 北とびあ	公益財団法人北区文化振興財団
受託事業	音楽学部	澤和樹	メロ ステーションコンサート in 渋谷	公益財団法人メロ文化財団
受託事業	音楽学部	澤和樹	メロ ステーションコンサート in 渋谷(同タイトル今年度2件目)	公益財団法人メロ文化財団

受託事業	演奏芸術センター	松下 功	(1)平成 27 年度文化功労者顕彰式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	(2)平成 27 年秋の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長
受託事業	演奏芸術センター	松下 功	(3)平成 27 年秋の叙勲勲章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房 人事課長
受託事業	音楽学部	澤和樹	第65回チャリティーコンサート「メサイア」	社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団
受託事業	音楽学部	澤 和樹	LEXUS Concert in 東京藝大 2015	東京トヨペット株式会社
受託事業	音楽学部	川崎和憲	どりーむコンサート vol.94 オーケストラの扉IV	公益財団法人府中文化振興財団
受託事業	音楽学部	澤 和樹	東京芸術大学コンサート	坂東市文化振興事業団
共同研究	音楽学部	亀川徹	楽器・音響製品の感性評価に関する研究	ヤマハ株式会社
共同研究	音楽学部	亀川徹	高速道路走行車両への音声信号による注意喚起に関する研究(その2)	中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京(株)
共同研究	音楽学部	亀川徹	再生音場の上方拡大に対する音場評価技術の検討	パナソニック株式会社 AVCネットワークス社

資料 2-9

地域連携例 1

事業名称：取手アートプロジェクト

《概要と成果》

1999年より、取手市、東京芸術大学を中心に続いているアートプロジェクト。企画運営に多くの市民が参加し、若手アーティストの登竜門として数々のアーティストを輩出し、過去には受賞も多い(国土交通大臣賞、サントリー地域文化賞など)。今期は、UR都市開発機構の依頼で、市内の戸頭団地に20面近い壁画作成、市の依頼で旧農協の建物をギャラリーにリノベーション、国土交通省のプログラムに参加して中古住宅のアートによる流通促進事業など、まちづくりに貢献している。

《主催》

- ・取手アートプロジェクト実行委員会
(取手市、東京芸術大学、アート取手、取手市教育委員会、取手市商工会、財団法人取手市文化事業団、社団法人 常総青年会議所、取手美術作家展、特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィス)
- ・茨城県南芸術の門創造会議
(茨城県、取手市、守谷市、取手アートプロジェクト実行委員会、アーカスプロジェクト実行委員会)
- ・特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィス

地域連携例 2

事業名称：アートアクセスあだち 音まち千住の縁

《概要と成果》

2011年より、足立区・東京都・アーツカウンシル東京と、本学音楽学部の共催事業として実施しているアートプロジェクト。歴史ある千住地区に新たな住民が増えていることを踏まえて、住民の新たなコミュニティ形成を目的に数々を実施し、毎年1万人程度の集客に加え、さまざまな年齢層の市民参画が着実に増えている。

《期間》

平成23年度開始～現在 (平成27年度までで5年間)

《主催》

東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、東京芸術大学音楽学部、特定非営利活動法人音まち計画、足立区 (※平成27年度末現在)

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

<p>観点 研究成果の状況（大学共同利用機関、大学の共同利用・共同研究拠点に認定された附置研究所及び研究施設においては、共同利用・共同研究の成果の状況を含めること。）</p>
--

（観点に係る状況）

前項で述べたように、本学部・研究科の教員による学内奏楽堂での演奏会等の開催数は数多くきわめて活発な研究成果の発信が行われている（資料 2-3(P. 2-6～P. 2-9)参照）。しかしながら、研究業績説明書では、あくまでも本学部・研究科等が組織として取り組んだものに焦点をあて、各教員が専門・関心に応じて学外で行っている演奏活動はあえて積極的に取り上げなかった。これは、音楽という芸術領域を専門とする本学部・研究科において、教員個人が選び取る自由な創作・演奏活動が尊重されるべきことを重視した上で、本学部・研究科の研究成果としては多様な専門・指向性をもつ教員同士の協働から生まれる学内の特色ある活動を優先したために他ならない。

こうした優れた音楽家の集まりでもある本学部・研究科の教員同士の取り組みから、たとえば日本作曲界創世期を代表する信時潔の没後 50 周年演奏会では、厳密な直筆譜の校訂・分析を行い、他に類を見ない演奏を披露して高い評価を得ている。また同時にシンポジウム、資料展を開催するなどして藝大ならではの演奏会となった。（研究業績説明書参照）、また邦楽アンサンブルによる新たな舞台芸術作品創造「和楽の美」シリーズのような本学の歴史的蓄積を活かした公演も行われており、こちらのシリーズでは平成 26 年度の「義経記」においてNHKテレビで取り上げられ公演の様子が放映された。またレクチャーやプレトークを交えての演奏会や演奏機会の少ない稀曲の発掘などに取り組む姿勢も、本学部・研究科でしかなしえないユニークな研究型の演奏発信活動として評価されている。

（水準） 期待される水準を上回る

（判断理由）

本学部・研究科は、我が国で最初の音楽専門教育機関として長い歴史をもち、近代日本の音楽文化を牽引する立場を保持してきたため、社会から期待される水準は現在でもきわめて高い。このような状況の中で、野平一郎教授の尾高賞（平成 25 年度）、鈴木純明教授の芥川作曲賞（平成 26 年度）、大森晋輔准教授の「ピエール・クロソウスキー 伝達のドラマトゥルギー」による第 32 回渋沢・クローデル賞本賞（平成 27 年度）、漆原朝子准教授発表の「無伴奏ヴァイオリン・デュオ」では、平成 26 年度文化庁芸術祭レコード部門優秀賞、また佐々木典子教授の第 44 回東燃ゼネラル音楽賞本賞（平成 26 年度）等の受賞があり、期待される水準を上回る卓越性を示した。

大学として取り組んでいる創作・演奏・研究活動については、他に類を見ない企画性の高さや社会的意義およびその優れた成果に対して、学会や音楽界の専門家からも、また社会一般からもいずれも高い評価と大きな反響が寄せられている。

Ⅲ 質の向上度の判断

(1) 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

「奏楽堂における研究成果の発信」

本学の奏楽堂では、音楽学部のオーケストラ、オペラ等の定期公演に加え、演奏芸術センター企画による、①藝大 21(時の響き、和楽の美、創造の杜、藝大とあそぼう)②奏楽堂シリーズ(うたシリーズ、ピアノシリーズ、弦楽シリーズ、管打楽器シリーズ等)、③藝大プロジェクト(ゲーテ～人とその時代)の企画を毎年継続して行っている(資料 2-4(P. 2-9)参照)。これらの各種企画は、1)作曲家の全体像を捉える包括的な選曲(ブラームス、フォーレ、ドビュッシー等) 2)商業ベースに乗らないため演奏されるチャンスが少ない作品の演奏 3)啓蒙プログラム(作曲家プロジェクト・シリーズにおけるレクチャー&コンサートや小中学生を対象とした「藝大とあそぼう」) 4)邦楽アンサンブルを基調とした新しい創造の試み(和楽の美)等、芸術大学としての工夫を凝らした企画であり、加えてそれらの企画を単年度の単発的企画ではなく、総体として毎年継続して行っていることは、国立芸術大学としての特色を活かし、その責務を十分に果たす活動である。また、これらのプロジェクトやシリーズは個々の教員の個人的研究活動をベースとして、優れた教育成果を見せている本学学生も交えた本学部・研究科及び演奏芸術センターの総力を挙げた取り組みでもある。

「総合芸術アーカイブセンターによる音響・映像データの配信」

平成 23 年度から 5 年間にわたっておこなわれた総合芸術アーカイブセンターの音響・映像データ研究プロジェクトでは、本学でおこなわれるコンサートのアーカイブ化およびインターネットによる配信についてすすめてきた。(資料 2-5(P. 2-10)参照)これはコンサートを単に記録するだけでなく、将来にわたって利用出来るように演奏者のプロフィール、演奏曲目、録音データなどのメタデータと呼ばれる付加情報をどのように残していくかということや、インターネットを通じて一般に公開するために、著作権や著作隣接権等の処理をどのようにおこなうかという点について検証をすすめ、その成果を藝大ミュージックアーカイブとして結実するためである。音楽をはじめとするコンテンツのアーカイブ化は、世界的にも急務とされており、今後はそのような業務を担当できるアーキビストの人材育成をより一層充実させていくこととしている。

「音楽創造・研究センターによる新たな音楽舞台芸術表現の創造と発信」

「音楽研究科(教育)現況調査表(P.4-33)」に記載している音楽創造・研究センターにより、独自のアピール力を備え、より広いオーディエンスをとりこむ芸術創造・社会発信のあり方を確立し、広く社会に提示することを必須課題として、本学が保有する舞台上演の実践知に最新テクノロジーを援用した新たな音楽舞台芸術表現の創造と発信を行った。

具体的には、藝大オペラ制作風景および上演記録の映像コンテンツ化を通じ、幅広い聴衆に芸術体験を促す「アクティブ・ビューイング」モデルの開発、能「胡蝶」による映像と 22.2 マルチチャンネル音響システム作品の制作、グローバルな連携態勢にもとづく最新テクノロジーを駆使したオペラの創作と発信に取り組んだ。特に、能「胡蝶」を題材とし、現代劇と組み合わせた実験的な舞台芸術作品「演劇・能による「KOCHO/胡蝶」(千住で聴く世界の音 第 8 回)は、現代的な舞台美術の中での能の上演であり、かつてない試みとして音楽表現研究の向上が図られた。

・能「胡蝶」写真



3. 映像研究科

I	映像研究科の研究目的と特徴	3 - 2
II	「研究の水準」の分析・判定	3 - 4
	分析項目 I 研究活動の状況	3 - 4
	分析項目 II 研究成果の状況	3 - 12
III	質の向上度の分析	3 - 16

I 映像研究科の研究目的と特徴

1. 東京芸術大学大学院映像研究科の研究目的は、以下の通り。

映像研究科における研究活動は、同時代芸術をめぐって、メディア技術を用いた芸術表現という立場から新しい「臨床知」を創出する国際的な拠点となることをめざしている。そのために、以下の映像メディアを駆使した芸術表現について、以下の3点を理念として研究を展開している。

1) 映像メディア学の体系化

メディアを用いた表現をさらに先鋭化させるためには、ジャンルや方法論の壁を取り払い、複数の学問領域の方法や知識を結集させた学問分野としての体系化に取り組む。さらに社会の多様化に伴う表現面からの、あるいは技術面からの新しい課題に対して、その解決に向けて映像メディアを駆使した横断的・総合的な表現研究も新たな目標となっている。

2) 「臨床知」を対象とする理論、技法、教育を包摂する方法論の確立

「メディアを用いた芸術表現」にとってより重要なのは、先端的な技術が表現の現場でどのように位置づけられるという「臨床知」の体系化である。「臨床知」を先進性と現代性の高い理論と方法論を確立するためには、芸術表現や芸術諸学のみならず、人文科学や社会科学あるいは工学、自然科学をも含めた文理融合的側面から研究に取り組む。

3) 総合的なメディア理解

社会的な課題と人間存在のあり方を総合的にリサーチし、より先進的な映像メディア表現を国際的に問うことをめざして基礎研究と応用研究に取り組む。最終的には、学問世界とフィールド世界を往還しつつ研究を進める。ソーシャルプラクティスなど、映像メディアによる「社会芸術」の実践によって、より深くて広い「メディアの理解」について探究する。

2. 東京芸術大学大学院映像研究科の特徴は、以下の通り。

①本研究科は、平成17年4月に設置の国立唯一の映像教育研究のための大学院組織であり、基礎となる学部を持たない独立研究科である。所在地は、神奈川県横浜市である。平成20年度のアニメーション専攻設置により、教育研究組織が完成した。映画、アニメーション、メディア表現とそれに関する要素技術など、映像メディア研究に関する技術と表現に関する領域を広くカバーする教員構成となっている(資料3-1参照)。

資料3-1：大学院映像研究科の教育研究組織

平成27年5月1日現在

講座	博士後期課程	修士課程	専門分野		氏名
映像メディア学講座	映像メディア学専攻	映画専攻	映画表現技術研究分野	監督領域	黒沢 清教授 諏訪敦彦教授
				脚本領域	筒井ともみ教授
				プロデュース領域	榊井省志教授
			映画制作技術研究分野	撮影照明領域	柳島克己教授
				美術領域	磯見俊裕教授
				サウンドデザイン領域	長 篤寛幸教授
		メディア映像専攻	創造表現研究分野	メディアデザイン研究領域	佐藤雅彦教授
				メディアアート研究領域	藤幡正樹教授
			構想設計研究分野	メディア技術研究領域	桐山孝司教授
				メディア研究領域	桂英史教授
		アニメーション専攻	創造表現研究分野	企画制作領域	岡本美津子教授
				平面アニメーション領域	山村浩二教授
				立体アニメーション領域	伊藤有壺教授
			研究・理論研究分野	研究・理論領域	布山タルト教授

- ②本研究科の教員はいずれも「表現」や「製作(制作)」といった「つくる」という視点を重視した研究をおこなっており、教員構成の広範さと柔軟さ、そしてその実績からいって他に類を見ない研究成果のポテンシャルがある。
- ③設置されて11年という新しい組織であるが、すでに映像研究科内外を横断的につなぐ実践的な活動が開始されている。(※分析項目I参照)
- ④研究科を超えた有機的な融合による研究共同体の検討も進んでいる。共同的な施設の充実などとあわせてユニークな成果があがることが期待されている。ここでいうユニークな成果とは、既存の映像学や表象研究、あるいは産業分野における映画界やコンテンツ業界への寄与だけでなく、美術における新しい表現ジャンルや国際的かつ先導的なアカデミズムの創出を意味している。

II 「研究の水準」の分析・判定

分析項目 I 研究活動の状況

観点 研究活動の状況

(観点に係る状況)

1.プロジェクト型研究の確立と推進

映像研究科における映像メディア学は個人作家の資質や才能に依存しただけのスキームだけでなく、プロジェクト型の研究活動のプラットフォームを整備し、そのプラットフォームの活性化を通じて作家の資質や才能を発見していくという方法論をもっている点で、きわめてユニークである。

映画製作や作品制作を主体とした作家主導的制作研究だけでなく、情報(入出力機器、インタフェース開発など)、ヒューマノイドに関する研究、あるいは都市計画などの社会システムに関わる研究、人間の存在と振る舞いを対象とする研究、医学・医療との境界領域など、研究対象分野の多様性を考慮した研究プロジェクト編成がすすんでいる。本研究科の研究スキームはプロジェクトごとにチーム編成を研究科内外で横断的に組織化し、柔軟かつ多様な研究制作活動をおこなっている。

映像研究科設立以来の特筆すべき特徴として、10年間に数多くの外部資金を調達して、「未来の映画」や「社会における映像表現の新しい可能性」を開拓し、わが国においても先導的な役割を果たしていることである。本研究科における研究は新しい分野を切り拓きつつある「メディア芸術」、「芸術表現」あるいは「社会と芸術」というスキームにあって、開発研究や実践的な方法論の確立のみならず、物語研究や地域研究をはじめとして映像メディア学における基礎研究の確立が見込まれるような萌芽的な研究も活発である。(資料3-2参照)。

資料3-2 映像研究科 映像メディア学体系化のためのプロジェクト型研究

研究テーマ	研究代表者	概要	備考(外部資金等)
①表現力拡大を目指した映像デバイスの開発研究	桐山 孝司 教授	<p>[研究目的] インタラクティブな展示は、人間が機械とどのように接するかという挙動を観察し解析する格好の場である。また展示のインタフェースデザインを行う上でも、鑑賞者はどこを見ているか、どのような行動をとっているか、意図した展示の使い方を行っているか、制作者が思いもしないインタラクションのしかたを見つけていないかなどの疑問に答えるために、継続的に鑑賞者の動きを把握している必要がある。しかしほとんどの展示ではインタラクションの経過は記録されず、仮にされていても美術館、博物館に十分な分析手段がないため有用な情報を抽出できていない。</p> <p>本研究では、空間内の動きを中心としたインタラクティブな展示で鑑賞者の挙動を分析する手法を開発することを目的としている。そのため、実際の展示での空間デザインの影響を観察する。また挙動分析のためのログデータ収集と分析ツールの開発を行う。その研究成果を、人間と関わる適応システムのデザインや、改良を繰り返していく展示デザインに利用する。</p> <p>[研究成果] どのような空間が体験的理解のために有効に機能するかという展示デザインの問題を実際の展示を通して観察した。またどのようなインタラクションが行われたかをみて展示デザインにフィードバックするために、展示におけるログデータの収集と分析を行うためのツールを開発した。具体的に指紋の池と属性のゲートの2つの展示についての分析から、鑑賞者自身だけでなく、周囲にいる他の鑑賞者のリアクションが理解に影響することを観察した。</p>	<p>科学研究費 基盤C「数理概念の体験的理解のための展示空間デザイン」 研究期間 平成21-23年度 (研究分担者:佐藤雅彦本学・大学院映像研究科教授)</p>

<p>②映像メディア学における「表現の場」に関する研究</p>	<p>桂 英史 教授</p>	<p>[研究目的] 本研究は、地域精神医療(コミュニティアケア)における映像表現の治療的な役割を映像療法と位置づけ、その分野横断的な討議や試行を重ねながら、独自の表現形式をもたらすような実践を積み重ね、その利害関係者(医師、カウンセラー、精神衛生保健福祉士などの精神医療従事者)との相互依存的な表現の特質とその今日的な意義をあきらかにすることを目的として研究を重ねてきた。 [研究成果] (1) 美術など芸術表現の現場以外での、たとえば医療現場での映像表現は利害関係者によって、自らが持っているありあわせのスキルや機材を活用してやりくりしてブリーコラージュしようとする行程が作品化のプロセスを観察することによってあきらかになった。 (2) テレビ番組のような与えられたものを巧みに活用し、とりわけ「ドキュメンタリー」を前掲とする制作では、医療現場にあっても、自分の益になるように作り変える。医療現場にあっても、参加を促すような制作手法にはテレビ番組を超えるような映像コンテンツのフォーマットを「発明」するようがある。 (3) 本研究における映像アーカイブスの試作は、医療関係者にも芸術分野の従事者にも共通するような基本的な要件や仕様を示している点でも、今後のアーカイブ構築の可能性を示唆している。</p>	<p>科学研究費 基盤 B・映像療法の 方法論開発に関する 総合的研究 研究期間 平成 25-27 年度 研究分担者 研究分担者: 長瀧寛幸(本学・大学 院映像研究科・教授) 布山タルト(本学・大 学院映像研究科・教 授) 西條朋行(本学・大学 院映像研究科・講師) 松井茂(情報芸術大 学院大学・准教授)</p>
<p>③映像メディア学における「音韻」に関する研究</p>	<p>松井茂 特任研究員</p>	<p>[研究目的] 新たなインタフェースのプロトタイプを実現し、出版、展示等でフィードバックを蓄積し、ソーシャルキャピタルとしての可能性を高めたデザイン理論の確立することである。 [研究成果] 本研究では、触り心地の新しい評価手法として、オノマトペ(擬音語、擬態語、擬情語)を用いた新しい理論を提案し、この手法を「触相図」として提示した。触覚オノマトペの分布には、3つの軸があり、乾湿感、硬軟感、滑さと粗さ感を見出し、音韻論の観点から同図を分析した。最初の母音と子音は、触感覚イメージと強く関連していることが確認できた。</p>	<p>科学研究費 基盤 C「音韻と感覚イ メージによる触感覚デ ザインの研究」平成 21-23 年度</p>
<p>④映像メディア学における「人材育成」に関する研究</p>	<p>岡本美津子 教授</p>	<p>[研究目的] (1)アーカイブ機能の 3 つの機能である「保存」、「閲覧」、「公開」の中で、「閲覧」、「公開」機能はどうあればよいかを考察する。 特にインターネット時代における両機能はどうあればよいかについても考察する。 (2)現在の日本のアニメーションアーカイブはどのような状況にあるかを、リサーチし、新たな設立へ向けた要件を考察する。 [研究成果] アニメーションの教育・人材育成のためのアーカイブの設置は日本のアニメーション界において、喫緊の課題である。その設置へ向けた要件や課題を探るために、①東京芸術大学大学院映像研究科アニメーション専攻のテストアーカイブサイトを制作する。②現在日本にあるアニメーション・アーカイブの現状と課題をリサーチする。という 2 本立ての研究を行った。 ①では、web 公開を前提とした実際のサイト構築に際し、動画形式、使用サーバーの問題、更新・運用体制の問題等が明らかになった。②では、日本の映像アーカイブを保有している施設や個人に対してヒアリングを行い、現状を把握するとともに、設置へ向けて、これまで研究されてきた要件に加え「半永久的な持続性」および「目的性の明確化」が必要であることを指摘した。</p>	<p>科学研究費 基盤 C「アニメーションの教育・人材育成のためのアーカイブス設置へ向けての要件研究」平成 22-24 年度</p>

<p>⑤映像メディア学における「描画行為」に関する研究</p>	<p>藤幡 正樹 教授</p>	<p>[研究目的] 描画行為は、人間の発達過程において、幼児期から自然に自己報酬的に行われる行為であり、またラスコーの洞窟壁画等を見てもわかるように、描画行為は人類誕生の初めから行われていたことは確実である。描画は会話と同じように、人間にとってきわめて根源的な行為であるといえる。しかし、画家にとっての描画過程は創作行為そのものであり、そのノウハウは内面化されており、外側から研究することがなかなか難しい。そのため、これまでの研究では、作品研究が中心であり、描画の過程に注目した研究はきわめて少ない。また、発達心理学、精神病理学では、子どもや患者などの被験者の内観を推測するための材料素材として描画が使われるが、ここでも描画の過程における被験者の心の変化に注目したものは少ない。</p> <p>[研究成果] 記号論の知見をもとにした「描画過程マトリクス」を基盤に、描画行為の創造性と視知覚観察の役割に関して、実験観察を実施してきた。視覚心理学の知見を踏まえ、錯視効果等の研究成果をもとにした描画行為に関して実験を計画。描画過程の記録観察を行うために、液晶ペンタブレットとイトラッカーを用いて、「ペンの動作」「視線の動き」の時間的変化を記録し、再生する、新たな実験用ツールを開発し、実験分析を行い、描画行為の創造性を視覚心理学から分析する端緒を見出すことができた。</p>	<p>科学研究費 基盤 A「描画過程マトリクス」による描画行為の創造性研究」 平成 22-24 年度</p>
<p>⑥映像メディア学における「創造性教育」に関する研究</p>	<p>布山 毅 准教授</p>	<p>[研究目的] (1)アニメーション制作を通じた創造性学習支援システムの開発 本研究の目的は、認知科学的な学習モデル(例えば Collins 2006)や創造性モデル(例えば Finke ら 1992)をベースとして、モデルドリブンな開発アプローチによって、創造性教育を目的としたアニメーション制作(学習)・教育支援のためのシステムを開発することである。主要なフィールドとしては、小中高校の図工・美術教育を想定し、アニメーション表現の学習過程における学習者らの自己調整活動を支援することに力を置く。</p> <p>(2)実用性の高いツール開発 本研究で開発するシステムは実用性を重視し、教育現場で実際に使用することを想定して開発を進める。必ずしもアニメーションを含む映像制作やコンピュータ操作に熟達していない教師や生徒が使用することも想定し、初心者でも使いやすいユーザビリティを実現することを目指す。</p> <p>(3)データ収集のためのプラットフォーム開発 三輪(2006)は、学習支援システムを「工学」と「科学」を結ぶメディアだと位置づけたが、その観点から本研究の目的を捉えるならば、「工学」的な側面からは、アニメーションを学ぶ「学習者支援」と、それを教える「教師支援」という二つの目的がある。また「科学」的側面からは、将来的なアニメーション表現の基礎研究に貢献しうる膨大なアニメーション作品データとその制作プロセスのデータを収集することを可能にするプラットフォームの構築を目的とする。</p> <p>[研究成果] 本研究では、協調的なアニメーション制作活動を通じた創造性教育の可能性に着目し、認知科学的な学習モデルに基づき、制作過程の省察を促す機能を持ったアニメーション制作支援システムの研究開発を行った。研究代表者が2010年から開発しているアニメーション制作支援ソフトウェアをベースに、制作時のユーザーの操作記録を自動保存して、タイムライン形式のダイアグラムを表示・印刷する「自動プロセス記録機能」を新たに開発した。大学生や、図工・美術教員を対象としたワークショップ実践による評価を行い、同機能が制作者の制作過程を省察する動機づけになりうることや、教師が生徒の作品を多角的に評価する上で役立つことが示唆された。</p>	<p>科学研究費 基盤 C「創造性教育のための協調的アニメーション制作支援システムの研究開発」 平成 24-26 年度</p>

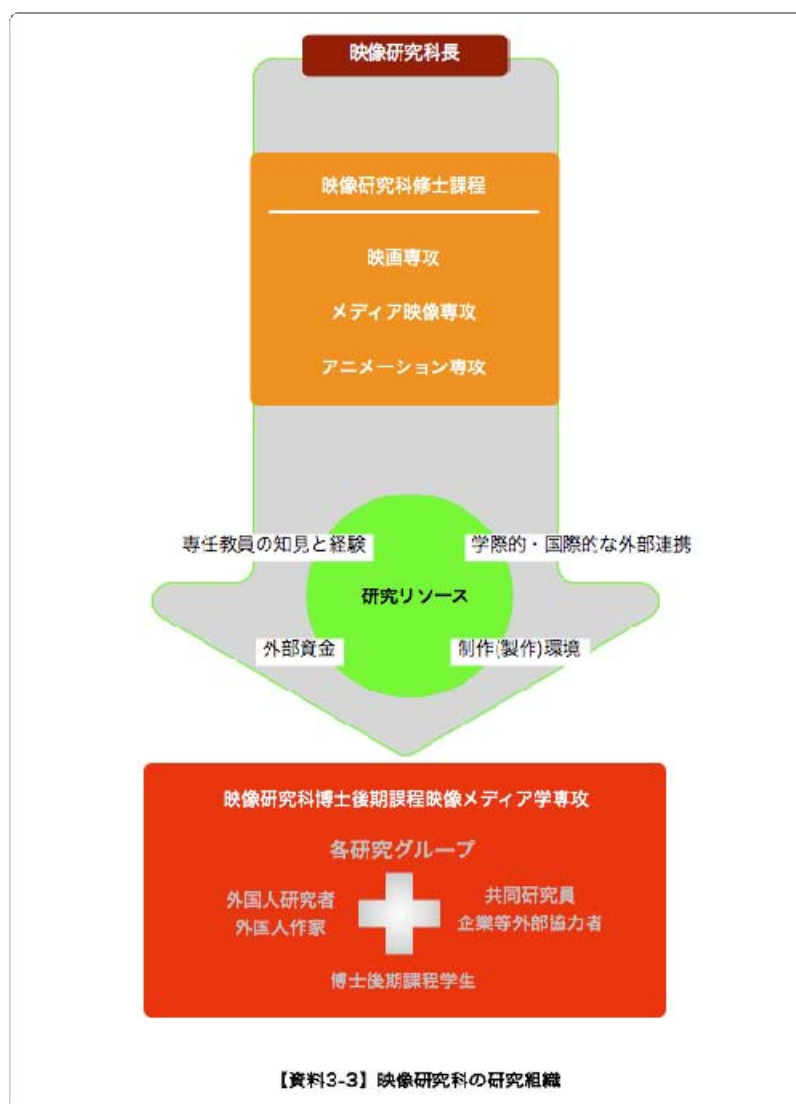
<p>⑦映像メディア学における「立体映像」に関する研究</p>	<p>伊藤 有壱 教授</p>	<p>[研究目的] 立体視映像の持つ、映像表現への可能性はいまだ開拓され尽くしたとは言えない。ことに現実(非現実)世界を舞台に展開する実写映画と「クレイアニメ」と呼ばれる立体物のアニメーション映像との境界線が融解しつつある作品群が短編映画ジャンルで生まれているこの数年の傾向の将来像として、「立体感」というリアリティが与える新たな映像体験を演出する為のベーシックな研究の需要に先んじて、専用機材を開発し、経験者として次世代への本分野の拡張と、その情報開示を目的とするものである。</p> <p>[研究成果] 本研究の為に作成した2体(クレイ、金属関節人形)を含めた3種類のアニメーションパペットと、そのガイドとなる実写人物、そして着ぐるみの5要素のキャラクターが、異なる3パターンの背景(アウトドア実景、ミニチュアセット、グレーグリッドセット)で同じアクションを繰り返す、立体視アニメーション撮影のベーシックとなりうる画期的な素材の作成に成功した。</p> <p>新たに撮影された背景等新要素によりその組み合わせパターンは無限となることから、次世代に向けての拡張性も含まれている。さらに本研究の情報開示は、撮影対象物であるクレイやパペットの貴重な立体アニメーション制作技術の普及にも貢献するものである。</p>	<p>科学研究費 基盤 C 「クレイ・アニメーションにおける立体映像の撮影手法」 平成 23-25 年度</p>
<p>⑧映像メディア学における「物語表現」に関する研究</p>	<p>長瀧 寛幸 教授</p>	<p>[研究目的] 映画制作のサウンドデザイン領域の立場から、デジタル音響技術の利活用によって、新しい物語表現に貢献する制作環境の確立を目標とした研究である。現状、映画制作においては、デジタル映像技術の展開に比して、デジタル音響技術の展開は、単なる技術の移行または導入に止まっている。本研究では、デジタル映像技術が新たな物語表現の生成に大きく貢献してきたように、デジタル音響技術の創発的活用のあり方を実践的に研究する。特にデジタル音響技術によるアドバンテージと考えられる、デジタル音声モーフィングというシームレスな表現に着目し、映像制作の現場を持つ研究環境を活かした、新表現の実践的研究と作業の効率化を目標とする。</p> <p>[研究成果] KYMA や IRCAM Tools などの音響技術を用いることで、映像における物語表現の中に「異化効果」をもたらせることが確認できた。研究者の過去作品や奥山重之助、ウォルター・マーチ、アンドレイ・タルコフスキーの映画における音響、そしてハンス・ジマーの映画音楽などを表現、技術の両面から検証することにより、現在のデジタル技術を用いた制作環境についての重要な先行研究になることが確認できた。そして、テスト作品として作成した『Roadside Picnic』によって、「サウンドデザインを出発点とした映像作品制作」という新しいワークフローの可能性を発見できた点も大きな成果である。</p>	<p>科学研究費 挑戦的萌芽研究 「デジタル音響技術による新たな物語表現研究」平成 24-25 年度</p>

以上のテーマ例のように、多くの芸術分野や社会科学分野と協力関係を維持しながら研究を行い、映像メディアに関する新しい分野の開拓や応用などに関し様々な成果が得られつつある。

2.柔軟な研究組織

メディア技術の影響力が甚大で情報学の重要性が増し、また、アニメーションや漫画の国際的な受容などから示しているように、従来の「芸術諸学」あるいは「美学」といった枠組みの中だけでは解決できない問題も研究の対象となりつつある。このような領域や流通のボーダーレス化の時代を迎え、研究組織もこれに対応したより柔軟な形態が必要となってきた。映像研究科においては、専攻あるいは専門領域横断型の研究組織として、博士後期課程映像メディア学専攻を母体とした研究組織は、活発な研究推進の方向に向かっている(資料 3-3 参照)。

資料 3-3 映像研究科の研究組織(イメージ図)



3. 積極的な外部資金の導入

競争的資金を含む外部資金の積極的な導入は映像研究科の研究における大きな特徴である。科学研究費はもとより、さまざまな民間企業との共同研究や文部科学省特別経費(プロジェクト分)「一高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実一」、文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」などのプロジェクト資金の導入も一因となって、映像研究科の研究活動は一層活性化している。また、横浜市との提携等自治体や民間企業からの受託事業、受託研究、共同研究などの外部資金は、映像メディア研究にとってユニークな産官学連携研究体制の成果が表れてきている(資料 3-4 参照)。

資料 3-4 映像研究科外部資金導入一覧(資料 3-2 に記載のものを含む。職名は当該研究等開始当時)

種類	代表者	題目	委託者/相手先等	年度
共同研究	岡本美津子教授	アニメーションを媒体とした「人と車の未来型コミュニケーション」	三菱電機株式会社	27
共同研究	馬場一幸助教	フィルムスキャン技術に関する研究	Seven Dew 株式会社 株式会社エコロジー神戸	27、28
受託事業	映像研究科長	横浜市文化芸術創造都市づくりの推進に向けた地域貢献事業	横浜市都市経営局長	22
受託事業	映像研究科長	横浜市文化芸術創造都市づくりの推進に向けた地域貢献事業	横浜市文化観光局長	23、24、25、 26、27

東京芸術大学映像研究科分析項目 I

受託事業	桐山孝司教授	平成24年度かながわの遺跡展・巡回展「勝坂縄文展」のための展示	神奈川県	24
受託事業	桐山孝司教授	カラーハンティング展に出展するライオンシューズのためのモーションシステム開発	2121 DESIGN SIGHT 株式会社	25
受託事業	映像研究科長	東アジア文化都市2014横浜事業	2014年東アジア文化都市実行委員会	26
受託事業	映像研究科長	青葉区政20周年事業連携	横浜市青葉区	26
受託事業	岡本美津子教授	日中韓学生アニメーション共同制作等事業	公益財団法人ユニジャパン	27
受託事業	映像研究科長	ASEAN文化交流・協力事業(アニメーション、映画分野)	公益財団法人ユニジャパン	27
受託事業	筒井武文教授	平成27年度荒川区と東京芸術大学との連携事業(映像制作)	荒川区	27
受託事業	映像研究科長	文化芸術創造都市づくりの推進に向けた地域貢献事業(青葉区)	横浜市文化観光局	27
受託事業	岡本美津子教授	タカシマヤ文化基金25周年記念映像制作	株式会社高島屋	27
共同事業	映画専攻	映画「人の砂漠」にかかる配給収入の配分金	(株)ティ・ジョイ	22
共同事業	映画専攻	映画「紙風船」共同事業体契約締結に伴う出資	(株)アミューズ、(株)衛星劇場	22
共同事業	映画専攻	映画「らもトリップ」共同事業体契約締結に伴う出資	(株)アミューズ、(株)衛星劇場	23
共同事業	映画専攻	映画「らくごえいが」共同事業体契約締結に伴う出資	(株)衛星劇場、(株)ライツアパートメント、(株)アミューズ、(株)アクトタンク、(株)アールグレイフィルム	24
共同事業	映画専攻	「恋につきもの」共同事業体契約締結に伴う出資	松竹ブロードキャスティング(株)、(株)アミューズ	25
共同事業	映画専攻	映画「リスナー」共同事業体契約締結に伴う出資	松竹ブロードキャスティング(株)、(株)アミューズ	26
補助金	桂英史教授	文化庁文化芸術振興費補助金「大学を活用した文化芸術推進事業」リサーチ型アートプロジェクトのための人材育成事業	文化庁	26、27、28
運営費交付金	東京芸術大学大学院映像研究科	デジタルシネマの制作プロセス標準化による、アジア映像教育の拠点化 —映像教育研究力強化及び人材育成—	特別経費(プロジェクト分) —高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実—	25、26、27
科学研究費	藤幡正樹教授	「描画過程マトリクス」による描画行為の創造性研究	基盤研究(A)	22、23、24
科学研究費	桂英史教授	地域医療と「芸術の臨床」をめぐる相互作用に関する総合的研究	基盤研究(B)	21、22、23
科学研究費	桐山孝司教授	数理概念の体験的理解のための展示空間デザイン	基盤研究(C) (一般)	21、22、23

東京芸術大学映像研究科分析項目 I

科学研究費	松井茂特任研究員	音韻と感覚イメージによる触感覚デザインの研究	基盤研究(C) (一般)	21、22、23
科学研究費	出口丈人教授	ナショナル・フィルム期の日・米・仏映画におけるスタイルの比較	基盤研究(C) (一般)	21、22、23
科学研究費	岡本美津子	アニメーションの教育・人材育成のためのアーカイブス設置へ向けての要件研究	基盤研究(C) (一般)	22、23、24
科学研究費	佐藤雅彦教授	高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究	萌芽研究	21、22
科学研究費	西條朋行講師	電気けいれん療法前後の脳内ドーパミン受容体についての研究	基盤研究(C) (一般)	(22),23,24 H23 転入
科学研究費	伊藤有孝教授	クレイ・アニメーションにおける立体映像の撮影手法	基盤研究(C) (一般)	23、24、25
科学研究費	筒井武文教授	記録映画アーカイブに見る戦後日本イメージの形成と変容	基盤研究(B) 東京大学大学院情報学環 丹羽美之准教授の研究分担	22、23、24、25
科学研究費	布山毅准教授	創造性教育のための協調的アニメーション制作支援システムの研究開発	基盤研究(C) (一般)	24、25、26
科学研究費	出口丈人講師	映像パタンを通して現れる映画表現の国際比較研究	基盤研究(C) (一般)	24、25、26
科学研究費	長嶋寛幸准教授	デジタル音響技術による新たな物語表現研究	挑戦的萌芽研究	24、25
科学研究費	馬定延教育研究助手	初期コンピュータアートの成立に関する実証的研究	若手研究(B)	24、25、26
科学研究費	桐山孝司教授	工学知識の経験的理解のためのメディアデザイン	基盤研究(C) (一般)	25、26、27
科学研究費	柳島克己教授	フィルム/デジタル映画における照明、美術比較による映画表現技術研究	基盤研究(C) (一般)	25、26、27
科学研究費	筒井武文教授	フィルムとデジタル編集の創造性と新しい表現方法の研究	基盤研究(C) (一般)	25、26、27
科学研究費	桂英史教授	映像療法の方法論開発に関する総合的研究	基盤研究(B)	25、26、27
科学研究費	磯見俊裕教授	デジタルシネマ時代における小規模映画の上映形式の研究	基盤研究(A) 東北芸術工科大学根岸吉太郎教授の研究分担	25、26、27、28
科学研究費	松浦昇教育研究助手	浮世絵における西洋陰影法の消去に関する基礎研究	若手研究(B)	26、27
科学研究費	土居伸彰特別研究員	アニメーション映画祭をめぐる環境についての研究	若手研究(B)	26、27、28
科学研究費	河内晋平専門研究員	文化財管理における美術品用語事典の作成	基盤研究(C) (一般) H26 年度、本学総合芸術アーカイブセンターから異動	24、25、26
科学研究費	長嶋寛幸教授	オールアフレコを用いた次世代サウンドデザインの世界表現研究	基盤研究(C)	27、28、29
科学研究費	布山毅教授	アニメーションにおける動きの表現の認知的発達過程	基盤研究(C)	27、28、29
科学研究費	木村稔助教	「視点の移動」をテーマとした身体装着型全方位映像表現装置の研究	基盤研究(C)	27、28、29
科学研究費	出口丈人講師	会話描写を通して見る映画の構成的変遷	基盤研究(C)	27、28、29
科学研究費	馬場一幸助教	8K 映像による国宝修復記録の無期限保存方法に関する研究	若手研究(B)	27、28
科学研究費	馬定延外国人客員研	日本メディアアート史の再検証:	若手研究(B)	27、28、29

東京芸術大学映像研究科分析項目 I

	究員	1980年代以後を中心に		
科学研究費	布山毅教授	教員による実施可能な精神保健リテラシー教育の開発普及と思春期精神疾患予防の促進	基盤研究(B) 東京大学 佐々木司教授の研究分担	27、28、29
科学研究費	椎名ゆかり講師	MANGA<スタイル>の海外への伝播と変容	基盤研究(B) 明治大学 藤本由香里教授の研究分担	27、28、29、30
科学研究費	布山毅教授	学校教員を対象としたうつ病予防プログラムの開発とその効果	基盤研究(C) 東京大学 種市撰子特任助教の研究分担	27、28、29

特別研究員

種類	研究指導者	研究代表者	研究種目	年度
科学研究費	堀越謙三教授	長谷海平	特別研究員奨励費(DC2)	22、23
科学研究費	山村浩二教授	土居伸彰	特別研究員奨励費(PD)	24、25、26

※PDについては、平成26年度から間接経費が措置されている。

(水準)

期待される水準を大きく上回る

(判断理由)

各研究チームの、あるいは専任教員個々の映像研究科発足後、11年間にわたる研究活動は、当初の計画通り(あるいはそれ以上に)順調に推移している。

国内外の研究者・表現者との研究レベルでの交流も活発化しており、具体的な成果が出始めている(分析項目Ⅱの資料3-5参照)。また、競争的な外部資金を積極的に獲得しており、各プロジェクトとその成果は財政的な基盤をそれらに負っている(資料3-4参照)。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

観点 研究成果の状況

(観点に係る状況)

1.設置目的に見合った成果

本研究科の研究における特徴は、博士後期課程映像メディア学専攻を基礎とした研究組織で、映画製作の専門家、メディア芸術のアーティストといった「つくる」ことを現業としている専門家のみならず、情報工学や文化研究の異なった研究分野にわたる研究者を擁して、「つくる」という観点から映画をはじめとするメディア芸術に関する研究を学際研究として推進できる体制につくる。

これにより、他の研究機関では実施し難い学際領域、複合領域、境界領域における機動性の高い研究体制を実現している。さらにスタジオや上映室等を有し、社会と直結した新しい成果発表の場づくりも研究体制のなかにふくんでいる。

発足して11年で、映画(監督・作品)はもとより、メディア芸術などの分野においても、国際的にも独創的な表現形態を創出してきた。各専任教員や研究員の研究業績はそのことを如実に反映している。

資料3-5 主な研究業績一覧

黒沢清監督作品『岸辺の旅』(2015年・監督:黒沢清、共同脚本:宇治田隆史・黒沢清) ※研究業績説明書 業績番号1参照
周防正行監督作品『舞妓はレディ』(2014年・監督:周防正行、エグゼクティブプロデューサー:榎井省志) ※研究業績説明書 業績番号2参照
国宝源氏物語絵巻修復の映像記録(2014, 2015年・所蔵:徳川美術館、映像記録:馬場一幸) ※研究業績説明書 業績番号3参照
藤幡正樹『Voices of Aliveness2012 プロジェクト』(2012年・Voices of Aliveness 2012年プロジェクトの実施と、映像作品の制作) ※研究業績説明書 業績番号4参照
佐藤雅彦監修・短編映画「八芳園」(2014年 製作:佐藤雅彦、大原崇嘉、関友太郎、豊田真之、平瀬謙太郎) ※研究業績説明書 業績番号5参照
山村浩二監督 平面アニメーション(短編)作品「マイブリッジの糸」(2011年) ※研究業績説明書 業績番号6参照
布山タルト「KOMA KOMA」の開発と普及(2012年～継続中) ※研究業績説明書 業績番号7参照
岡本美津子、佐藤雅彦 NHK Eテレ「2355」「0655」の企画・制作(2011年4月～継続中) ※研究業績説明書 業績番号8参照

2. 研究成果の多様な発表形態

研究活動の成果は論文、著書等のみならず、上映、展示、シンポジウムなど多様な形態で公表される。また、これらの成果に裏付けられた教員の活動は国内外の国際的な映画祭や国際展覧会(ビエンナーレ)はもとより、学界、産業界あるいは国の文化芸術政策の中で高く評価されている。さらには二次流通しているコンテンツ商品も数多い。

平成22年度から平成27年度までの6年間に映像研究科の講師以上の教員に授与された賞は、国際的な映画祭やフェスティバル、学協会からの賞を含めてその数は41件に及び、教員1人あたり2.5件の賞を受けていることになる。

資料3-6 受賞例一覧(平成22~27年度)

職	氏名	受賞名	受賞対象作品名・部門	国内外の別		受賞年
				国内	国外	
教授	伊藤有壱	広島国際アニメーションフェスティバル こどものためにアニメーション3 招待上映	「ニャッキ！ゆきだるま」 株式会社 NHK エンタープ ライズ	○		平成22年
教授	藤幡正樹	平成21年度(第60回)芸術選奨文部 科学大臣賞	「Simultaneous Echoes」	○		平成22年
特別 教授	北野 武	フランス芸術文化勲章「コマンドール 章」叙勲			○	平成22年
教授	岡本美津子 佐藤雅彦	第14回文化庁メディア芸術祭 アート 部門審査委員会推薦作品	「Factory of Dream～夢をつ くる工場～」	○		平成23年
教授	佐藤雅彦	2011年度日本数学会賞出版賞	「日常にひそむ数理曲線 DVD-Book」	○		平成23年
教授	山村浩二	第15回トロント・リール・アジア国際映 画祭 NFB 最優秀カナダ映画賞 (NFB Best Canadian Film or Video Award) (カナダ)	「マイブリッジの糸」		○	平成23年
教授	山村浩二	第53回ビルバオ国際ドキュメンタリー・ 短編映画祭 アニメーション部門 銀賞 (スペイン)	「マイブリッジの糸」		○	平成23年
教授	山村浩二	第15回文化庁メディア芸術祭アニメ ーション部門 優秀賞	「マイブリッジの糸」	○		平成23年
教授	山村浩二	第18回エチューダ&アニメ国際映画 祭 偉大なる(過小)評価賞(ポーラ ンド)	「マイブリッジの糸」		○	平成23年
教授	山村浩二	第35回シンアニメ国際アニメーション 映画祭 審査員特別賞、RTP2 賞: Onda Curta (ポルトガル)	「マイブリッジの糸」		○	平成23年
教授	山村浩二	第14回タリン・ブラックナイツ映画祭:ア ニメテッド・ドリームス 審査員特別賞 II (エストニア)	「マイブリッジの糸」		○	平成23年
教授	山村浩二	第54回ライブチヒ国際ドキュメンタリー・ アニメーション映画祭 名誉賞(ドイツ)	「マイブリッジの糸」		○	平成23年
教授	佐藤雅彦	第15回文化庁メディア芸術祭アート部 門審査委員会推薦作品	「ballet rotoscope」	○		平成24年
教授	伊藤有壱	52th ZLIN FILM FESTIVAL アニメーシ ョン部門最優秀賞, 観客賞(チェコ)	「HARBOR TALE」		○	平成24年
教授	伊藤有壱	オタワ国際アニメーションフェスティバ ル子供向けテレビ部門入選(カナダ)	「ドロンコロン」		○	平成24年
教授	岡本美津子 佐藤雅彦	D&AD Professional Awards 2012 D&AD 賞(イギリス)	「NHK 教育テレビの番組「E テレ 2355」		○	平成24年
教授	岡本美津子	グッドデザイン賞2012 ベスト100	NHK 教育テレビ番組「テク ネ～映像の教室」	○		平成24年
教授	佐藤雅彦	2011年度芸術選奨 文部科学大臣賞 (メディア芸術部門)	NHK 教育テレビの番組「E テレ 2355」、「Eテレ 06 55」など	○		平成24年

東京芸術大学映像研究科分析項目Ⅱ

教授	山村浩二	ザグレブアニメーション映画祭 2012 GRAND PANORAMA 部門入選(クロアチア)	「マイブリッジの糸」		○	平成 24 年
教授	山村浩二	広島国際アニメーションフェスティバル 優秀賞	「マイブリッジの糸」		○	平成 24 年
教授	山村浩二	札幌国際短編映画祭インターナショナル・コンペティション作品部門入選	「マイブリッジの糸」		○	平成 24 年
教授	山村浩二	第 30 回(2012 年度)川喜多賞			○	平成 24 年
教授	山村浩二	第 36 回香港国際映画祭「火の鳥大賞」(短編映画部門グランプリ)(香港)	「マイブリッジの糸」		○	平成 24 年
教授	山村浩二	第 36 回香港国際映画祭短編映画部門コンペティション入賞及び Animation Unlimited プログラム正式上映(香港)	「マイブリッジの糸」		○	平成 24 年
教授	堀越謙三 (制作) 柳島克己 (撮影)	2012 年度カンヌ映画祭コンペティション部門入選(フランス)	アッバス・キアロスタミ監督 「LIKE SOMEONE IN LOVE」		○	平成 24 年
教授	藤幡正樹	アルス・エレクトロニカ インタラクティブ・アート部門優秀賞(オーストリア)	「Voices of Aliveness」		○	平成 25 年
教授	山村浩二	オタワ国際アニメーションフェスティバル Television Animation for Adults Category ノミネート(カナダ)	「古事記 日向篇」		○	平成 25 年
教授	佐藤雅彦	紫綬褒章			○	平成 25 年
教授	黒沢 清	ローマ国際映画祭シネマ21部門上映(イタリア)	「ビューティフル・ニュー・ベイエリア・プロジェクト」		○	平成 25 年
教授	黒沢 清	ローマ国際映画祭最優秀監督賞(イタリア)	「セブンスコード」		○	平成 25 年
教授	山村浩二	第 17 回文化庁メディア芸術祭 アニメーション部門 審査員会推薦作品	「古事記 日向篇」		○	平成 26 年
教授	山村浩二	モンストラ リスボン国際アニメーション映画祭 国際短編コンペティション・ノミネート(カナダ)	「古事記 日向篇」		○	平成 26 年
教授	山村浩二	ザグレブ国際アニメーション映画祭 依頼制作作品部門コンペティション・ノミネート(クロアチア)	「古事記 日向篇」		○	平成 26 年
教授	佐藤雅彦 (監修)	2014 カンヌ国際映画祭短編部門コンペティション・セレクション入選(フランス)	「八芳園」		○	平成 26 年
教授	山村浩二	第16回ヴィースバーデン国際アニメーション映画祭 ヴィースバーデン市文化局賞(ドイツ)			○	平成 26 年
教授	伊藤有壺	第 18 回文化庁メディア芸術祭 アニメーション部門 審査員会推薦作品	「Blue Eyes - in HARBOR TALE -」		○	平成 26 年
教授	黒沢 清	第 68 回カンヌ国際映画祭ある視点部門 監督賞(フランス)	「岸辺の旅」		○	平成 27 年
教授	黒沢 清	第33回川喜多賞			○	平成 27 年

教授	黒沢 清	第64回横浜文化賞(文化・芸術部門)		○		平成 27 年
教授	黒沢 清	第70回毎日映画コンクール作品部門 日本映画優秀賞	「岸辺の旅」	○		平成 28 年
教授	山村浩二	アヌシー国際アニメーション映画祭 Short Film in Competition 部門 入選 (フランス)	「"Parade" de Satie」		○	平成 28 年

3. 国際性・先進性・先導性

映像研究科における研究は個人作家の資質や才能に依存した成果だけでもすでに国際的であるという点では突出しているが、それに加えて、プロジェクト型の研究スキームを活用し、そこから関連領域に映像表現にとって重要なテーマを提供すると同時に作家の資質や才能を発見していくという点で世界的に見ても先進性がある。

また、映画製作や作品制作を主体とした作家主導の研究制作だけでなく、情報(入出力機器、インタフェース開発など)、ヒューマノイドに関する研究、あるいは都市計画などの社会システムに関わる研究、人間の存在と振る舞いを対象とする研究、認知科学や医学・医療との境界領域など、研究対象分野の多様性を考慮した研究スキームとその成果は、映像メディアの領域を表現という観点から切り開き分野の多様性をもたらしている点で先導性を兼ね備えている。

(水準) 期待される水準を大きく上回る

(判断理由)

本研究科における研究活動の結果は、「研究業績説明書」に示すように、「つくる」という観点を重視した「臨床知」を研究の対象とする基本方針に沿って、学術論文だけでなく上映や展示など多岐にわたる。また、学術論文のみならず国際的な映画祭やイベントに招聘された上映や展示あるいはワークショップが多いことも特徴である。そのうちのいくつかは、すでに国際的に高い評価を得ており、11名が合計41件の賞を受けている。さらに、この6年間に、国際的な映画祭やイベントなどにおける教員の招待講演も多く、国際的な研究交流活動に関しても十分に成果をあげている。

以上の点について、映像研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、「期待される研究水準を大きく上回る」と判断される。

Ⅲ 質の向上度の分析

研究成果への国内外からの高い評価（分析項目Ⅱ 研究成果の状況）

映像研究科における研究の質は、作品や展示などを含めた研究成果の先進性に現れるものであり、最終的には世界に対してどれだけ影響を与えたかというインパクトによって測られるべきである。前掲の資料3-6（受賞歴一覧）にあるように、映像研究科の教員は平成22年～27年の間に国内外で合計41件の賞を受けており、この多さは研究成果が国内外から非常に高く評価されたことを示している。

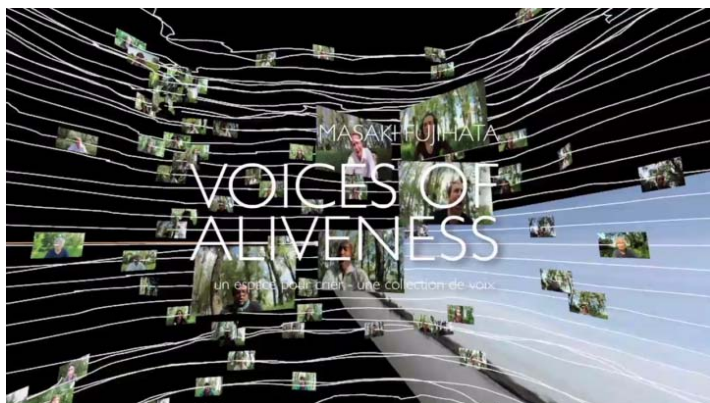
また質の向上度という点から見て特筆すべきは、各種受賞の中でも極めて水準の高い賞が含まれていることである。いくつかの例を挙げれば、第15回トロント・リール・アジア国際映画祭 NFB最優秀カナダ映画賞（NFB Best Canadian Film or Video Award）（「マイブリッジの糸」山村浩二、平成23年）アルス・エレクトロニカ インタラクティブアート部門優秀賞（「Voices of Aliveness」藤幡正樹、平成25年）、2014年カンヌ国際映画祭短編部門コンペティション・セレクション入選（「八芳園」佐藤雅彦、平成26年）、2015年カンヌ国際映画祭ある視点部門監督賞（「岸辺の旅」黒沢清、平成26年）などはいずれも極めて選択的で水準の高い賞である。これらの業績が研究活動全般に波及する効果は大きく、映像研究科全体として極めて高い研究の質を維持していると結論づけられる（資料3-5 主な研究業績一覧、別添資料「研究業績説明書」参照）。



マイブリッジの糸（山村浩二）



八芳園（佐藤雅彦）



Voices of Aliveness（藤幡正樹）